

江東区外国籍区民及び日本国籍区民 意識・意向調査

報告書

令和 4（2022）年



スポーツと人情が熱いまち

江東区

目 次

第1章 調査の概要	1
1. 調査実施の目的	3
2. 調査の種類	3
3. 調査方法と回収状況	3
4. 調査結果を見る上での注意事項	3
5. 標本誤差	4
第2章 調査結果からみえる考察	5
1. 回答者の属性分析	7
2. 日本語の状況	7
3. 江東区の定住意向と各サービスの評価	8
4. 日常生活	10
5. 防災関連	11
6. 地域とのつながり	11
第3章 外国籍区民調査結果の詳細	15
1. 回答者の属性	17
(1) 性別	17
(2) 年齢	17
(3) 国籍	18
(4) 家族構成	19
(5) 在留資格	20
(6) 職業	22
(7) 居住地域	22
(8) 住居形態	23
(9) 江東区での居住年数	23
2. 日本語の状況	24
(1) 日本語レベル	24
(2) 日本語の習得・勉強方法	28
(3) 日本語の学習意欲	29
(4) 日本語に関して困ること	30
(5) 日本人と話すときの対応方法	31
3. 江東区への定住意向と各サービスの評価	32
(1) 江東区への定住意向	32
(2) 江東区に住んで良かったこと	33
(3) 江東区の多文化共生サービスの評価	34
(4) 江東区が行っているサービスの認知度	36
(5) 情報の入手手段	37

(6) 江東区が発信している情報の満足度・必要度	39
(7) 多文化共生に向けて区に期待する取組	41
(8) 区以外が取り組んでいるサービスの認知度	43
4. 日常生活	44
(1) 日本での生活で困っていること・心配なこと	44
(2) 病院を利用する際に困ったこと	46
(3) 学校で困ったこと	48
(4) 日常生活で困っていることがあった場合の相談相手	49
(5) 日本人からの差別の経験	51
5. 防災関連	55
(1) 災害への備え	55
(2) 避難所の認知度	55
(3) 防災訓練の認知度	57
6. 地域とのつながり	58
(1) 町会・自治会への加入状況	58
(2) 町会・自治会活動への参加状況と参加しない理由	59
(3) 地域に暮らす日本人との交流	61
(4) 外国人同士の交流	64
(5) 地域の中で活動してみたいこと	66
(6) ボランティアなどの協力意向	68
(7) 相互理解のために、日本人に求めること	68

第4章 日本国籍区民調査結果の詳細 69

1. 回答者の属性	71
(1) 性別	71
(2) 年齢	71
(3) 家族構成	72
(4) 職業	73
(5) 居住地	73
(6) 江東区での居住年数	74
2. 江東区への定住意向と各サービスの評価	75
(1) 江東区への定住意向	75
(2) 江東区に住んで良かったこと・助かったこと	77
(3) 多文化共生サービスの認知度	79
(4) 区以外が取り組んでいるサービスの認知度	80
(5) 多文化共生に向けて区に期待する取組	81
3. 日常生活	83
(1) 外国人が日本での生活で困っていると思うこと	83
4. 防災関連	85
(1) 災害への備え	85

(2) 避難所の認知度	86
5. 地域とのつながり	87
(1) 町会・自治会への加入状況	87
(2) 地域に暮らす外国人との交流	88
(3) やさしい日本語の認知度	90
(4) 東京都つながり創生財団の認知度	90
(5) 姉妹都市（カナダのサレー市）の認知度	90
(6) 日本語以外で話せる言語と通訳・翻訳ボランティアなどの協力意向	91
(7) 外国人が地域に増えることによるメリット	92
(8) 外国人とコミュニケーションをとりやすくなるきっかけ	93
(9) 外国人が地域に増えることでの心配や不安	93
(10) 相互理解のために、外国人に求めること	94

第5章 共通設問の比較 95

1. 江東区への定住意向と各サービスの評価	97
(1) 江東区への定住意向	97
(2) 江東区に住んで良かったこと	98
(3) 多文化共生に向けて区に期待する取組	99
(4) 区以外が取り組んでいるサービスの認知度	100
2. 日常生活	101
(1) 日本での生活で困っていること・心配なこと	101
3. 防災関連	102
(1) 災害への備え	102
(2) 避難所の認知度	102
4. 地域とのつながり	103
(1) 町会・自治会への加入状況	103
(2) 地域に暮らす日本人との交流	103
(3) 日本人と関わる場面	104
(4) ボランティアなどの協力意向	104
(5) 相互理解のために、相互に求めること	105

第 1 章 調査の概要

1. 調査実施の目的

多文化共生のまちづくりを推進するにあたり、外国籍区民、日本国籍区民の生活の実態や区政への意見・要望を把握し、今後の施策への参考とするため、調査を実施した。

2. 調査の種類

調査名	調査対象
1. 外国籍区民調査	区内在住の満18歳以上の外国籍区民5,000名
2. 日本国籍区民調査	区内在住の満18歳以上の日本国籍区民2,000名

3. 調査方法と回収状況

調査方法：郵送によるアンケート調査

抽出方法：居住地域および国籍ごとに住民基本台帳から無作為抽出

(対象者数の比率に応じて発送数を設定)

調査期間：令和3年7月20日（火）～8月13日（金）

<回収状況>

調査票の種類	発送数	回収数	回収率
外国籍:中国語（繁体字）	400件	159件	39.8%
中国語（簡体字）	2,000件	603件	30.2%
韓国語	800件	186件	23.3%
ベトナム語	600件	122件	20.3%
英語	1,200件	443件	36.9%
合 計	5,000件	1,513件	30.3%
日本国籍	2,000件	920件	46.0%

4. 調査結果を見る上での注意事項

- ・本文、表、グラフなどに使われる「n」は、調査票の回収数である。
- ・集計は小数点第2位を四捨五入し、小数点第1位まで表示した。したがって、単一回答（1つだけ選ぶ設問）においても、回答比率の合計は必ずしも100%にならない場合がある。
- ・複数回答（2つ以上選んでよい設問）においては、回答比率の合計が100%を超える場合がある。
- ・本文、表、グラフは、表示の都合上、調査票の選択肢等の文言を一部簡略化している場合がある。
- ・回答者数が30人未満の場合、比率が上下しやすいため、傾向を見るにとどめ、本文中では触れていない場合がある。
- ・本報告書では、国籍が日本以外の者を広義で「外国人」と定義し、そのうち調査対象者を「外国籍区民」と定義している（「日本人」、「日本国籍区民」についても同様）。

第1章 調査の概要

- ・複数回答の設問で、例のようなクロス集計表を掲載している場合がある。該当設問の選択肢を表の上部に記載し、傾向を把握したい項目を左側に記載している。項目ごとに

該当設問の選択肢

(例)

《複数回答》		n	同じ出身のコミュニティグループ	職場の仲間	学校や習い事教室の仲間	子育て仲間	その他	とくに決まったグループや仲間はいない	無回答
全体		1,513	40.6	35.6	12.2	12.1	1.9	32.7	3.2
地域別 居住	深川地区	407	36.4	35.6	11.5	10.6	2.5	35.1	3.7
	城東地区	741	43.0	37.4	11.5	11.9	1.5	31.6	3.4
	臨海地区	324	41.0	31.8	14.5	14.2	1.9	31.2	2.8

傾向を把握したい項目

横軸で構成比を算出しており、かつ複数回答でもあるため縦横の合計が100%を超える場合がある。ただし、単一回答でも見やすさから表を使用している場合もあるが、その際は横軸で構成比を算出しているので合計が100%となる。

5. 標本誤差

標本誤差とは、今回のように全体（母集団）の中から一部を抽出して行う標本調査において、全体を対象に行った調査と比べて調査結果に差が生じることがあり、その誤差のことをいう。この誤差は、標本の抽出方法や標本数によって異なるが、その誤差を数学的に計算することが可能である。その計算式を今回の調査に当てはめて算出したのが以下の表である。

例えば、「有効回答者が1,513人で、ある質問中の選択肢の回答比率が40.0%であった場合、その回答比率の誤差の範囲は約95%の確率で±2.52%以内（37.48%～42.52%）である」とみることができる。

【算出式】

$$b = 2 \sqrt{\frac{N-n}{N-1} \times \frac{P(1-P)}{n}}$$

b = 標本誤差
 N = 母集団数（江東区の外国人人口）
 n = 比率算出の基数（回答者数）
 P = 回答の比率（0 ≤ P ≤ 1）

【早見表】

回答の比率 (P) 基数 (n)	10%または 90%前後	20%または 80%前後	30%または 70%前後	40%または 60%前後	50%前後
1,513	± 1.54	± 2.06	± 2.36	± 2.52	± 2.57
1,000	± 1.90	± 2.53	± 2.90	± 3.10	± 3.16
920	± 1.98	± 2.64	± 3.02	± 3.23	± 3.30
700	± 2.27	± 3.02	± 3.46	± 3.70	± 3.78
500	± 2.68	± 3.58	± 4.10	± 4.38	± 4.47
300	± 3.46	± 4.62	± 5.29	± 5.66	± 5.77
100	± 6.00	± 8.00	± 9.17	± 9.80	± 10.00

(注) Nはnより非常に大きく、 $\frac{N-n}{N-1} \div 1$ とみなせるので、 $\frac{N-n}{N-1} = 1$ として計算した。

第2章 調査結果からみえる考察

1. 回答者の属性分析

<調査結果からみえる現状>

- ・国籍は、「中国」が38.9%と最も多く、以下、「韓国」(12.2%)、「インド」(11.1%)、「台湾」(10.3%)、「フィリピン」(10.3%)となり、それぞれ1割を超えている(P18参照)。
- ・在留資格は、『身分に基づく在留資格』(回答のうち「永住者」、「特別永住者」、「日本人の配偶者」、「定住者」)が50.1%と最も多く、以下、『就労目的』(回答のうち「技術・人文知識・国際業務」、「高度専門職」)が26.8%、『留学/家族滞在』(回答のうち「留学」、「家族滞在」)が14.9%となっている(P21参照)。
- ・居住地域は「城東地区」(49.0%)が半数近くとなっており、「深川地区」(26.9%)、「臨海地区」(21.4%)と続いている(P22参照)。
- ・居住年数は「1～3年未満」が22.4%で最も多く、以下、「3～5年未満」(19.1%)、「5～10年未満」(17.4%)、「10～20年未満」(16.2%)と続いている(P23参照)。

2. 日本語の状況

■日本語レベルの詳細

<調査結果からみえる現状>

- ・最低限の日常生活を送ることができる日本語レベルがあるかどうかを判断するために、【話す】と【聞く】の項目に着目し、『できる』(回答のうち「よくできる」、「だいたいできる」)と『できない』(回答のうち「あまりできない」、「まったくできない」)を比較すると、『できる』は7割を超えているのに対して、『できない』は2割台にとどまっている(P24参照)。
- ・日本語レベルを国籍別にみると、【インド】と【ベトナム】以外は『できる』割合が比較的高い(P25、26参照)。
 - ※「インド」と「ベトナム」は、在留資格【留学/家族滞在】の割合が比較的高く、また、江東区での居住年数が【5年未満】と居住年数の短い人の割合が高い(P18、21参照)。
 - また、日本語の習得方法が「インターネット(オンライン)で勉強している」と回答している割合が4割を超えており、他の国籍と比べて高くなっている(P28参照)。
- ・日本語レベルを居住年数別にみると、居住年数【3年未満】の層は、日本語レベル(【聞く】【話す】)が『できない』と答える割合が3割前後いる(P25、27参照)。
- また、【聞く】と【話す】が『できない』のうち、「区役所や病院などでの説明の理解」で困るという方が8割近くとなっている(P30参照)。
- ・日本語の習得・勉強方法は、「職場で教えてもらう」が27.0%で最も多く、次いで「日本語学校で勉強している」は23.8%、「インターネット(オンライン)で勉強している」は21.6%となっているが、「日本語教室で勉強している」は13.0%にとどまる(P28参照)。
- ・【話す】と【聞く】が『できない』と回答した方の日本語の学習意欲は、『学びたい』(回答のうち「積極的に学びたい」、「機会があれば学びたい」)の割合が9割近くとなっている(P29参照)。

第2章 調査結果からみえる考察

《課題》

後述するが、日本語について『できない』と回答した人は、日常生活でも困りごとが多くなる傾向にある一方で、日本語の学習意欲が高いことから、外国籍区民が日本語を学べる環境の整備を行う必要がある。また、「日本語教育の推進に関する法律」において、日本語教育を推進する責務を負う者として、“国”“自治体”“事業主”の3者を明示していることから、事業主等に対して法の周知を行う必要がある。

3. 江東区の定住意向と各サービスの評価

■各種サービスの認知度と情報の入手手段

＜調査結果からみえる現状＞

- ・外国籍区民の定住意向では、「ずっと住みたい」が63.8%で最も多く、「当分は住みたい」(29.5%)を合わせた『住みたい』は9割を超える（P32参照）。
- ・江東区が行っている各種サービスの認知度では、「ごみ捨ての翻訳案内」が39.8%で最も多く、「江東暮らしガイド外国版」(36.6%)も3割を超えているが、その他のサービスの認知度は3割以下となっている。また、「国民健康保険の翻訳案内」や「住民税の翻訳案内」など、社会制度に関する認知度は1割台と低くなっている（P36参照）。
- ・江東区が行っている各種サービスの認知度は、全体としては低いながらも、地域別にみると、【城東地区】での認知度が比較的高い傾向にある（P36参照）。
- ・情報の入手手段では、「友人・知人」(43.8%)や「学校や職場の同僚」(27.2%)などの人伝えの情報入手が比較的多く、それ以外では、「こうとう区報」(32.6%)、「テレビ・ラジオ」(30.7%)、「区のホームページ」(26.0%)、「SNS」(25.2%)など、各種媒体の割合が比較的高くなっている。一方で、「町会・自治会の掲示板」(11.0%)や「江東区の広報掲示板」(10.2%)は1割程度にとどまる（P37参照）。
- ・区以外が取り組んでいるサービスの認知度では、「知らない」が89.0%を占めている（P43参照）。

《課題》

外国籍区民の定住意向はとても高く、9割を超えているが、一方で、社会制度に関する情報などの認知度が低く、情報を得ることができないことが外国籍区民の困りごとにつながっている状況が読み取れるため、多言語翻訳ややさしい日本語で情報提供するなど、案内方法を検討していく必要がある。また、情報の入手手段としては、「こうとう区報」や「区のホームページ」、「SNS」などが比較的多い傾向であることから、多様な媒体による周知方法も合わせて検討していく必要がある。

■区に期待する取組

<調査結果からみえる現状>

- ・多文化共生に向けて区に期待する取組を外国籍区民と日本国籍区民で比較してみると、多くの項目で外国籍区民の方が日本国籍区民より割合が高くなっており、特に、「日本人に対して外国人への偏見や差別などをなくすための意識を啓発する」(56.8%)、「やさしい日本語を推進する」(54.7%)、「法律や労働などの専門分野について多言語で相談できる内容を増やす」(52.5%)が5割以上と高い割合となっている。一方、日本国籍区民では、「日本での生活習慣（ごみの正しい出し方など）を教える」(66.4%)の割合が突出して高くなっている（P41、81、99参照）。

《課題》

外国籍区民が区に期待していることを大きく括ると、外国人に対する理解の促進やわかりやすい情報提供となっていることが読み取れる。外国人に対する理解の促進については、イベント交流や地域活動への参画などにより外国人が地域に馴染むことができるようになることが課題解決の一つとなり得る。わかりやすい情報提供については、多様な媒体による周知方法の検討ややさしい日本語などを利用した案内方法を検討していく必要がある。

4. 日常生活

■日常生活での困りごとと相談相手について

<調査結果からみえる現状>

- ・日本での生活で困っていること・心配なことでは、「健康保険・年金・税金などの仕組みがわかりにくい」が42.8%で最も多く、「病院・医療でのコミュニケーションがうまくとれない」(34.5%)も多くなっている。居住年数別にみると、【3年未満】の層が多く項目で割合が高い傾向にある(P44、45参照)。
- ・日常生活で困っていることがあった場合の相談相手では、「知人・友人(同じ国籍の人)」が59.2%で最も多く、「家族・親戚」(55.1%)も5割を超えている(P49参照)。

<<課題>>

日本語レベルの向上が外国籍区民の困りごとの解決方法の一つとなり得ることが考えられることから、外国籍区民が日本語を学べる環境の整備を検討していく必要がある。一方で、受け入れ側も外国籍区民が困っている場面(区役所での対応や病院等)では、進んでやさしい日本語でコミュニケーションをとるなどの意識啓発を検討していく必要がある。

また、多くの外国籍区民が、困りごとがあった場合に友人や家族に頼っていることから、相談先として「区」以外にも「東京都つながり創生財団」等が選択肢に入るように、外国籍区民に対するサポートについて多様な媒体を利用した周知を検討する必要がある。

■差別の経験について

<調査結果からみえる現状>

- ・日本人からの差別の経験では、「ときどきある」が42.6%で最も多く、「よくある」(3.8%)を合わせた『ある』は46.4%と半数近くとなっている(P51参照)。
- ・国籍別にみると、『ある』は【アメリカ】(55.4%)、【韓国】(59.3%)、【台湾】(61.5%)で多くなっている(P51参照)。
- ・偏見・差別を感じた場面として、【アメリカ】の方は、「家を探すとき」(55.6%)や「外に出ているとき」(47.2%)が多くなっている。一方、【中国】、【台湾】、【フィリピン】の方は、「仕事をしているとき」が4割を超えている(P53参照)。
- ・偏見・差別をなくすために必要なことは、「お互いの生活習慣の違いを認め合うこと」が64.0%で最も多く、次いで「お互いの文化を知る」(62.5%)、「お互いを認め合う教育を進める」(60.8%)など、相互理解を求める意見が多くなっている(P54参照)。

<<課題>>

日本人は、多様性という意味で外国人に対する理解を促進していく必要がある。また、外国籍区民が日本や日本人に対する理解を深められるよう、国や東京都をはじめ、区としても情報発信等を通じて相互理解の支援について、国や東京都との連携を検討していく必要がある。また、仕事の機会での差別経験も多くあることから、事業主等が外国人材を円滑に受け入れられる環境づくり(日本語教育、相互理解のための研修等)を関連機関と連携して進めていくことを検討する必要がある。

5. 防災関連

■避難場所について

＜調査結果からみえる現状＞

- ・避難場所の認知度では、日本国籍区民は「知っている」が80.5%であるのに対して、外国籍区民は「知っている」が55.8%、「知らない」が42.2%となっている（P55、86参照）。
- ・外国籍区民の避難場所の認知度を居住年数別にみると、居住年数が短いほど「知らない」割合が高くなる傾向にある（P56参照）。
- ・また、町会・自治会の加入状況別にみると、町会・自治会に【入っている】層では「知っている」が72.3%であるのに対して、【入っていない】層では59.2%、町会・自治会の存在を【知らない】層では41.5%となり、町会・自治会の加入者の認知度が高くなっている（P56参照）。

＜課題＞

外国籍区民の4割以上が避難所を知らない状況にあり、日本国籍区民と比較しても避難所を知らない割合が高くなっていることから、地震等の自然災害が多い日本における日本国籍区民と外国籍区民の防災に対する意識に差があることが考えられる。避難所の認知度向上を図るために、多様な媒体を使って、避難所や災害への備えの重要性を周知する必要がある。また、町会・自治会に入っていない外国籍区民が、避難所を知らない割合が高い傾向にあることから、有事に備えるという観点からも地域とのつながりを築くための検討が必要である。

6. 地域とのつながり

■地域活動の参加について

＜調査結果からみえる現状＞

- ・町会・自治会活動への参加状況では、「参加していない」が81.4%と最も多くなっている（P59参照）。
- ・居住年数別にみると、居住年数が短いほど「参加していない」割合が高く、【3年未満】になると9割以上となっている（P59参照）。
- ・地域活動に参加しない理由では、「参加の仕方がわからない」が49.2%で最も多く、次いで「活動に関する情報が少ない」（40.7%）、「活動に誘われない」（39.8%）となっている（P60参照）。
- ・地域の中で活動してみたいことでは、「とくに活動したくない」と「無回答」を除いた『何らかの活動をしてみたい』と回答した外国籍区民が約7割となっている（P66参照）。

＜課題＞

地域活動への参加意向は高いものの、情報が少ないため地域活動に参加できない外国籍区民が多いことが考えられる。区役所での窓口対応時（江東区への転入時や転居時など）に町会・自治会への加入や各種制度、イベントに関するチラシを提供するなど、外国籍区民と接触する機会を有効に活用しながら、周知を行っていくことも検討していく必要がある。

第2章 調査結果からみえる考察

■日本人との交流について

<調査結果からみえる現状>

- ・地域に暮らす日本人（日本国籍区民調査では「外国人」と交流する機会について、「たくさんある」と「少しある」を合わせた『ある』の割合は、外国籍区民が54.0%に対して、日本国籍区民は15.3%と大きな差がある（P61、88参照）。
- ・国籍別にみると、『ある』は【アメリカ】（73.9%）や【中国】（60.2%）などで割合が高くなっているが、【ベトナム】（35.0%）が3割台と低くなっている（P61参照）。
- ・居住地域別に見ると『ある』は【深川地区】で58.0%と他地域よりも割合が高くなっている（P62参照）。
- ・町会・自治会への加入状況別にみると、『ある』は町会・自治会に【入っている】層で72.7%と他層よりも大幅に多くなっている（P62参照）。
- ・外国籍区民が日本人と関わる場面では、「仕事するとき」が65.4%で最も多く、次いで「お店でサービスを受けるとき」（57.5%）、「近所づきあい」（52.4%）となっている（P63参照）。
一方、日本国籍区民調査と比較すると、日本国籍区民が外国人と関わる場面は、「地域活動（町会・自治会含む）」（36.9%）や「近所づきあい」（36.2%）が多くなっている（P89参照）。
また、外国籍区民で「地域活動（町会・自治会含む）」と回答した割合は全体で15.2%と低くなっているが、町会・自治会への加入状況別にみると、外国籍区民で町会・自治会に【入っている】層では、「地域活動（町会・自治会含む）」と回答した割合は41.0%と大幅に高くなっている（P63参照）。

《課題》

町会・自治会への加入と日本人との交流機会には関係性があると考えられる。町会・自治会への加入に向けて、意識啓発とわかりやすい周知に取り組み、対応していく必要がある。また、日本語を話すことができる外国籍区民が多い一方、受け入れ側が外国籍区民への対応について、言葉の壁による課題を感じていることも想定される。区としては関係機関と連携し、外国籍区民の現状（日本語レベル等）を周知し、やさしい日本語を推進することで、お互いの交流促進につながっていくと考えられる。

■外国人と日本人の相互理解について

＜調査結果からみえる現状＞

- ・相互理解のために日本国籍区民が外国人に求めることとして、「生活ルールを知ってほしい」(69.7%)と「日本の文化、生活習慣を理解してほしい」(61.0%)の2項目の回答割合が6割以上と他の項目より大幅に高くなっている(P94参照)。
- ・一方、外国籍区民は、「自分たちの文化、生活習慣を理解してほしい」(38.2%)や「日本語、日本の習慣を紹介してほしい」(37.0%)など、自身の理解を求めるのと同程度、日本のことを理解しようとしていることがわかる(P68参照)。
- ・日本国籍区民に外国人が地域に増えることによるメリットをきいたところ、「地域内の多様性が広がる」が39.8%で最も多く、僅差で「外国の言葉・文化等を知る機会が増える」(39.0%)、「外国のことに関心を持つようになる」(38.5%)が続いている(P92参照)。
- ・一方、日本国籍区民に外国人が地域に増えることでの心配や不安をきいたところ、「外国人が日本で生活するルールや習慣を知らずにトラブルが起きてしまうこと」(69.9%)や「犯罪や不法滞在者が増えるかもしれないこと」(51.5%)など、トラブル関連を懸念していることがわかる。これは、お互いの相互理解が進んでいないために生じる認識の差が一因であると考えられる(P93参照)。
- ・なお、日本国籍区民に外国人とコミュニケーションをとりやすくなるきっかけをきいたところ、「お祭りなどのイベント」(56.5%)が最も多く、次いで「町会・自治会活動」(31.2%)、「ボランティア活動」(26.8%)、「クラブ・サークル活動」(25.3%)となっている(P93参照)。

＜課題＞

外国籍区民は自身の文化等の理解を求めると同時に、日本のことを理解しようとする傾向にあり、日本人に歩み寄る意識が伺える。一方、日本国籍区民は外国人に対する理解不足により、漠然とした不安を抱えている傾向にある。これらは相互理解を進めていくことで解決できる課題だと考えられる。そのため、コミュニケーションのきっかけとなり得るお祭りやイベントなどへの参加の機会を設けていくことで、地域内での交流等を促す必要がある。

第3章 外国籍区民調査結果の詳細

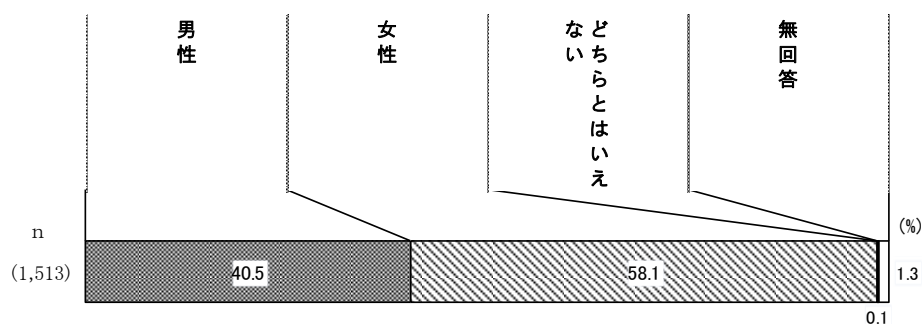
1. 回答者の属性

(1) 性別

F 1 あなたの性別をお答えください。【〇は1つだけ】

性別は「男性」が40.5%、「女性」が58.1%となっている。

《単一回答》

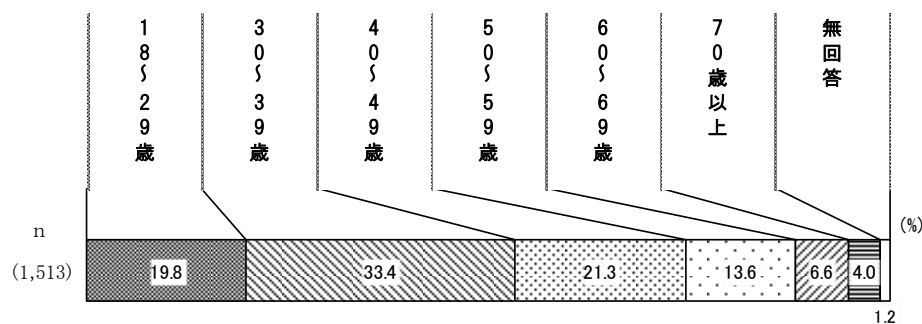


(2) 年齢

F 2 あなたの年齢をお選びください。【〇は1つだけ】

年齢は、「30～39歳」が33.4%で最も多く、『40歳未満』(53.2%)が過半数を占めている。

《単一回答》



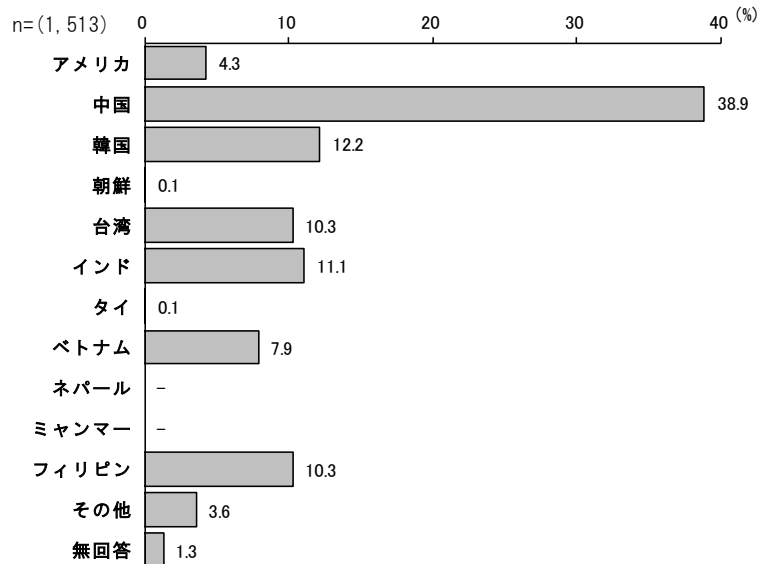
第3章 外国籍区民調査結果の詳細

(3) 国籍

F3 あなたの国籍・地域をお選びください。【〇は1つだけ】

国籍・地域は「中国」が38.9%と最も多く、次いで「韓国」(12.2%)、「インド」(11.1%)、「台湾」(10.3%)、「フィリピン」(10.3%)となっている。

《単一回答》



〈 居住地域別、居住年数別／国籍 〉

居住年数別にみると、「インド」と「ベトナム」は、【5年未満】の比較的居住年数の短い人の割合が高い。

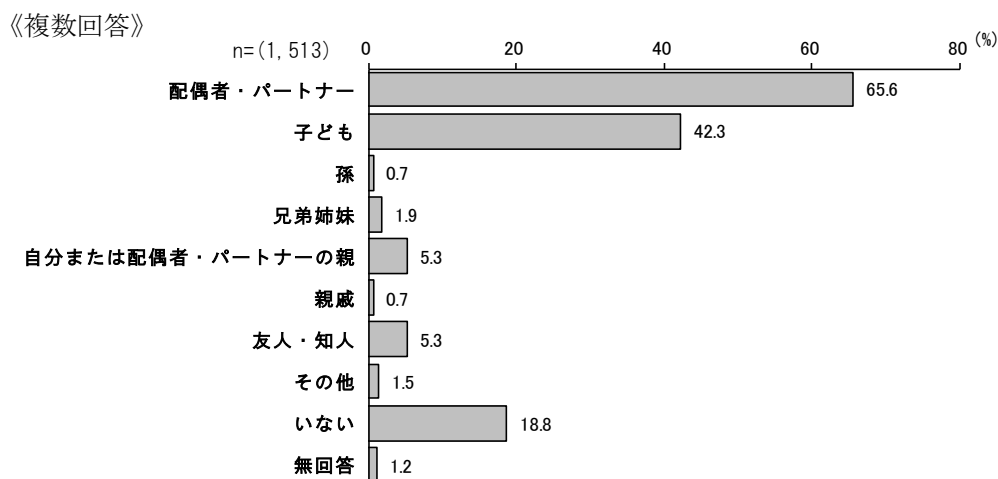
《単一回答》		n	アメリカ	中国	韓国	朝鮮	台湾	インド	タイ	ベトナム	ネパール
全体		1,513	4.3	38.9	12.2	0.1	10.3	11.1	0.1	7.9	-
地域別 居住	深川地区	407	8.1	35.4	11.8	-	12.5	4.2	-	8.8	-
	城東地区	741	1.3	40.5	10.7	0.1	10.3	16.6	0.1	8.0	-
	臨海地区	324	6.8	40.4	14.5	-	8.6	7.4	-	6.8	-
	居住年数別										
	1年未満	190	4.2	36.3	5.8	-	11.6	12.6	-	16.3	-
	1～3年未満	339	4.1	34.8	8.0	-	11.5	13.3	0.3	16.2	-
	3～5年未満	289	2.4	42.9	11.8	-	10.4	15.2	-	8.7	-
	5～10年未満	263	6.8	47.1	9.5	-	8.4	13.3	-	2.7	-
	10～20年未満	245	4.1	43.3	13.1	-	7.8	7.3	-	-	-
	20年以上	167	4.8	22.2	30.5	0.6	13.8	1.2	-	0.6	-

		n	ミャンマー	フィリピン	その他	無回答
全体		1,513	-	10.3	3.6	1.3
地域別 居住	深川地区	407	-	10.6	7.1	1.5
	城東地区	741	-	10.3	0.9	1.2
	臨海地区	324	-	9.0	5.2	1.2
	居住年数別					
	1年未満	190	-	7.9	4.2	1.1
	1～3年未満	339	-	7.1	3.8	0.9
	3～5年未満	289	-	3.8	4.5	0.3
	5～10年未満	263	-	9.5	1.5	1.1
	10～20年未満	245	-	15.1	6.5	2.9
	20年以上	167	-	24.0	0.6	1.8

(4) 家族構成

F 4 あなたが現在一緒に住んでいる人はどなたですか。【〇はあてはまるものすべて】

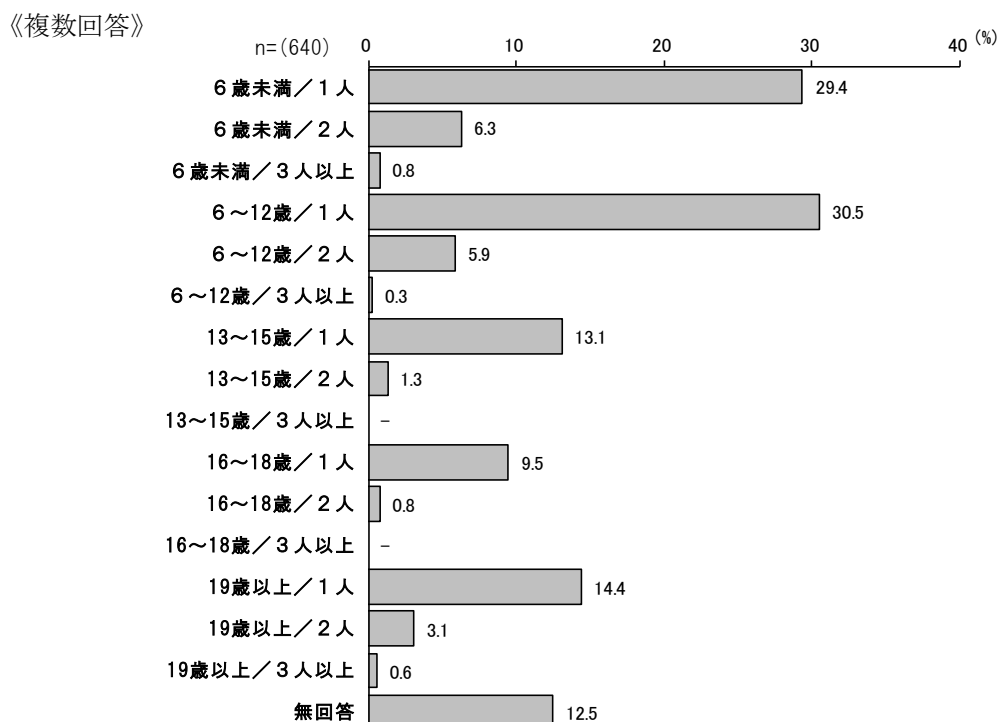
「配偶者・パートナー」が65.6%と最も多く、次いで「子ども」が42.3%と続く。その他の親族等は1割未満となっている。なお、「いない」と「無回答」を除いた80.0%が誰かと同居している。



F 4で「2. 子ども」と回答した方が対象

あなたのお子さんの年齢をお選びいただき、人数をお書きください。
 【〇はあてはまるものすべてにつけ、() 内に人数をご記入ください】 ※調査票のF 4-1

対象者（回答者）の過半数が40歳未満であるという一因もあり、その子どもの年齢は、「6～12歳」が36.7%、「6歳未満」が36.5%で、人数はいずれも「1人」が大部分を占めている。

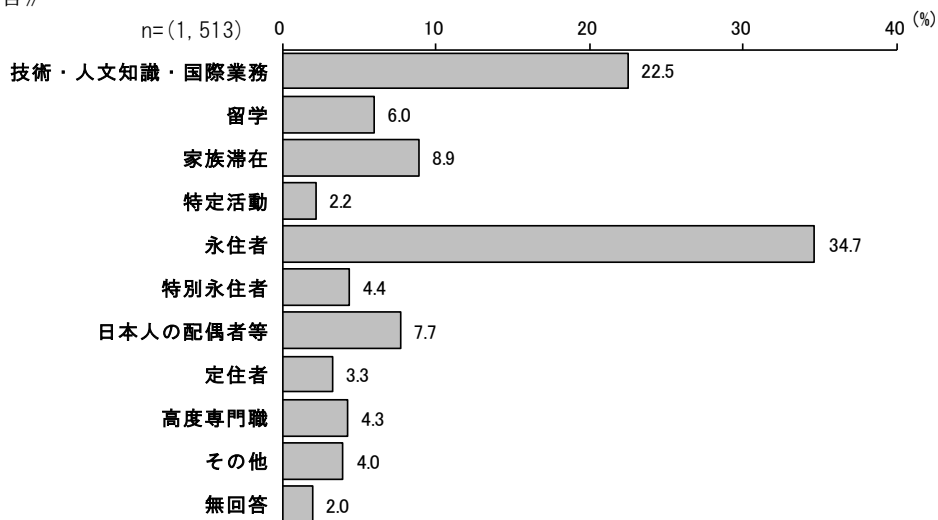


(5) 在留資格

F 5 あなたの日本での在留資格を選んでください。【〇は1つだけ】

日本での在留資格は、「永住者」が34.7%と最も多く、「技術・人文知識・国際業務」が22.5%でこれに次ぐ。他の資格はいずれも1割未満となっている。

《単一回答》



【在留資格4区分】

以下の通り、目的別に在留資格を区分した。

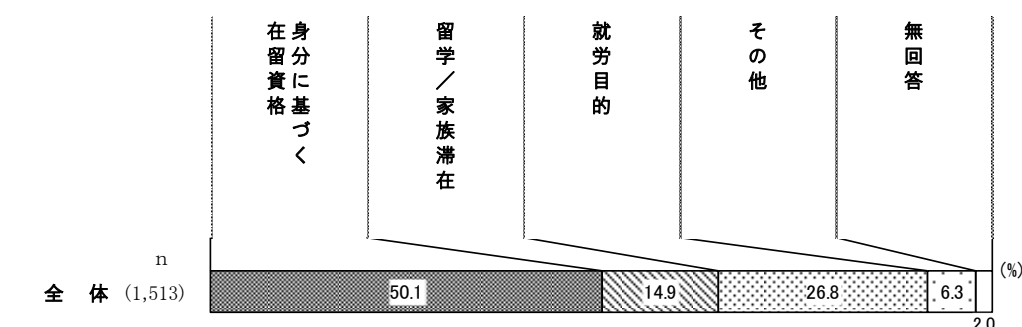
区分	該当する選択肢
身分に基づく在留資格	永住者、特別永住者、日本人の配偶者、定住者
留学/家族滞在	留学、家族滞在
就労目的	技術・人文知識・国際業務、高度専門職
その他	特定活動、その他

その結果、『身分に基づく在留資格』が50.1%と最も多く、次いで『就労目的』が26.8%、『留学/家族滞在』が14.9%となっている。

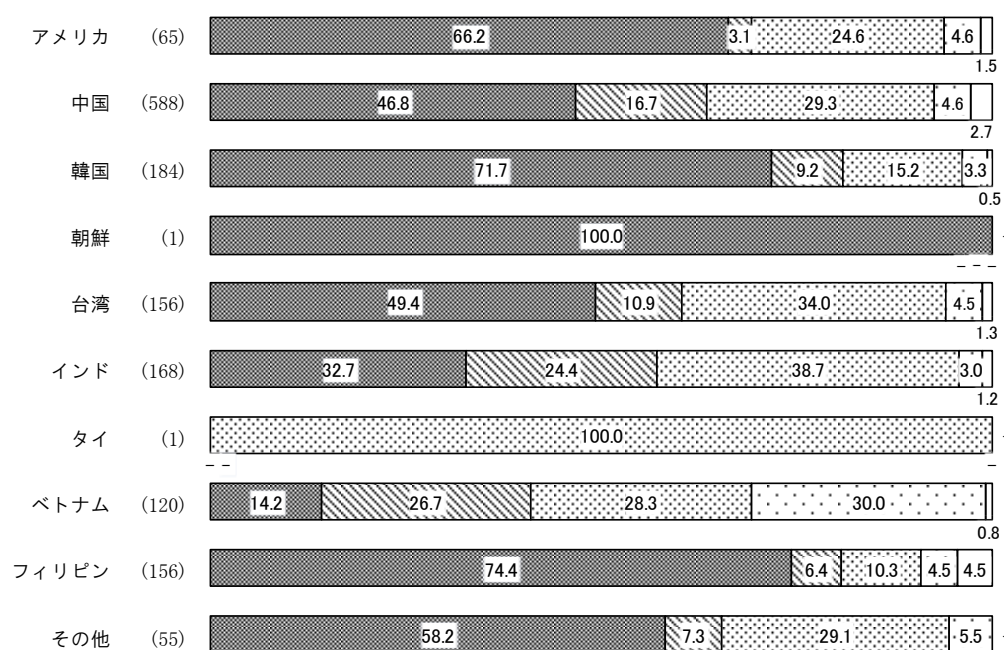
〈 国籍別／在留資格 〉

国籍別にみると、『身分に基づく在留資格』は【フィリピン】(74.4%)、【韓国】(71.7%)、【アメリカ】(66.2%)、『就労目的』では【インド】(38.7%)と【台湾】(34.0%)、『留学/家族滞在』では【ベトナム】(26.7%)と【インド】(24.4%)も割合がそれぞれ他層より高くなっている。

《単一回答》



【国籍別】



※基数が少ない「朝鮮」、「タイ」は参考までに掲載している。

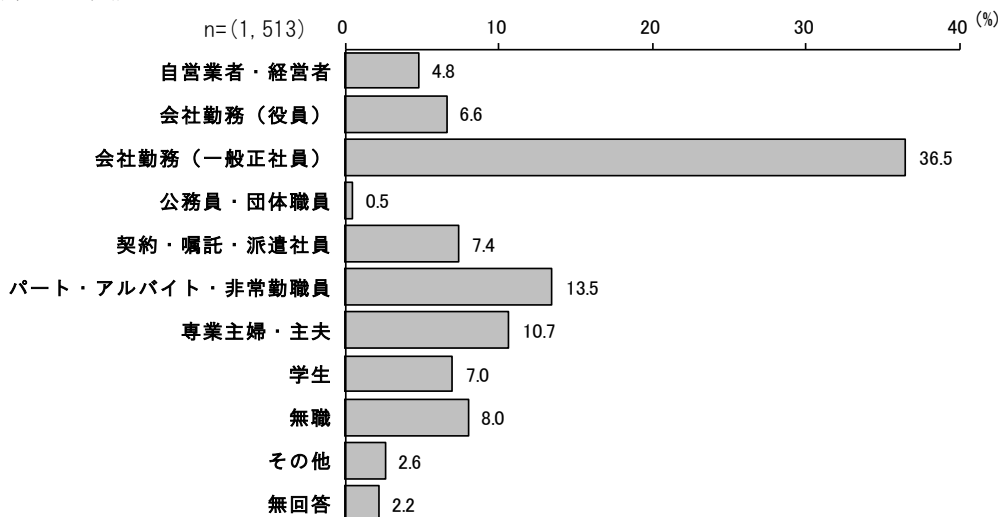
第3章 外国籍区民調査結果の詳細

(6) 職業

F 6 あなたの職業は次のどれですか。2つ以上あてはまる場合は、主な職業を選んでください。【〇は1つだけ】

職業は、「会社勤務（一般正社員）」が36.5%と最も多く、以下、「パート・アルバイト・非常勤職員」（13.5%）、「専業主婦・主夫」（10.7%）となっている。

《単一回答》

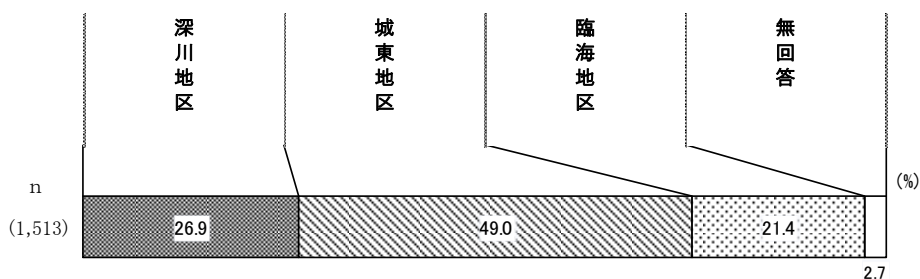


(7) 居住地域

F 7 あなたはどの地区に住んでいますか。【〇は1つだけ】

居住地域は「城東地区」（49.0%）が半数近くとなっており、「深川地区」（26.9%）、「臨海地区」（21.4%）となっている。

《単一回答》

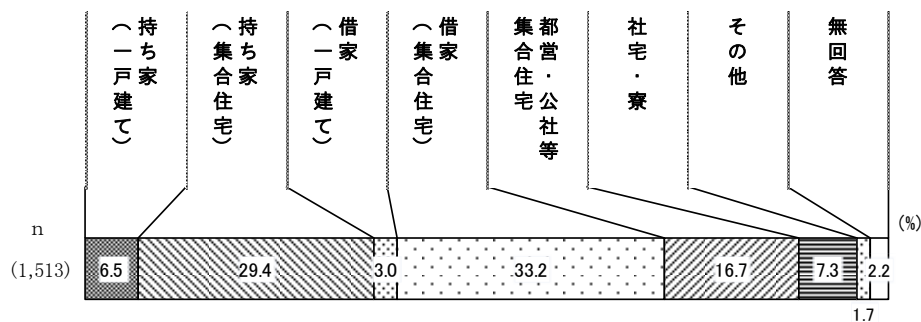


(8) 住居形態

F8 あなたのお住まい(住居)は次のどれですか。【〇は1つだけ】

住居形態は、「借家(集合住宅)」(33.2%)と「持ち家(集合住宅)」(29.4%)の2つが特に多くなっている。

《単一回答》

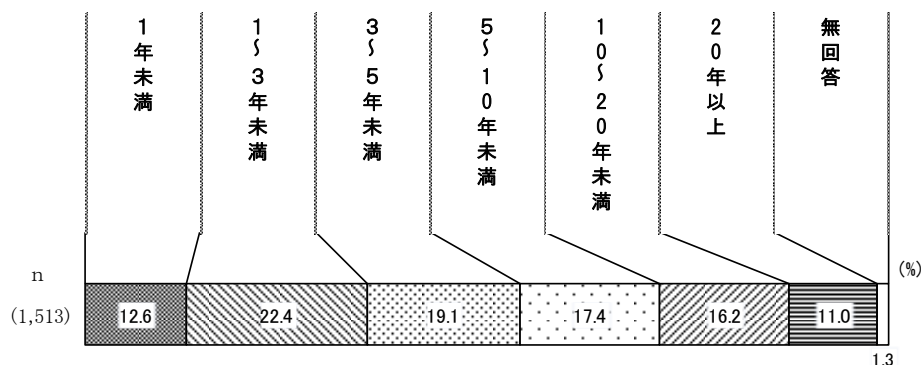


(9) 江東区での居住年数

F9 あなたは、どのくらい江東区に住んでいますか。転入・転出を繰り返している場合は合計してお答えください。【〇は1つだけ】

居住年数は「1～3年未満」が22.4%で最も多く、以下、「3～5年未満」(19.1%)、「5～10年未満」(17.4%)、「10～20年未満」(16.2%)となっている。

《単一回答》



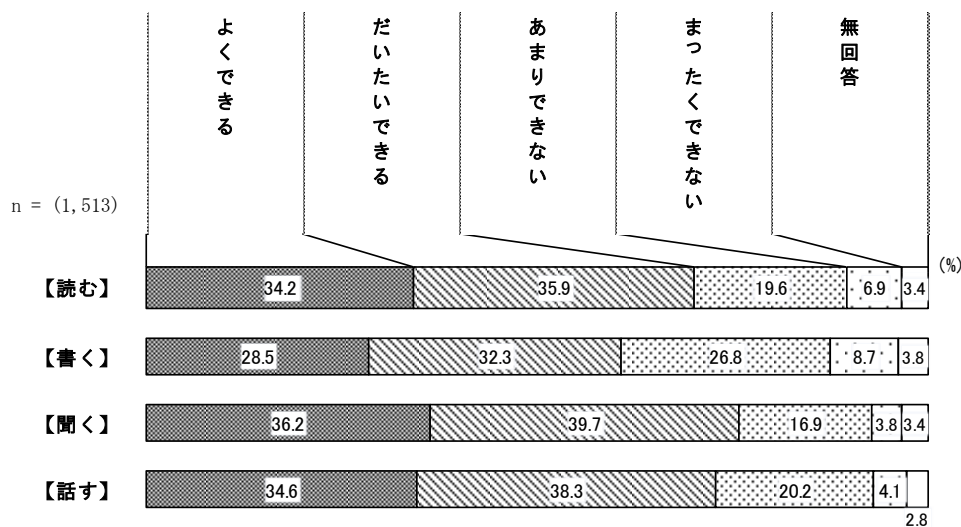
2. 日本語の状況

(1) 日本語レベル

問1 あなたはどのくらい日本語ができますか。【○はそれぞれ1つずつ】

【読む】【書く】【聞く】【話す】の日本語能力のうち、「よくできる」と「だいたいできる」を合わせた『できる』の割合をみると、【聞く】が75.9%と最も多く、【話す】は72.9%、【読む】は70.1%と7割以上となっている。一方、【書く】は60.8%と他の項目より低くなっている。

《単一回答》

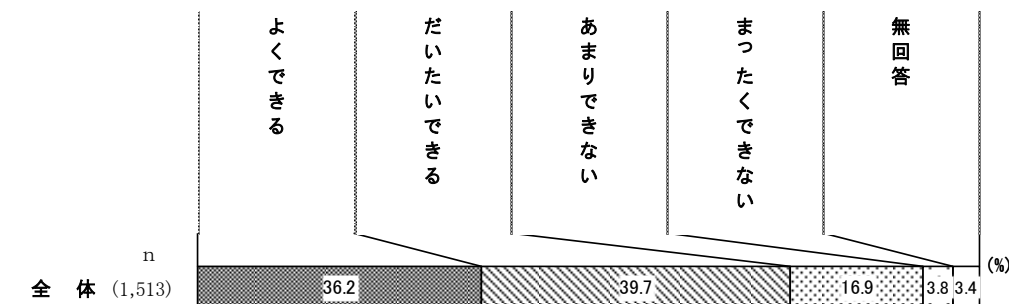


〈 国籍別、居住年数別／【聞く】 〉

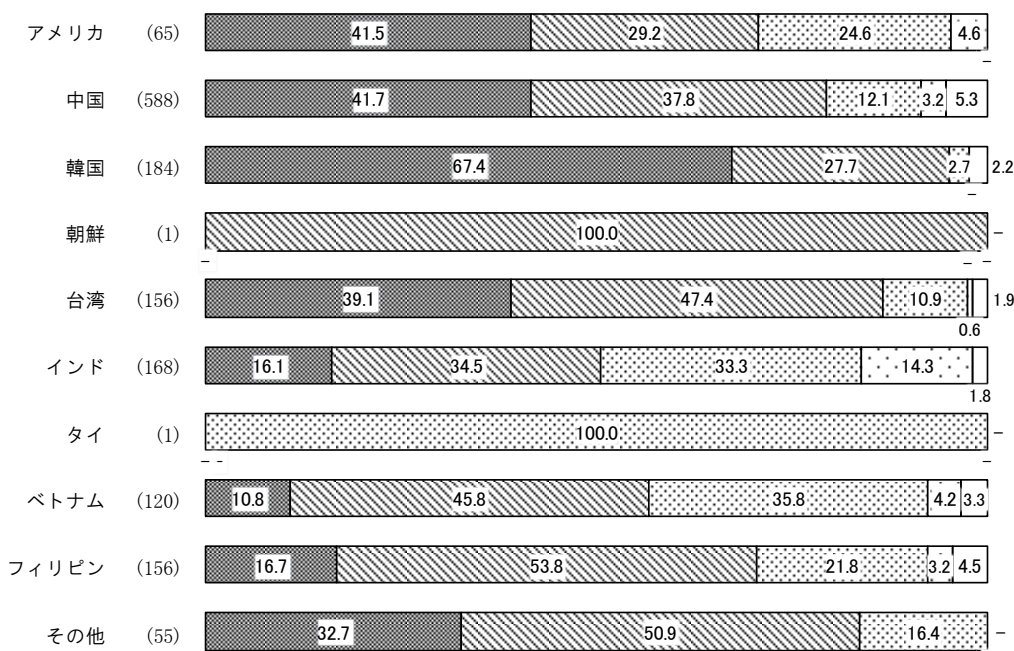
【聞く】能力を国籍別にみると、『できる』は【韓国】が95.1%と多く、以下、【台湾】(86.5%)、【中国】(79.5%)となっている。一方、【インド】は50.6%、【ベトナム】は56.6%と他の国籍より低くなっている。

居住年数別にみると、【3年未満】の層は、『できない』が3割弱となっている。

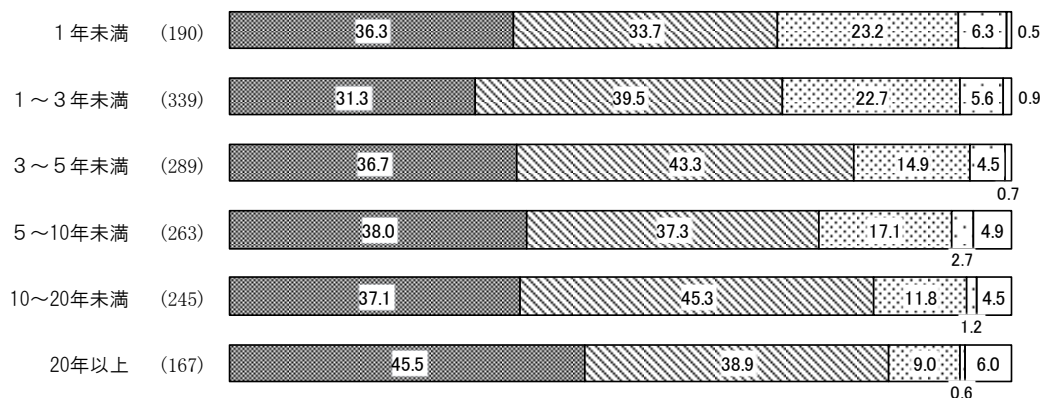
《単一回答》



【国籍別】



【居住年数別】



※基数が少ない「朝鮮」、「タイ」は参考までに掲載している。

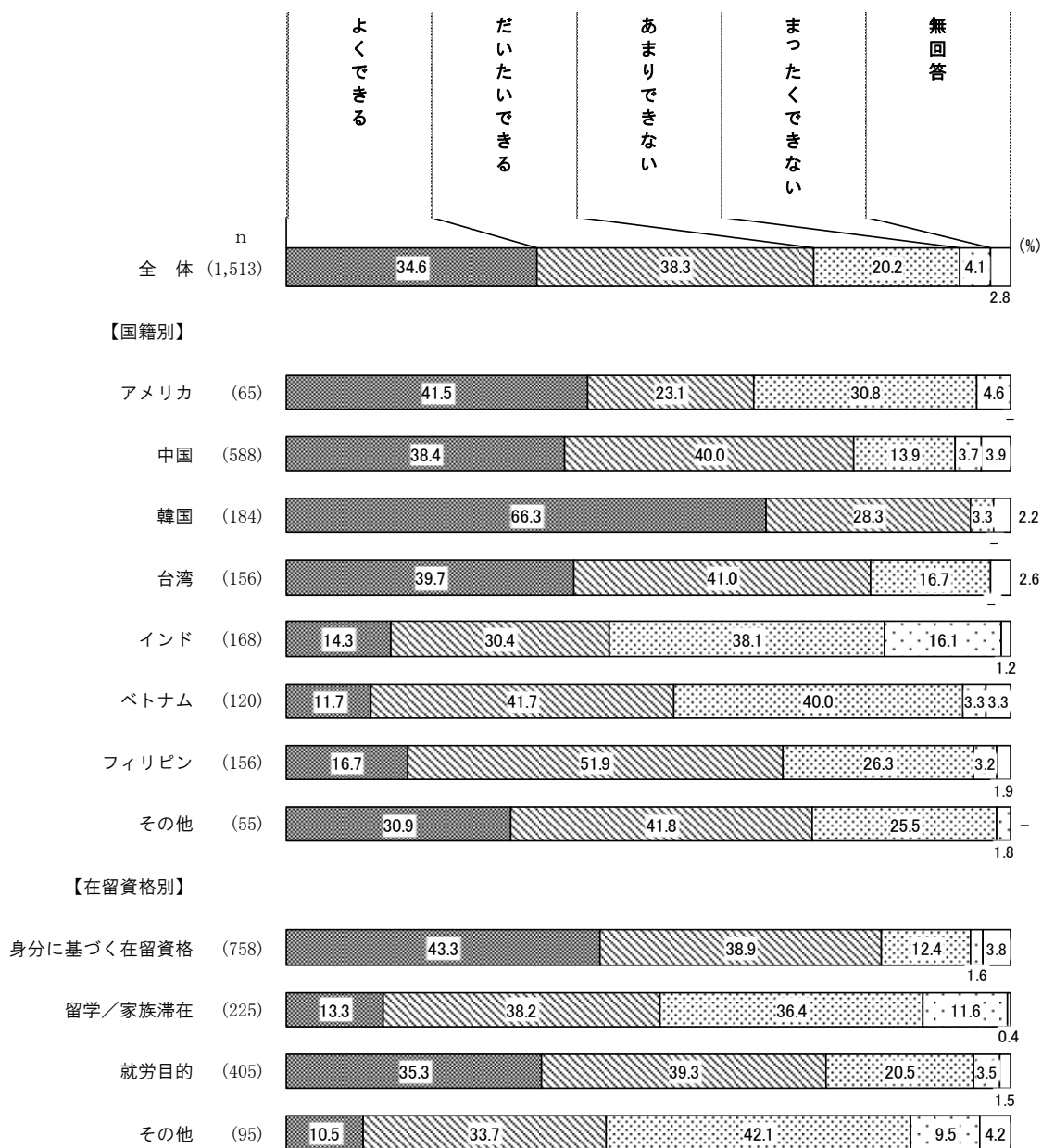
第3章 外国籍区民調査結果の詳細

〈 国籍別、在留資格別／【話す】 〉

【話す】能力を国籍別にみると、『できる』は【韓国】が94.6%と最も多く、以下、【台湾】(80.7%)、【中国】(78.4%)と続く。一方、【インド】は44.7%、【ベトナム】は53.4%と他の国籍より低くなっている。

在留資格別では、【身分に基づく在留資格】が82.2%、【就労目的】が74.6%と多くなっている。

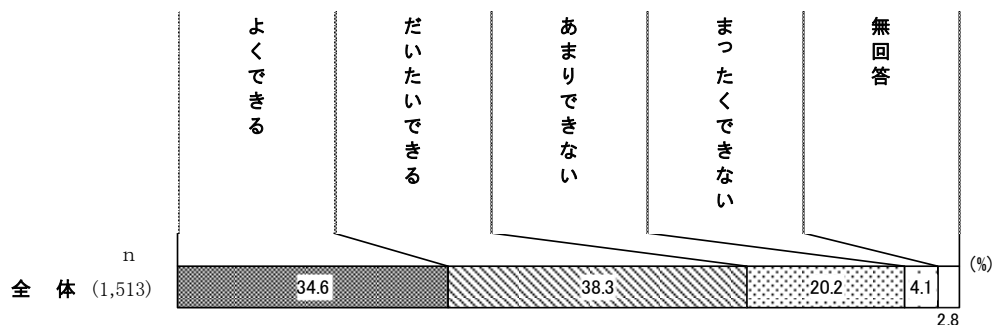
《単一回答》



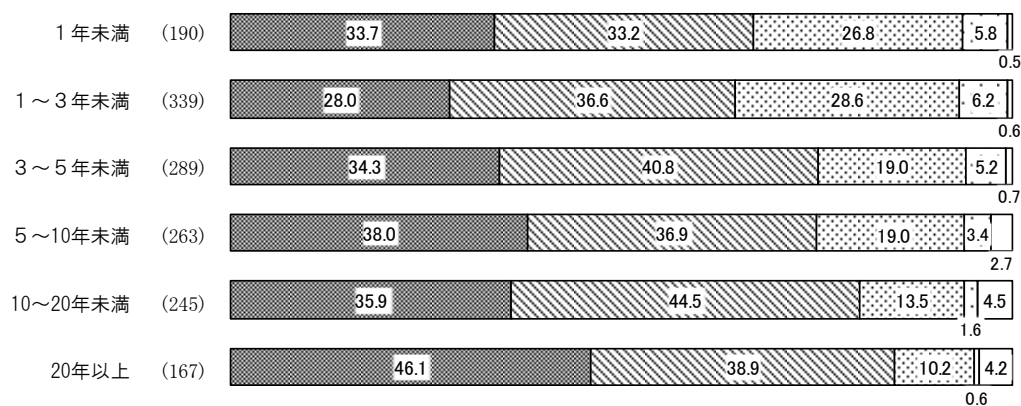
〈 居住年数別／【話す】 〉

居住年数別にみると、【3年未満】の層は、『できない』が3割を超えている。

《単一回答》



【居住年数別】



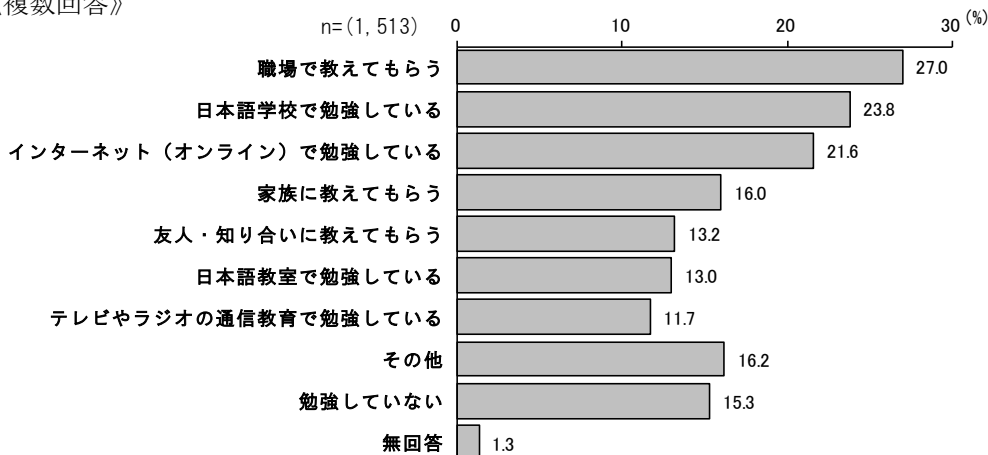
第3章 外国籍区民調査結果の詳細

(2) 日本語の習得・勉強方法

問2 日本語をどのように勉強していますか。【○はあてはまるものすべて】

日本語の習得・勉強方法では、「職場で教えてもらう」が27.0%で最も多く、以下、「日本語学校で勉強している」(23.8%)、「インターネット(オンライン)で勉強している」(21.6%)となっている。

《複数回答》



〈国籍別、日本語レベル別/日本語の習得・勉強方法〉

国籍別にみると、「インターネット(オンライン)で勉強している」は【インド】、【ベトナム】で4割を超え、比較的多くなっている。

日本語のレベル別にみると、「インターネット(オンライン)で勉強している」は【聞く】と【話す】の項目において『できない』の割合が高く、一方、「家族に教えてもらう」は【読む】と【書く】の項目において『できない』の割合が高くなっている。

《複数回答》		n	職場で教えてもらう	日本語学校で勉強している	インターネット(オンライン)で勉強している	家族に教えてもらう	友人・知り合いに教えてもらう	日本語教室で勉強している	テレビやラジオの通信教育で勉強している	その他	勉強していない	無回答
全体		1,513	27.0	23.8	21.6	16.0	13.2	13.0	11.7	16.2	15.3	1.3
国籍別	アメリカ	65	23.1	6.2	23.1	32.3	18.5	13.8	7.7	16.9	32.3	-
	中国	588	34.0	34.4	18.5	10.0	9.7	12.2	13.4	15.5	10.0	1.4
	韓国	184	9.8	7.6	7.1	12.5	7.1	3.3	6.0	22.3	41.3	3.8
	朝鮮	1	100.0	-	-	100.0	-	-	-	-	-	-
	台湾	156	21.8	41.0	17.9	15.4	18.6	22.4	9.6	28.8	2.6	0.6
	インド	168	17.9	4.2	42.9	14.3	10.1	11.9	6.5	10.7	20.2	0.6
	タイ	1	-	-	100.0	-	-	-	100.0	-	-	-
	ベトナム	120	24.2	35.0	44.2	5.8	9.2	19.2	15.8	10.0	8.3	0.8
	フィリピン	156	42.9	9.0	11.5	45.5	30.1	10.9	17.9	8.3	7.1	1.3
その他	55	16.4	14.5	30.9	18.2	21.8	18.2	12.7	18.2	27.3	-	
日本語レベル別	【①読む】できる	1,061	28.8	30.9	20.6	12.8	13.0	14.1	12.7	19.3	13.1	0.7
	【①読む】できない	401	23.7	6.5	25.4	25.2	15.2	10.5	9.7	7.7	22.2	0.2
	【②書く】できる	919	29.3	33.6	20.3	10.6	11.6	13.1	12.2	20.7	12.9	0.7
	【②書く】できない	537	24.0	8.4	24.8	25.5	16.9	13.4	11.5	9.1	19.9	0.2
	【③聞く】できる	1,149	29.4	28.0	19.3	16.6	13.9	13.4	13.1	18.8	13.8	0.6
	【③聞く】できない	312	20.2	10.6	31.4	14.4	12.5	11.9	6.7	7.1	21.8	0.3
	【④話す】できる	1,103	30.1	27.7	17.8	16.3	14.1	13.1	12.8	19.8	13.9	0.5
	【④話す】できない	368	19.6	13.3	34.2	15.8	12.2	12.8	9.5	6.5	20.1	0.3

※基数が少ない「朝鮮」、「タイ」は参考までに掲載している。

(3) 日本語の学習意欲

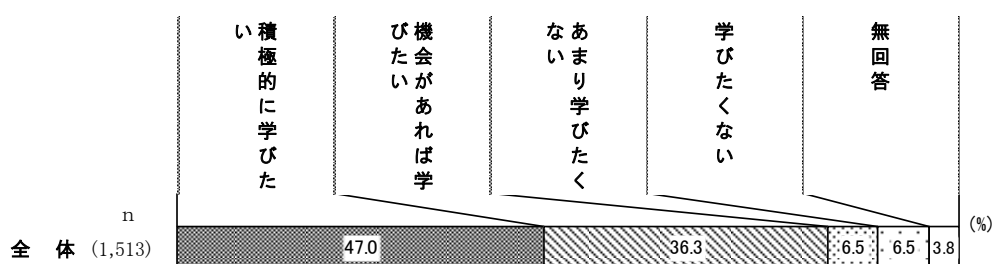
問3 今後、日本語を学びたいと思いますか。【○は1つだけ】

日本語の学習意欲は、「積極的に学びたい」(47.0%)と「機会があれば学びたい」(36.3%)を合わせた『学びたい』の割合が83.3%となっている。

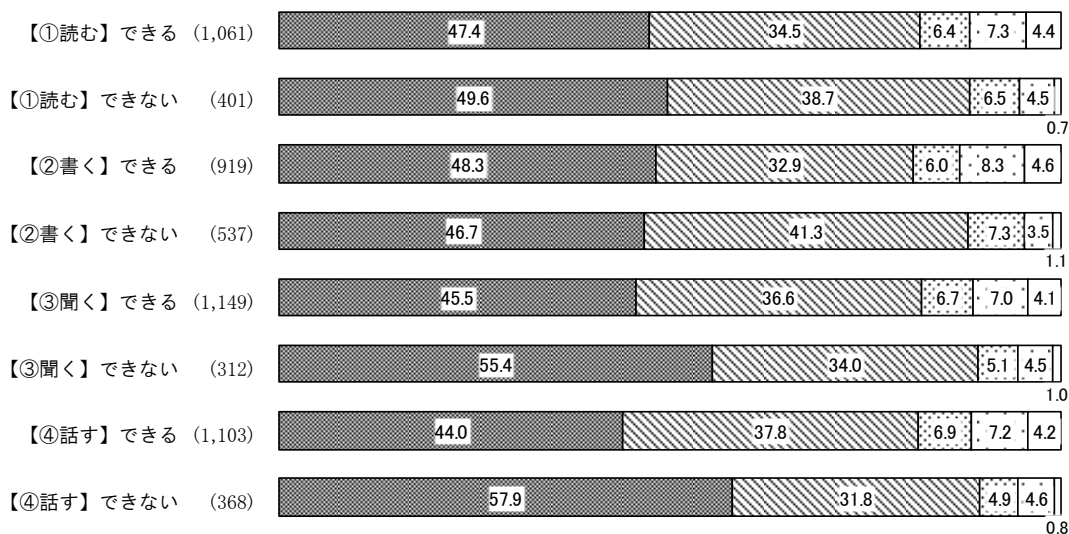
〈日本語レベル別／日本語の学習意欲〉

日本語のレベル別にみると、【読む】【書く】【聞く】【話す】すべての『できない』で『学びたい』が高く、いずれも9割近くとなっている。

《単一回答》



【日本語レベル別】



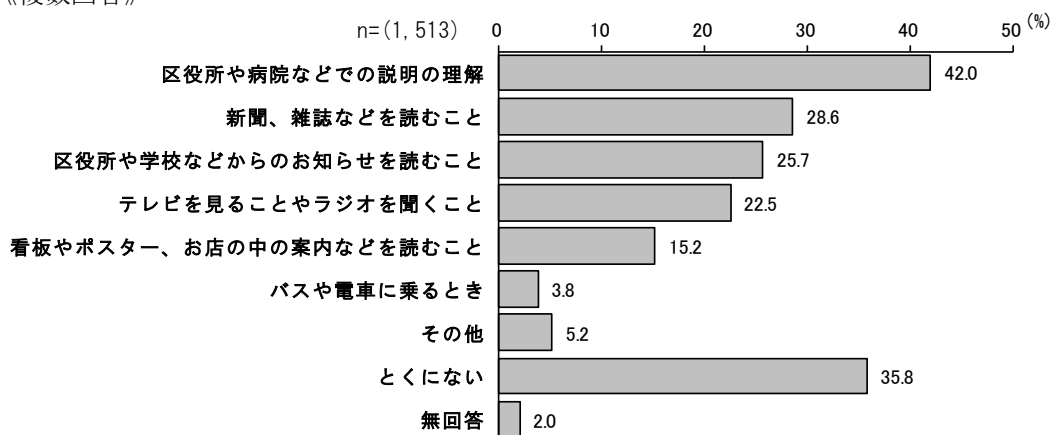
第3章 外国籍区民調査結果の詳細

(4) 日本語に関して困ること

問4 日本語を使う場面で困ることはありますか。【○はあてはまるものすべて】

「とくにない」と「無回答」を除いた62.2%が困る場面に遭遇している。具体的には、「区役所や病院などでの説明の理解」が42.0%で最も多く、以下、「新聞、雑誌などを読むこと」(28.6%)、「区役所や学校などからのお知らせを読むこと」(25.7%)、「テレビを見ることやラジオを聞くこと」(22.5%)となっている。

《複数回答》



〈日本語レベル別、定住意向別／日本語に関して困ること〉

日本語のレベル別にみると、「区役所や病院などでの説明の理解」や「テレビを見ることやラジオを聞くこと」における【聞く】【話す】が『できない』割合と「新聞、雑誌などを読むこと」や「区役所や学校などからのお知らせを読むこと」で【読む】が『できない』割合がそれぞれ高くなっている。

定住意向別では、【ずっと住みたい】と回答した方は、各場面で困難に遭遇する割合が高く、【いずれ引越したい】と回答した方は「とくにない」(54.4%)の回答が半数を超えている。

《複数回答》		n	区役所や病院などでの説明の理解	新聞、雑誌などを読むこと	区役所や学校などからのお知らせを読むこと	テレビを見ることやラジオを聞くこと	看板やポスター、お店の中の案内などを読むこと	バスや電車に乗るとき	その他	とくにない	無回答
全体		1,513	42.0	28.6	25.7	22.5	15.2	3.8	5.2	35.8	2.0
日本語レベル別	【①読む】できる	1,061	30.1	18.7	12.2	15.4	4.8	1.6	5.4	47.5	2.4
	【①読む】できない	401	71.8	55.6	60.8	41.4	41.9	9.2	5.2	5.2	1.0
	【②書く】できる	919	27.2	15.9	9.8	13.9	4.6	1.1	5.5	51.9	2.3
	【②書く】できない	537	66.7	50.5	52.9	37.4	33.0	8.4	4.5	9.5	1.1
	【③聞く】できる	1,149	31.9	22.7	18.1	14.4	8.0	1.5	4.7	44.6	2.3
	【③聞く】できない	312	78.2	50.6	53.5	52.2	41.3	11.9	7.1	4.5	1.0
	【④話す】できる	1,103	30.1	21.8	16.7	12.6	6.9	1.5	4.7	46.5	2.1
	【④話す】できない	368	77.4	49.2	53.0	52.4	40.5	10.9	6.5	4.6	1.1
定住意向別	ずっと住みたい	965	44.2	31.7	27.2	24.2	16.0	3.9	4.1	34.5	0.6
	当分は住みたい	446	40.6	24.4	24.7	20.2	13.9	3.6	7.2	37.4	0.2
	いずれ引越したい	68	32.4	20.6	20.6	20.6	16.2	2.9	7.4	54.4	-
	すぐに引越したい	5	40.0	20.0	20.0	20.0	-	-	20.0	40.0	-

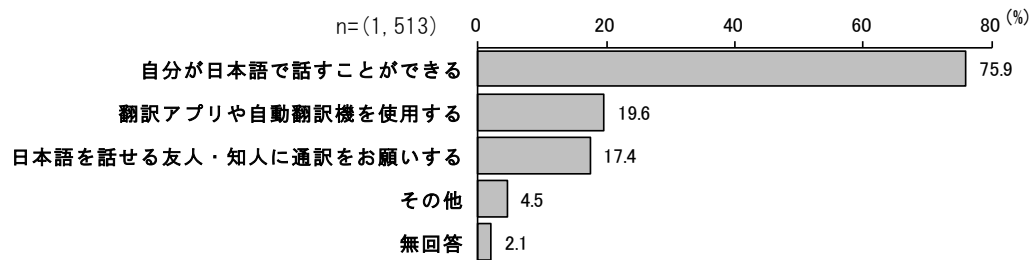
※基数が少ない「すぐに引越したい」は参考までに掲載している。

(5) 日本人と話すときの対応方法

問5 日本人と話すときどのようにしていますか。【〇はあてはまるものすべて】

日本人と話すときの対応方法では、「自分が日本語で話すことができる」が75.9%で最も多く、以下、「翻訳アプリや自動翻訳機を使用する」(19.6%)、「日本語を話せる友人・知人に通訳をお願いする」(17.4%) となっている。

《複数回答》



3. 江東区への定住意向と各サービスの評価

(1) 江東区への定住意向

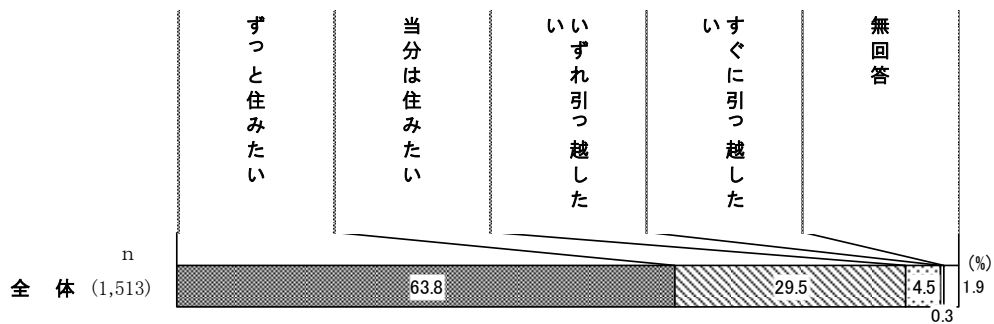
問6 江東区にこれからも住みたいと思いますか。【○は1つだけ】

江東区への定住意向では、「ずっと住みたい」が63.8%で最も多く、「当分は住みたい」(29.5%)を合わせた『住みたい』は93.3%と多くなっている。

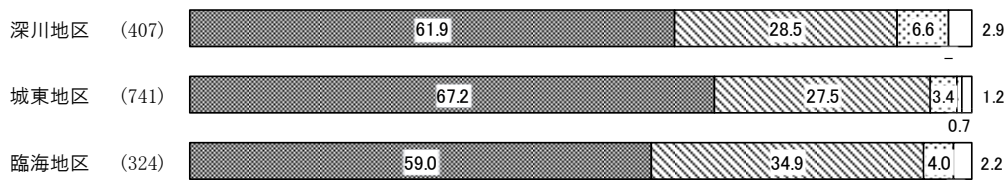
〈居住地域別／江東区への定住意向〉

居住地域別に「ずっと住みたい」割合をみると、【城東地区】(67.2%)、【深川地区】(61.9%)、【臨海地区】(59.0%)の順になっている。

《単一回答》



【居住地域別】

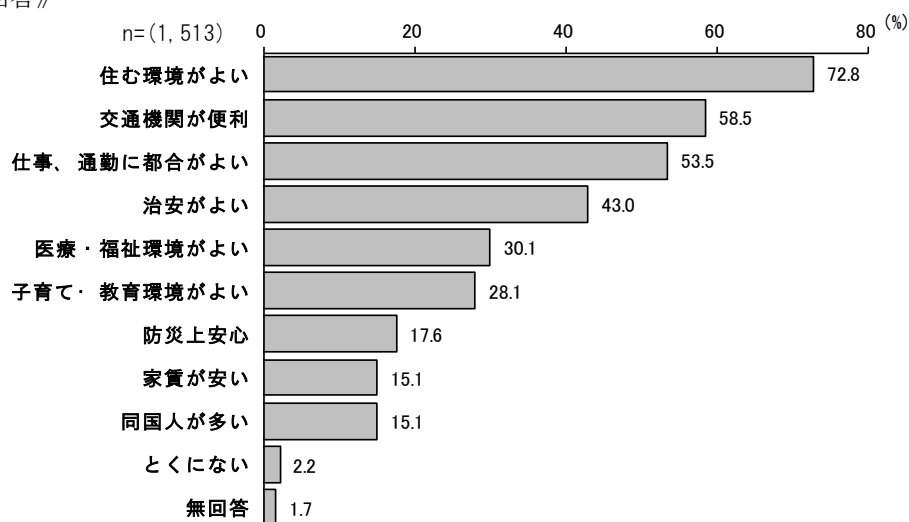


(2) 江東区に住んで良かったこと

問7 江東区に住んで良かったことは何ですか。【〇はあてはまるものすべて】

江東区に住んで良かったことでは、「住む環境がよい」が72.8%で最も多く、以下、「交通機関が便利」(58.5%)、「仕事、通勤に都合がよい」(53.5%)、「治安がよい」(43.0%)となっている。

《複数回答》



〈 居住地域別、定住意向別／江東区に住んで良かったこと 〉

居住地域別にみると、【深川地区】は「交通機関が便利」と「仕事、通勤に都合がよい」の評価が高いが、「子育て・教育環境がよい」はやや低くなっている。【城東地区】は「同国人が多い」が比較的高く、【臨海地区】は「住む環境がよい」と「治安がよい」が比較的高い割合となっている。

定住意向別では、「家賃が安い」を除き、定住意向が高くなるほど各項目の評価も高くなる傾向にある。

《複数回答》		n	住む環境がよい	交通機関が便利	仕事、通勤に都合がよい	治安がよい	医療・福祉環境がよい	子育て・教育環境がよい	防災上安心	家賃が安い	同国人が多い
全体		1,513	72.8	58.5	53.5	43.0	30.1	28.1	17.6	15.1	15.1
地域別	深川地区	407	72.5	65.4	58.7	42.8	30.0	21.1	15.2	13.0	4.4
	城東地区	741	69.2	59.5	52.5	40.2	30.9	31.2	18.9	18.5	23.6
	臨海地区	324	81.5	47.2	49.4	49.7	27.5	29.6	17.6	10.5	9.0
定住意向別	ずっと住みたい	965	81.9	63.8	53.6	47.7	37.6	35.3	21.6	15.1	18.0
	当分は住みたい	446	61.0	52.0	57.6	37.7	17.7	16.6	11.7	14.8	11.2
	いずれ引っ越したい	68	54.4	44.1	45.6	26.5	14.7	13.2	4.4	20.6	2.9
	すぐに引っ越したい	5	20.0	80.0	60.0	40.0	20.0	20.0	40.0	20.0	20.0

		n	とくにない	無回答
全体		1,513	2.2	1.7
地域別	深川地区	407	1.5	2.5
	城東地区	741	3.1	1.3
	臨海地区	324	1.5	1.5
定住意向別	ずっと住みたい	965	1.0	0.1
	当分は住みたい	446	3.4	0.2
	いずれ引っ越したい	68	11.8	-
	すぐに引っ越したい	5	-	-

※基数が少ない「すぐに引っ越したい」は参考までに掲載している。

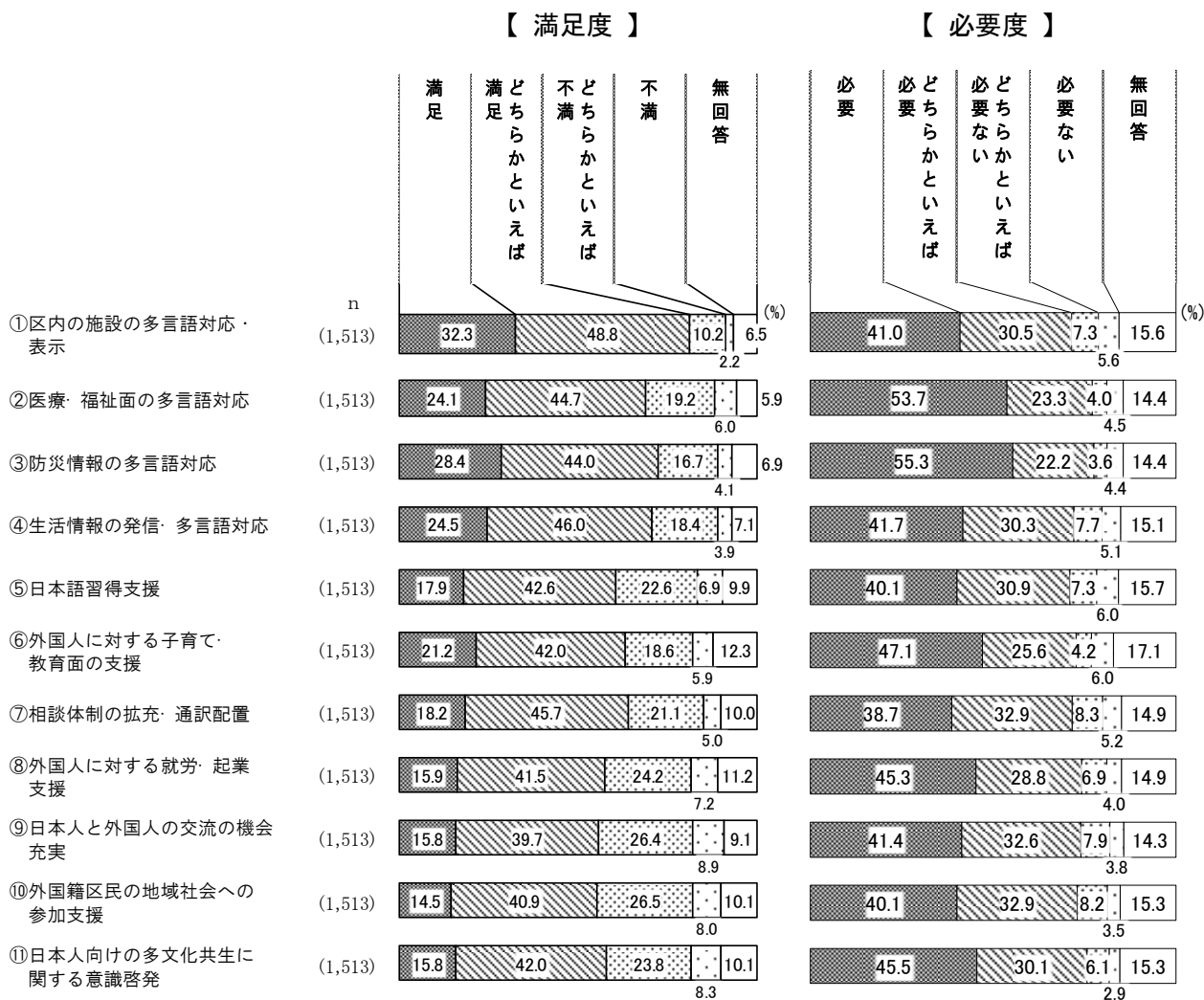
(3) 江東区の多文化共生サービスの評価

問8 あなたは江東区が行っている以下の取組に対して満足していますか。また、その取組は、あなたにとってどのくらい必要ですか。
 【〇は各取組に対し、満足度、必要度、それぞれ1つずつ】

各取組に対する「満足」の割合をみると、「①区内の施設の多言語対応・表示」が32.3%で最も高く、以下、「③防災情報の多言語対応」(28.4%)、「④生活情報の発信・多言語対応」(24.5%)、「②医療・福祉面の多言語対応」(24.1%)となっており、多言語対応が上位を占めている。

「必要」の割合は、「③防災情報の多言語対応」(55.3%)、「②医療・福祉面の多言語対応」(53.7%)「⑥外国人に対する子育て・教育面の支援」(47.1%)、「⑪日本人向けの多文化共生に関する意識啓発」(45.5%)の順となっている。

《単一回答》

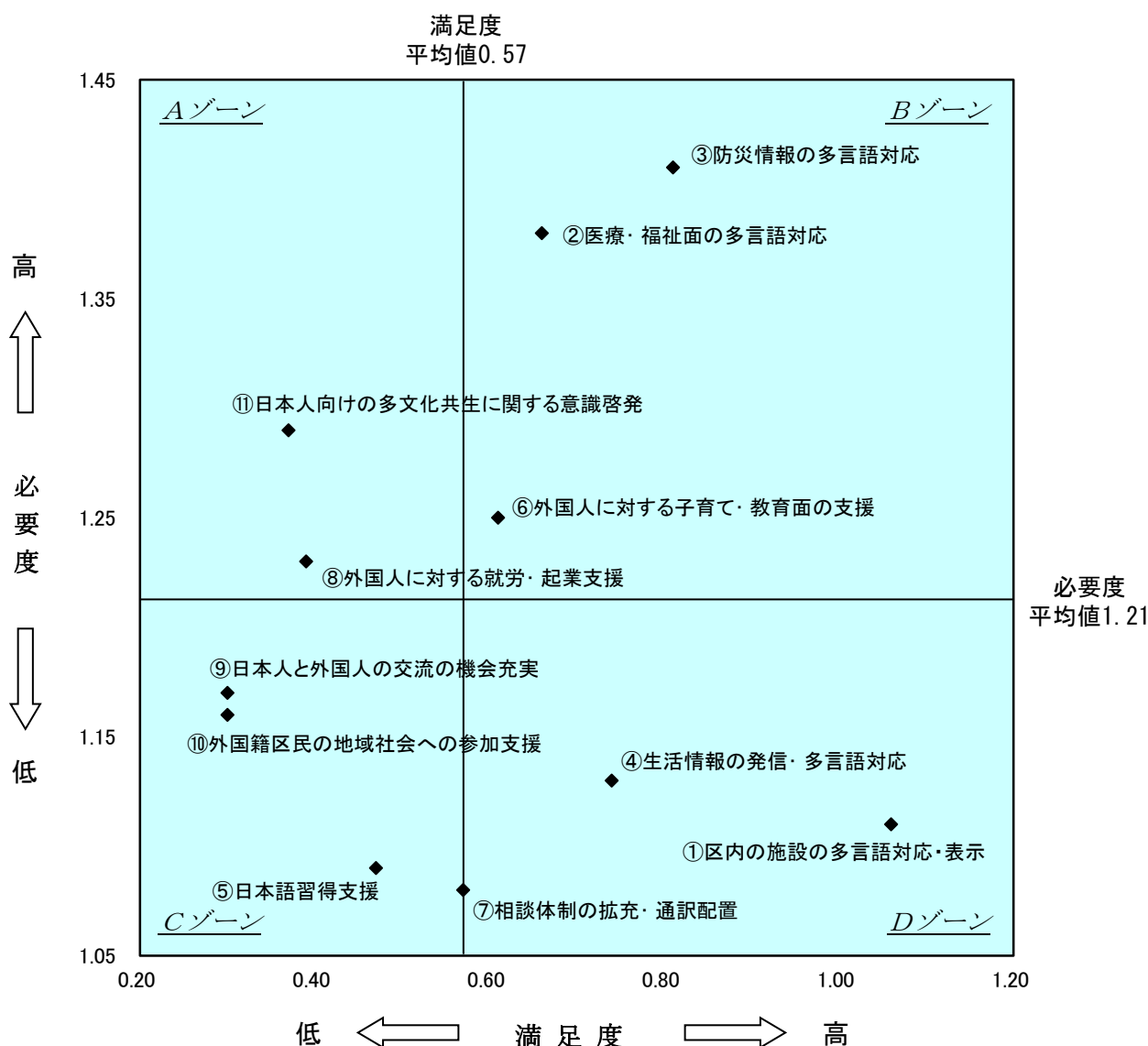


〈 満足度と必要度の関係 〉

各取組の評価に次の①・②の様なウエイト付けをして平均値を算出した結果が下の図である。

- ①「必要」×2点+「どちらかといえば必要」×1点+「どちらかといえば必要ない」×-1点+「必要ない」×-2点
 - ②「満足」×2点+「どちらかといえば満足」×1点+「どちらかといえば不満」×-1点+「不満」×-2点
- ※無回答は除く。

満足度が最も高い「①区内の施設の多言語対応・表示」は必要度においては低いレベルにある。2番目に満足度が高い「③防災情報の多言語対応」の必要度は最も高くなっており、必要とされている取組に一定の評価が得られている。一方、「⑩日本人向けの多文化共生に関する意識啓発」は必要度が比較的高いにもかかわらず満足度が低いことから、今後一層の取組努力が必要である。



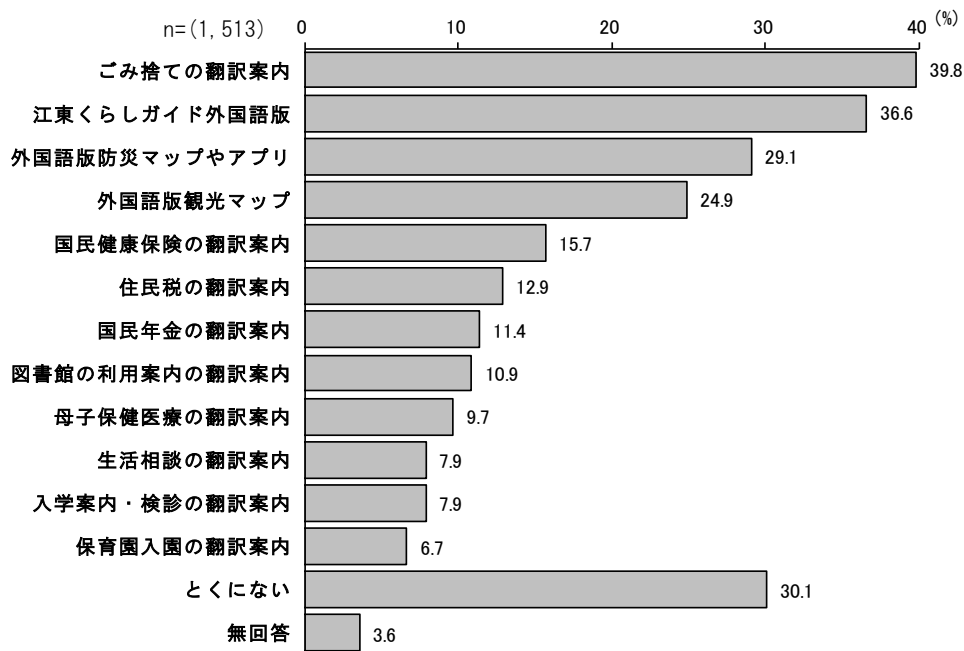
第3章 外国籍区民調査結果の詳細

(4) 江東区が行っているサービスの認知度

問9 江東区が行っている以下のサービスの中で、あなたが知っているものはありますか。
【〇はあてはまるものすべて】

江東区が行っているサービスの認知度では、「ごみ捨ての翻訳案内」が39.8%で最も多く、以下、「江東暮らしガイド外国語版」(36.6%)、「外国語版防災マップやアプリ」(29.1%)、「外国語版観光マップ」(24.9%)となっている。一方、「とくにない」は30.1%と3番目に多くなっている。

《複数回答》



〈 居住地域別／江東区が行っているサービスの認知度 〉

居住地域別にみると、全12サービスのうち、10サービスで【城東地区】が最も多くなっている。特に、「ごみ捨ての翻訳案内」は他地域より多くなっている。

《複数回答》	n	(%)								
		ごみ捨ての翻訳案内	江東暮らしガイド外国語版	外国語版防災マップやアプリ	外国語版観光マップ	国民健康保険の翻訳案内	住民税の翻訳案内	国民年金の翻訳案内	図書館の利用案内の翻訳案内	母子保健医療の翻訳案内
全体	1,513	39.8	36.6	29.1	24.9	15.7	12.9	11.4	10.9	9.7
深川地区	407	33.4	34.9	26.5	24.8	14.5	10.3	10.3	9.8	6.6
城東地区	741	45.6	37.4	29.7	24.6	18.1	15.9	13.4	11.9	12.4
臨海地区	324	35.2	37.3	29.0	25.6	11.7	8.0	8.0	10.2	6.5

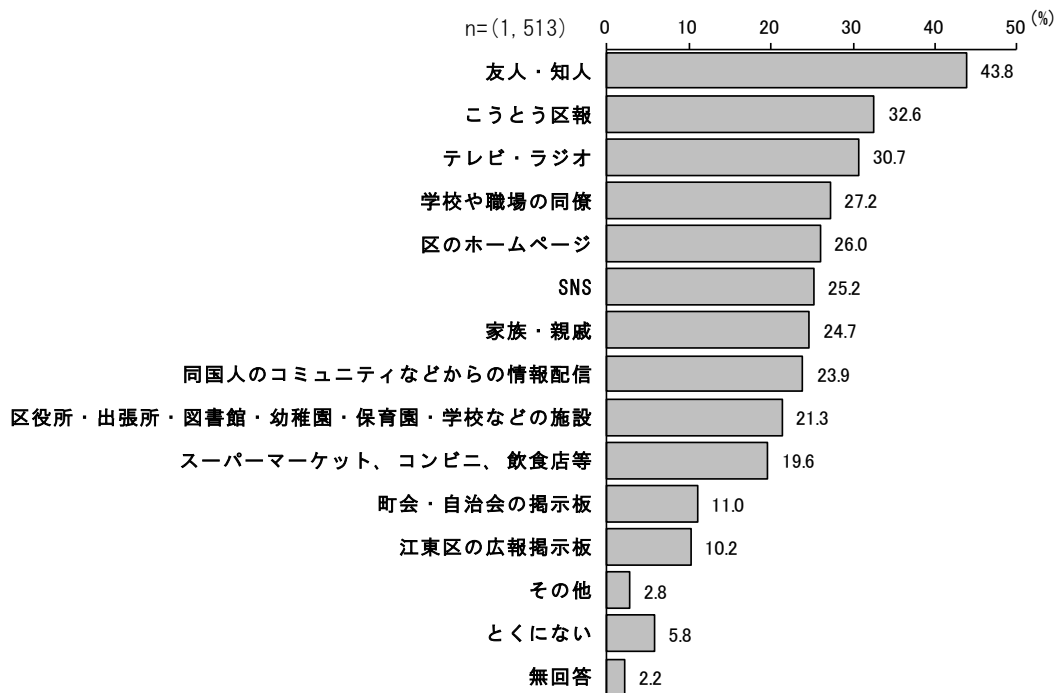
	n	生活相談の翻訳案内	入学案内・検診の翻訳案内	保育園入園の翻訳案内	とくにない	無回答
全体	1,513	7.9	7.9	6.7	30.1	3.6
深川地区	407	9.6	4.7	3.9	33.7	3.9
城東地区	741	7.3	9.3	8.6	26.7	3.6
臨海地区	324	6.2	7.7	4.6	32.4	3.1

(5) 情報の入手手段

問10 あなたは、生活に必要な情報をどこで入手していますか。
 【〇はあてはまるものすべて】

情報の入手手段では、「友人・知人」が43.8%で最も多く、以下、「こうとう区報」(32.6%)、「テレビ・ラジオ」(30.7%)、「学校や職場の同僚」(27.2%)となっている。

《複数回答》



第3章 外国籍区民調査結果の詳細

〈 国籍別、居住地域別／情報の入手手段 〉

国籍別にみると、【インド】【フィリピン】では「友人・知人」、【台湾】【中国】【韓国】では「こうとう区報」、【ベトナム】【フィリピン】では「学校や職場の同僚」、【ベトナム】【台湾】では「SNS」、【アメリカ】【フィリピン】では「家族・親戚」などが比較的多くなっている。なお、「同国人のコミュニティなどからの情報配信」は、【ベトナム】と【中国】で他の国籍よりも多くなっている。

居住地域別でみると、【城東地区】で「同国人のコミュニティなどからの情報配信」が他の地域よりも多くなっている。

《複数回答》		n	友人・知人	こうとう区報	テレビ・ラジオ	学校や職場の同僚	区のホームページ	SNS	家族・親戚	同国人のコミュニティなどからの情報配信	区役所・出張所・図書館・幼稚園・保育園・学校などの施設
全体		1,513	43.8	32.6	30.7	27.2	26.0	25.2	24.7	23.9	21.3
国籍別	アメリカ	65	38.5	20.0	27.7	29.2	26.2	13.8	47.7	6.2	15.4
	中国	588	40.8	43.2	31.1	22.4	28.9	21.1	19.6	30.8	28.4
	韓国	184	30.4	42.9	30.4	13.0	29.3	23.4	20.1	17.4	14.7
	朝鮮	1	-	-	-	-	-	-	100.0	-	-
	台湾	156	41.0	50.0	37.2	23.7	26.3	46.8	20.5	19.9	14.1
	インド	168	62.5	9.5	22.6	33.3	15.5	11.9	30.4	23.8	21.4
	タイ	1	100.0	-	-	100.0	-	-	-	-	-
	ベトナム	120	49.2	15.8	24.2	46.7	29.2	58.3	7.5	31.7	11.7
	フィリピン	156	55.1	9.6	39.1	39.1	19.2	15.4	47.4	16.0	21.2
その他	55	38.2	18.2	30.9	38.2	27.3	29.1	38.2	5.5	21.8	
地域別 居住	深川地区	407	42.5	35.1	32.7	28.7	26.0	26.3	27.8	17.9	21.1
	城東地区	741	47.4	30.5	27.8	27.0	24.2	24.3	24.4	27.8	22.9
	臨海地区	324	36.1	35.8	34.3	24.4	30.2	25.9	21.0	22.5	19.1

		n	スーパーマーケット、コンビニ、飲食店等	町会・自治会の掲示板	江東区の広報掲示板	その他	とくにな	無回答
全体		1,513	19.6	11.0	10.2	2.8	5.8	2.2
国籍別	アメリカ	65	10.8	4.6	7.7	6.2	10.8	-
	中国	588	23.6	12.6	9.5	2.7	4.8	1.7
	韓国	184	10.3	7.6	3.8	1.6	8.2	4.9
	朝鮮	1	-	-	-	-	-	-
	台湾	156	17.9	10.9	9.0	1.9	8.3	2.6
	インド	168	16.1	11.9	15.5	4.8	6.5	-
	タイ	1	-	100.0	-	-	-	-
	ベトナム	120	13.3	4.2	5.0	0.8	4.2	2.5
	フィリピン	156	32.1	17.9	21.8	3.2	2.6	4.5
その他	55	10.9	7.3	9.1	3.6	3.6	-	
地域別 居住	深川地区	407	17.0	11.3	10.8	4.2	5.4	2.2
	城東地区	741	22.5	12.3	10.5	1.9	6.6	2.6
	臨海地区	324	15.7	7.4	7.4	3.1	4.0	0.9

※基数が少ない「朝鮮」、「タイ」は参考までに掲載している。

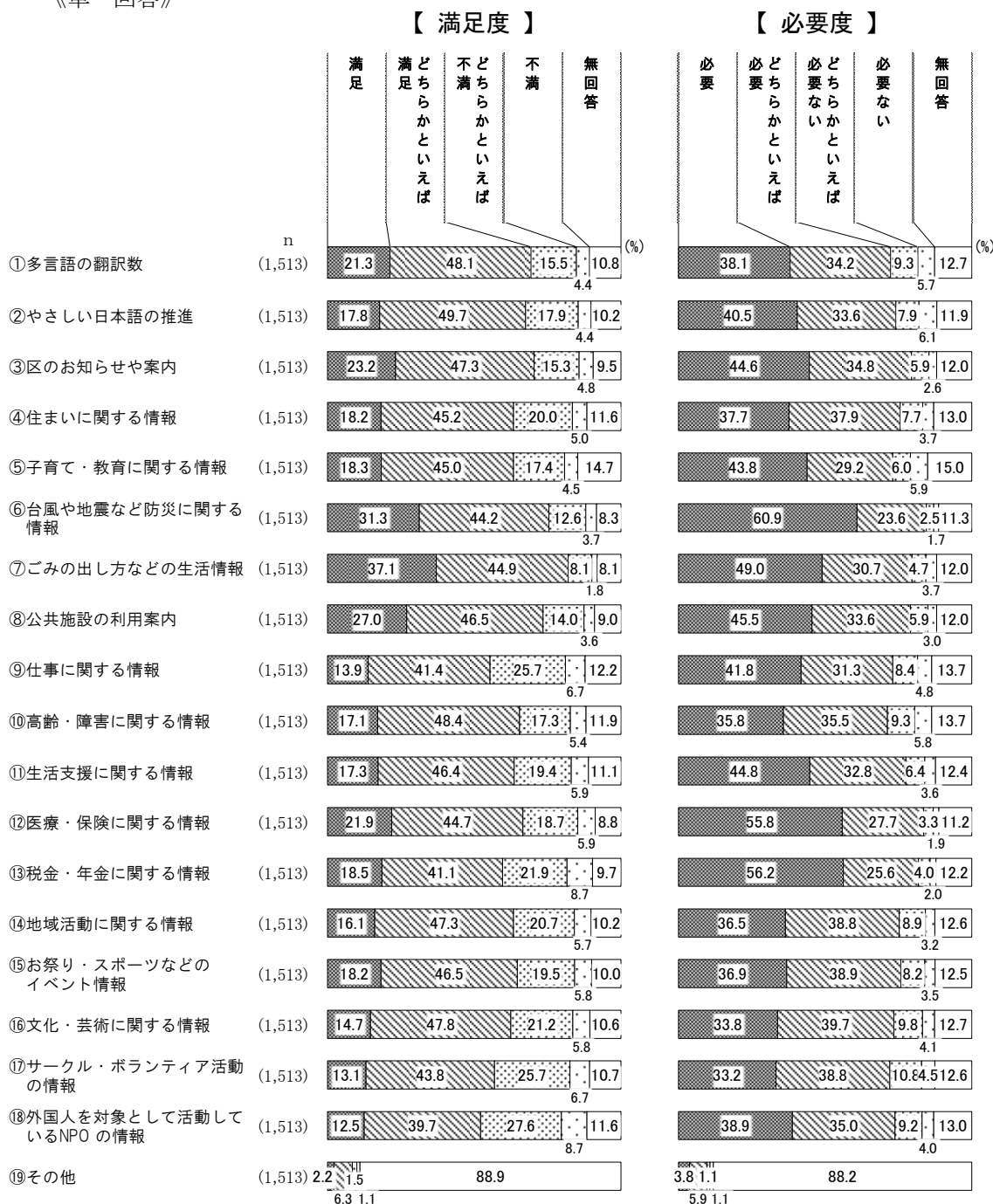
(6) 江東区が発信している情報の満足度・必要度

問11 あなたは、江東区が発信している以下の情報に満足していますか。また、その情報は、あなたにとってどのくらい必要ですか。
 【〇は各取組に対し、満足度、必要度、それぞれ1つずつ】

各情報に対する「満足」の割合をみると、「⑦ごみの出し方などの生活情報」が37.1%で最も高く、以下、「⑥台風や地震など防災に関する情報」(31.3%)、「⑧公共施設の利用案内」(27.0%)となっている。

「必要」の割合は、「⑥台風や地震など防災に関する情報」が60.9%と最も高く、「⑬税金・年金に関する情報」(56.2%)や「⑫医療・保険に関する情報」(55.8%)も5割を超えている。

《単一回答》



第3章 外国籍区民調査結果の詳細

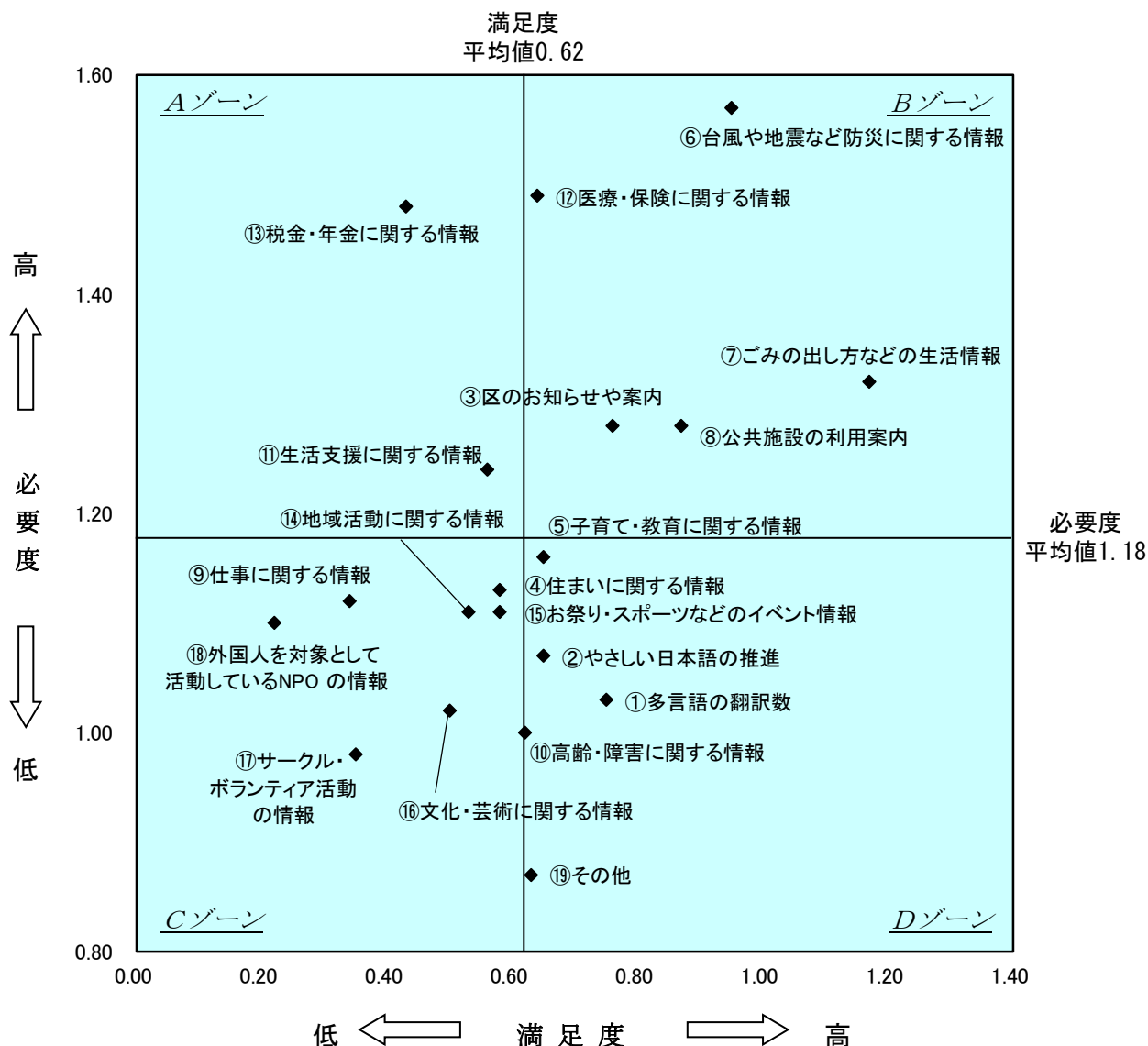
〈 満足度と必要度の関係 〉

各取組の評価に次の①・②の様なウエイト付けをして平均値を算出した結果が下の図である。

- ① 「必要」×2点+「どちらかといえば必要」×1点+「どちらかといえば必要ない」×-1点+「必要ない」×-2点
 - ② 「満足」×2点+「どちらかといえば満足」×1点+「どちらかといえば不満」×-1点+「不満」×-2点
- ※無回答は除く。

満足度が最も高い「⑦ごみの出し方などの生活情報」の必要度は平均値を上回る程度となっている。

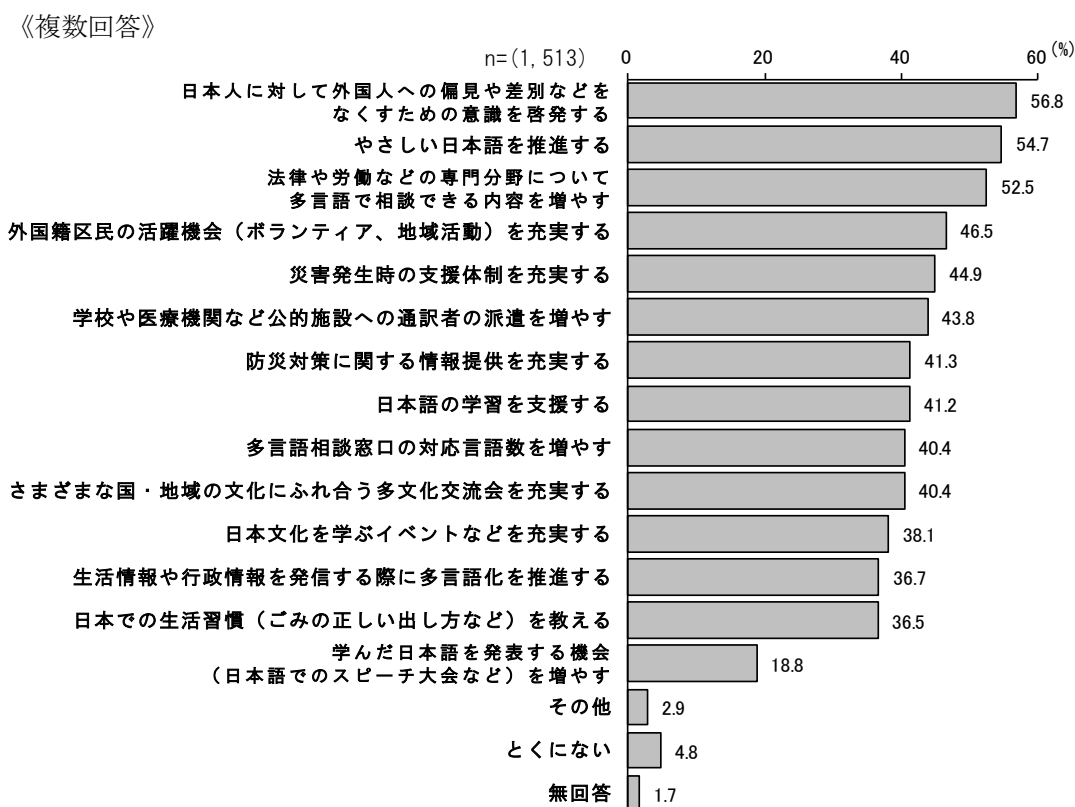
2番目に満足度が高い「⑥台風や地震など防災に関する情報」の必要度は最も高く、高いニーズに対する満足感が得られている。「⑫医療・保険に関する情報」は高い必要度に対して満足度は平均的な値となっており、「⑬税金・年金に関する情報」は、医療・保険と同等の必要度ながら満足度は平均値を下回っている。



(7) 多文化共生に向けて区に期待する取組

問12 多文化共生を推進するにあたって、あなたが江東区に期待する取組は何ですか。
【〇はあてはまるものすべて】

多文化共生に向けて区に期待する取組では、「日本人に対して外国人への偏見や差別などをなくすための意識を啓発する」が56.8%で最も多く、以下、「やさしい日本語を推進する」(54.7%)、「法律や労働などの専門分野について多言語で相談できる内容を増やす」(52.5%)、「外国籍区民の活躍機会(ボランティア、地域活動)を充実する」(46.5%)となっている。



〈居住地域別、居住年数別、定住意向別／多文化共生に向けて区に期待する取組〉

居住地域別では、【城東地区】で「やさしい日本語を推進する」、「多言語相談窓口の対応言語数を増やす」、「日本文化を学ぶイベントなどを充実する」、「学んだ日本語を発表する機会(日本語でのスピーチ大会など)を増やす」が比較的多くなっている。

居住年数別では、【3年未満】で「日本人に対して外国人への偏見や差別などをなくすための意識を啓発する」が6割を超えて多くなっている。また、【10年】を超えたあたりから【10年未満】に比べて期待度が低くなる傾向にある中で、「災害発生時の支援体制を充実する」、「学校や医療機関などの公的施設への通訳者の派遣を増やす」、「生活情報や行政情報を発信する際に多言語化を推進する」、「日本での生活習慣(ごみの正しい出し方など)を教える」などは年数に関係なく一定の期待度となっている。

定住意向別にみると、定住意向が強いほど期待されている取組として、「やさしい日本語の推進」、「法律や労働などの専門分野について多言語で相談できる内容を増やす」、「外国籍区民の活躍機会(ボランティア、地域活動)を充実する」などが挙げられる。

第3章 外国籍区民調査結果の詳細

(%)

《複数回答》		n	日本人に対して外国人への偏見や差別などをなくすための意識を啓発する	やさしい日本語を推進する	法律や労働などの専門分野について多言語で相談できる内容を増やす	外国籍区民の活躍機会(ボランティア、地域活動)を充実する	災害発生時の支援体制を充実する	学校や医療機関など公的施設への通訳者の派遣を増やす	防災対策に関する情報提供を充実する	日本語の学習を支援する	多言語相談窓口の対応言語数を増やす
全体		1,513	56.8	54.7	52.5	46.5	44.9	43.8	41.3	41.2	40.4
地域別 居住	深川地区	407	56.5	53.3	50.4	41.8	41.5	39.3	40.8	37.8	35.4
	城東地区	741	57.5	58.8	52.2	47.8	46.2	46.6	40.4	43.9	43.6
	臨海地区	324	56.2	46.0	54.0	48.1	45.1	42.3	42.3	37.3	38.6
居住年数別	1年未満	190	61.6	54.7	57.4	48.9	46.3	42.1	48.4	44.7	47.9
	1～3年未満	339	60.8	59.0	51.9	53.7	46.9	48.1	44.8	46.9	45.1
	3～5年未満	289	57.1	56.4	51.2	47.1	42.9	45.7	38.1	45.3	39.4
	5～10年未満	263	58.6	55.1	59.3	52.1	43.7	45.2	43.7	41.8	40.3
	10～20年未満	245	53.9	48.6	51.0	38.0	44.1	44.1	35.5	36.7	37.1
	20年以上	167	46.7	52.1	44.3	31.7	47.3	32.3	39.5	24.6	30.5
定住意向別	ずっと住みたい	965	56.2	60.1	53.3	46.2	44.6	47.5	41.0	44.7	43.5
	当分は住みたい	446	58.5	46.9	52.2	48.9	46.2	38.3	43.5	36.3	35.2
	いずれ引越したい	68	57.4	44.1	45.6	39.7	38.2	29.4	29.4	32.4	36.8
	すぐに引越したい	5	40.0	40.0	40.0	40.0	40.0	40.0	40.0	60.0	-

		n	さまざまな国・地域の文化にふれ合う多文化交流会を充実する	日本文化を学ぶイベントなどを充実する	生活情報や行政情報を発信する際に多言語化を推進する	日本での生活習慣(ごみの正しい出し方など)を教える	学んだ日本語を発表する機会(日本語でのスピーチ大会など)を増やす	その他	とくにない	無回答
全体		1,513	40.4	38.1	36.7	36.5	18.8	2.9	4.8	1.7
地域別 居住	深川地区	407	39.1	35.1	34.9	32.2	13.8	4.4	5.7	1.7
	城東地区	741	40.8	40.9	35.9	39.1	22.1	2.2	4.3	2.0
	臨海地区	324	41.0	33.6	38.9	34.9	15.1	2.8	4.6	1.2
居住年数別	1年未満	190	45.3	44.2	36.3	35.8	17.9	1.1	3.2	1.1
	1～3年未満	339	48.4	47.8	44.2	41.9	26.5	3.5	2.4	0.9
	3～5年未満	289	41.2	35.6	36.3	38.1	17.3	4.2	3.1	1.0
	5～10年未満	263	45.6	43.0	32.3	32.7	17.9	3.4	5.3	1.1
	10～20年未満	245	29.8	31.0	36.3	32.7	18.0	3.3	5.7	2.0
	20年以上	167	26.9	21.6	32.3	36.5	11.4	0.6	12.0	4.2
定住意向別	ずっと住みたい	965	40.3	40.1	39.4	39.1	21.8	3.1	4.9	2.0
	当分は住みたい	446	41.7	36.3	33.0	32.3	14.3	2.5	3.4	1.1
	いずれ引越したい	68	39.7	26.5	29.4	35.3	10.3	2.9	10.3	-
	すぐに引越したい	5	60.0	60.0	40.0	20.0	40.0	-	-	-

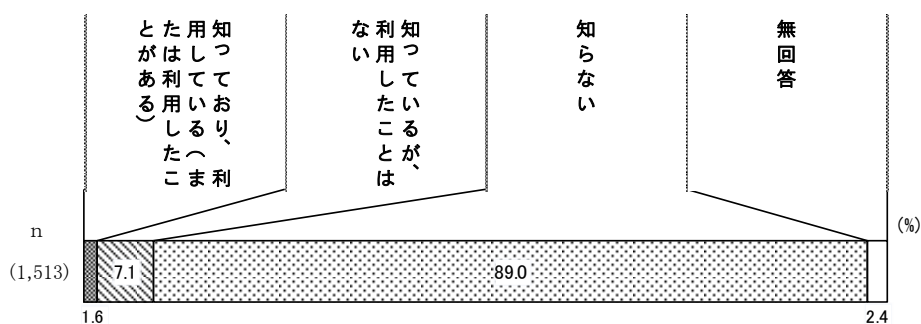
※基数が少ない「すぐに引越したい」は参考までに掲載している。

(8) 区以外が取り組んでいるサービスの認知度

問13 江東区国際友好連絡会（I.F.C.）など、区以外が取り組んでいる活動を知っていますか。【〇は1つだけ】

区以外が取り組んでいるサービスの認知度では、「知らない」が89.0%を占め、「知っているが、利用したことはない」が7.1%、「知っており、利用している（または利用したことがある）」が1.6%となっている。

《単一回答》



4. 日常生活

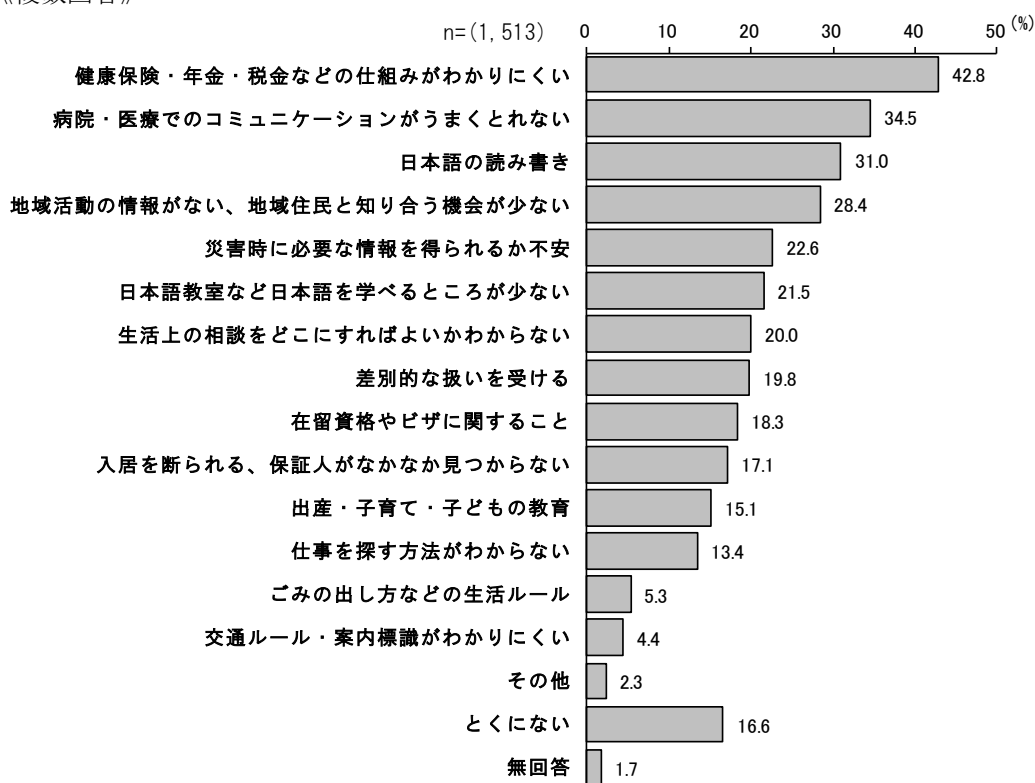
(1) 日本での生活で困っていること・心配なこと

問14 これまで日本で生活していて、困ったことや心配なことはありますか。

【〇はあてはまるものすべて】

日本での生活で困っていること・心配なことでは、「健康保険・年金・税金などの仕組みがわかりにくい」が42.8%で最も多く、以下、「病院・医療でのコミュニケーションがうまくとれない」(34.5%)、「日本語の読み書き」(31.0%)、「地域活動の情報がない、地域住民と知り合う機会が少ない」(28.4%)となっている。

《複数回答》



〈 居住地域別、居住年数別／日本ででの生活で困っていること・心配なこと 〉

居住地域別にみると、困りごと・心配事で「とくにない」の割合が【臨海地区】でやや高く、「生活上の相談をどこにすればよいかわからない」や「仕事を探す方法がわからない」割合が他地域よりも低くなっている。一方、【城東地区】では「病院・医療でのコミュニケーションがうまくとれない」や「日本語教室など日本語を学べる場所が少ない」が比較的高くなっている。

居住年数別では、多くの項目で居住年数が短くなるほど割合が高くなる傾向があり、【3年未満】では「地域活動の情報がない、地域住民と知り合う機会が少ない」、【1年未満】では「在留資格やビザに関すること」、「入居を断られる、保証人がなかなか見つからない」が、特に他層より高くなっている。

(%)

《複数回答》		n	健康保険・年金・税金などの仕組みがわかりにくい	病院・医療でのコミュニケーションがうまくとれない	日本語の読み書き	地域活動の情報がない、地域住民と知り合う機会が少ない	災害時に必要な情報を得られるか不安	日本語教室など日本語を学べる場所が少ない	生活上の相談をどこにすればよいかわからない	差別的な扱いを受ける	在留資格やビザに関すること
全体		1,513	42.8	34.5	31.0	28.4	22.6	21.5	20.0	19.8	18.3
地域別 居住	深川地区	407	43.2	32.7	29.2	25.8	22.9	18.4	20.1	20.4	18.2
	城東地区	741	44.0	38.9	33.7	29.3	24.7	25.4	21.7	19.7	19.4
	臨海地区	324	38.9	28.1	26.5	28.1	17.9	16.7	14.2	18.2	14.8
居住年数別	1年未満	190	49.5	38.9	30.5	38.9	25.8	22.1	23.7	17.9	28.4
	1～3年未満	339	47.8	43.7	31.3	37.2	24.5	28.9	21.2	19.5	18.6
	3～5年未満	289	40.1	34.6	32.9	29.1	20.4	22.1	21.8	23.5	18.7
	5～10年未満	263	43.3	35.4	25.5	29.3	22.4	22.1	20.2	22.4	19.0
	10～20年未満	245	40.8	28.2	36.3	19.6	22.9	15.5	14.7	18.8	13.9
	20年以上	167	32.3	19.2	30.5	10.8	19.8	13.2	18.0	15.0	12.0

		n	入居を断られる、保証人がなかなか見つからない	出産・子育て・子どもの教育	仕事を探す方法がわからない	ごみの出し方などの生活ルール	交通ルール・案内標識がわかりにくい	その他	とくにない	無回答
全体		1,513	17.1	15.1	13.4	5.3	4.4	2.3	16.6	1.7
地域別 居住	深川地区	407	17.4	13.5	12.0	3.9	3.2	2.9	17.4	2.0
	城東地区	741	18.4	14.6	16.6	5.9	5.1	1.6	14.0	1.9
	臨海地区	324	13.6	17.6	7.7	6.2	4.6	3.1	21.3	0.9
居住年数別	1年未満	190	26.3	15.3	17.4	7.9	5.3	1.6	11.1	1.6
	1～3年未満	339	18.9	16.5	14.2	7.7	4.4	1.8	12.7	0.6
	3～5年未満	289	19.0	20.8	14.2	5.5	3.8	3.8	13.1	1.0
	5～10年未満	263	16.3	18.6	11.4	4.2	6.1	2.3	15.2	1.5
	10～20年未満	245	11.0	10.6	10.2	2.9	4.5	2.0	20.4	1.6
	20年以上	167	10.8	4.2	13.2	2.4	1.8	2.4	31.7	3.6

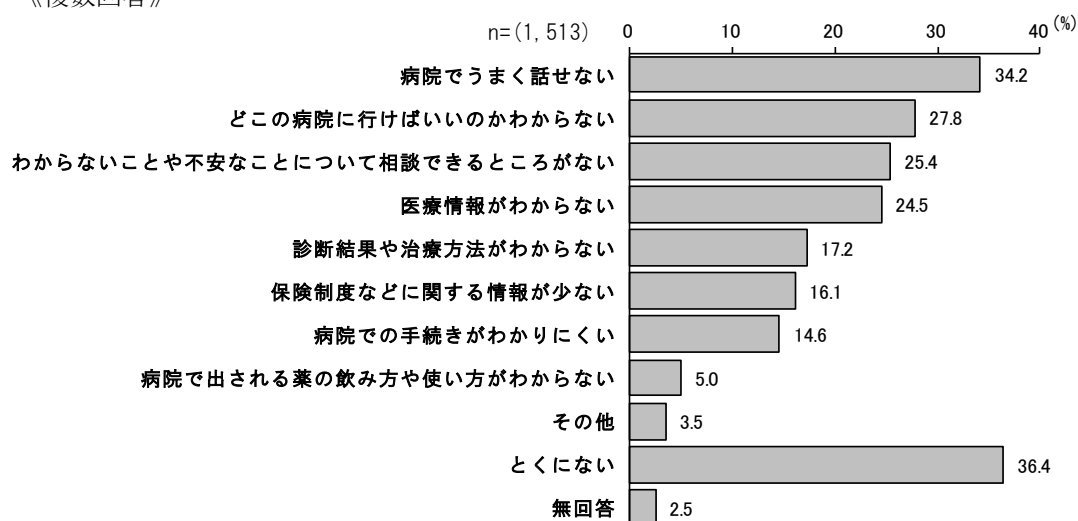
(2) 病院を利用する際に困ったこと

問15 病院を利用する際に、困ったことや不満に思ったことは何ですか。

【〇はあてはまるものすべて】

全体から「とくにない」と「無回答」を除いた、『病院を利用する際に困ったこと』などの割合は61.1%である。具体的には、「病院でうまく話せない」が(34.2%)が最も多く、以下、「どこの病院に行けばいいのかわからない」(27.8%)、「わからないことや不安なことについて相談できるところがない」(25.4%)、「医療情報がわからない」(24.5%)となっている。

《複数回答》



〈 居住地域別、居住年数別／病院で困ったこと 〉

居住地域別でみると、【城東地区】で「病院でうまく話せない」が他の項目よりも高くなっている。一方、【深川地区】と【臨海地区】では「とくにない」が4割以上となっている。

居住年数別では、おおむね居住年数が短くなるほど割合の高い項目が多くなり、特に「病院でうまく話せない」と「どこの病院に行けばいいのかわからない」の割合が他の項目より高くなっている。

(%)

《複数回答》		n	病院でうまく話せない	どこの病院に行けばいいのかわからない	わからないことや不安なことについて相談できるところがない	医療情報がわからない	診断結果や治療方法がわからない	保険制度などに関する情報が少ない	病院での手続きがわかりにくい	病院で出される薬の飲み方や使い方がわからない	その他
全体		1,513	34.2	27.8	25.4	24.5	17.2	16.1	14.6	5.0	3.5
地域別 居住	深川地区	407	28.7	27.5	22.1	20.9	16.7	15.7	13.0	4.4	3.7
	城東地区	741	40.2	29.3	28.7	28.1	18.8	16.7	15.9	5.5	3.0
	臨海地区	324	27.5	25.3	22.2	20.7	14.8	14.8	14.2	4.3	4.9
	居住年数別										
	1年未満	190	35.8	38.4	27.9	28.9	15.3	21.1	15.8	5.3	3.2
	1～3年未満	339	44.5	34.5	33.6	28.0	19.2	18.6	20.6	7.1	6.5
	3～5年未満	289	34.6	27.0	25.6	23.5	15.9	17.6	14.5	4.8	3.1
	5～10年未満	263	35.4	23.6	23.6	25.1	21.3	11.8	11.4	3.8	1.9
	10～20年未満	245	29.4	23.7	21.6	22.0	15.5	15.9	11.4	3.3	4.1
	20年以上	167	16.2	18.0	15.6	15.6	13.2	9.6	10.8	6.0	0.6

		n	とくにない	無回答
全体		1,513	36.4	2.5
地域別 居住	深川地区	407	40.3	2.7
	城東地区	741	32.5	2.8
	臨海地区	324	41.4	1.2
	居住年数別			
	1年未満	190	29.5	1.1
	1～3年未満	339	25.1	1.2
	3～5年未満	289	36.3	3.5
	5～10年未満	263	41.8	1.9
	10～20年未満	245	38.0	2.0
	20年以上	167	56.3	5.4

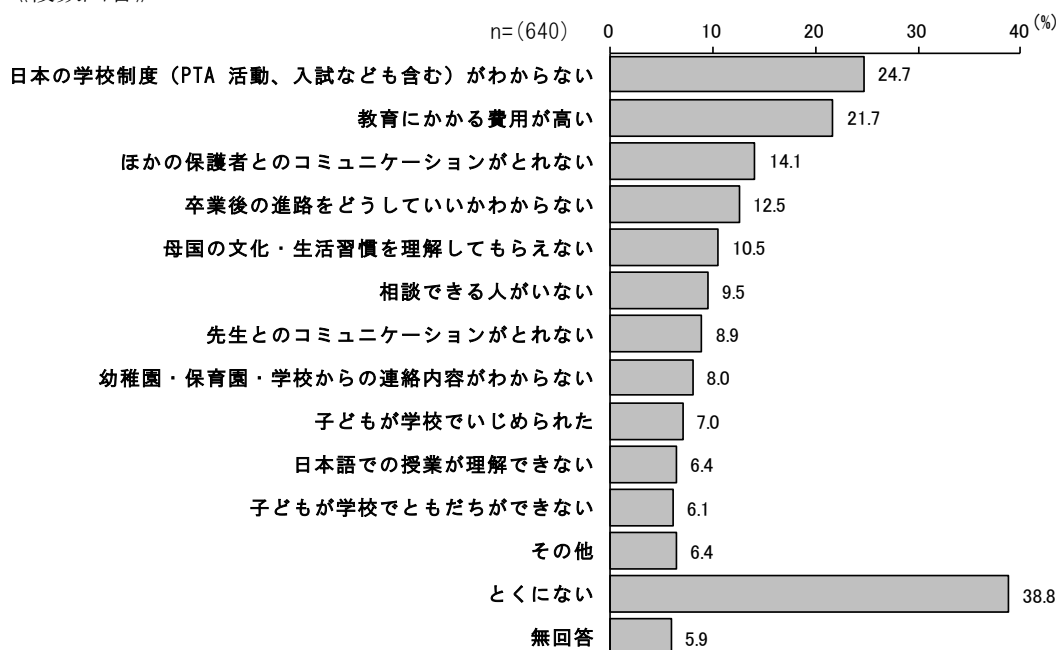
(3) 学校で困ったこと

問16 あなたのお子さん、またはあなた自身が学校で困ったことがありますか。

【〇はあてはまるものすべて】

全体から「とくにない」と「無回答」を除いた、『学校で困ったことがあった』などの割合は55.3%である。具体的には、「日本の学校制度（PTA 活動、入試なども含む）がわからない」（24.7%）が最も多く、以下、「教育にかかる費用が高い」（21.7%）、「ほかの保護者とのコミュニケーションがとれない」（14.1%）となっている。

《複数回答》

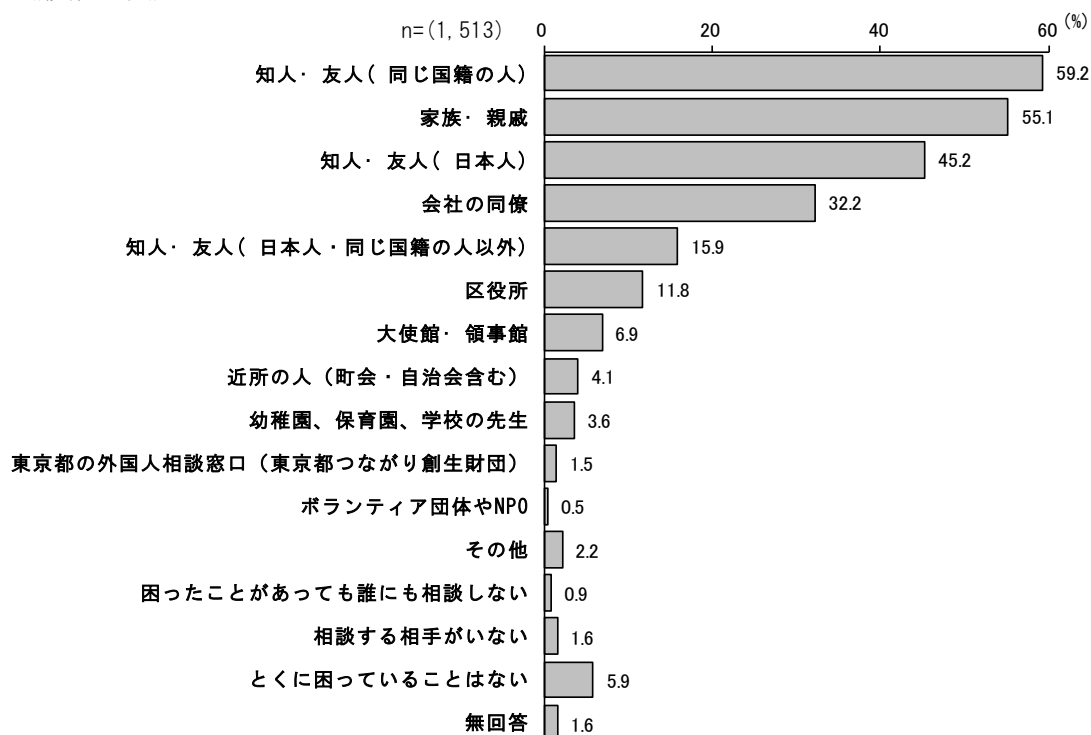


(4) 日常生活で困っていることがあった場合の相談相手

問17 日常生活で困っていることがあった場合の相談相手は誰ですか。
 【〇はあてはまるものすべて】

日常生活で困っていることがあった場合の相談相手では、「知人・友人（同じ国籍の人）」が59.2%で最も多く、以下、「家族・親戚」（55.1%）、「知人・友人（日本人）」（45.2%）、「会社の同僚」（32.2%）となっている。

《複数回答》



第3章 外国籍区民調査結果の詳細

〈 居住年数別／日常生活で困っていることがあった場合の相談相手 〉

居住年数別では、年数が短いほど割合が高くなる傾向があるものとして「知人・友人（同じ国籍の人）」、「会社の同僚」、「知人・友人（日本人・同じ国籍の人以外）」であり、逆に「家族・親戚」は居住年数が長くなるほど割合が高くなっている。

(%)

《複数回答》	n	知人・友人(同じ国籍の人)	家族・親戚	知人・友人(日本人)	会社の同僚	知人・友人(日本人・同じ国籍の人以外)	区役所	大使館・領事館	近所の人(町会・自治会含む)	幼稚園、保育園、学校の先生
全体	1,513	59.2	55.1	45.2	32.2	15.9	11.8	6.9	4.1	3.6
1年未満	190	68.4	42.1	46.3	34.2	20.5	15.3	8.4	3.2	5.8
1～3年未満	339	71.4	45.7	48.7	41.9	18.9	8.3	5.3	2.7	2.1
3～5年未満	289	59.2	56.1	44.3	34.3	15.9	12.8	7.6	4.5	3.1
5～10年未満	263	60.1	61.6	45.2	30.8	15.2	10.6	8.7	4.2	5.7
10～20年未満	245	51.0	62.4	47.8	29.4	13.9	13.1	4.9	5.7	3.7
20年以上	167	37.1	64.7	37.7	16.8	10.2	14.4	6.6	4.8	1.2

	n	東京都の外国人相談窓口(東京都つながり創生財団)	ボランティア団体やNPO	その他	困ったことがあっても誰にも相談しない	相談する相手がない	とくに困っていることはない	無回答
全体	1,513	1.5	0.5	2.2	0.9	1.6	5.9	1.6
1年未満	190	2.6	-	2.6	1.1	1.6	5.8	1.1
1～3年未満	339	0.9	0.3	2.9	0.9	0.6	4.4	0.6
3～5年未満	289	1.4	1.4	1.7	1.4	2.1	4.8	1.7
5～10年未満	263	1.1	-	1.9	0.4	0.8	4.9	1.5
10～20年未満	245	1.2	-	2.4	0.8	2.4	6.9	1.6
20年以上	167	1.8	1.2	1.2	0.6	2.4	10.2	3.0

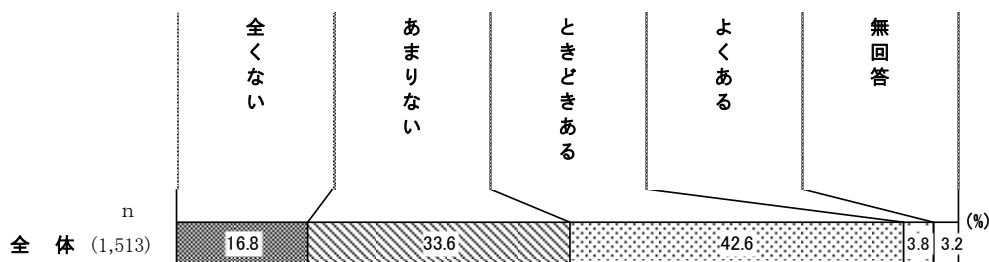
(5) 日本人からの差別の経験

問18 あなたは、ふだんの生活の中で日本人から外国人に対する偏見や差別を感じたことがありますか。【○は1つだけ】

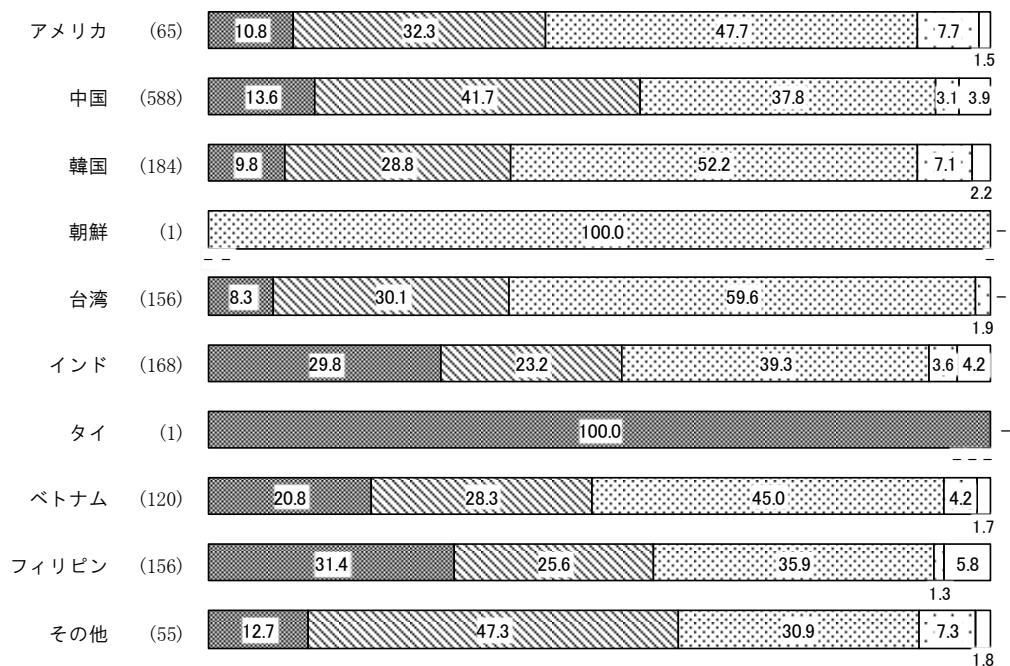
日本人からの差別の有無では、「ときどきある」が42.6%で最も多く、「よくある」(3.8%)を合わせた『ある』は46.4%と半数近くとなっている。

国籍別にみると、『ある』は、【アメリカ】(55.4%)、【韓国】(59.3%)、【台湾】(61.5%)で割合が高くなっている

《単一回答》



【国籍別】



※基数が少ない「朝鮮」、「タイ」は参考までに掲載している。

第3章 外国籍区民調査結果の詳細

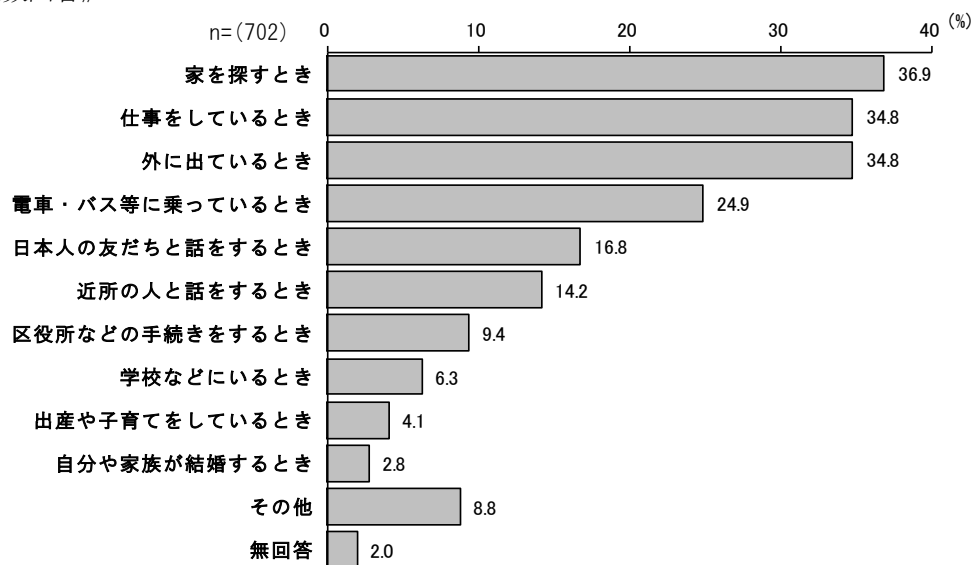
問18で「3. ときどきある」または「4. よくある」と回答した方が対象

偏見・差別をどのような場面で感じましたか。【〇はあてはまるものすべて】

※調査票の間18-1

偏見・差別を感じた場面では、「家を探するとき」が36.9%で最も多く、以下、「仕事をしているとき」(34.8%)、「外に出ているとき」(34.8%)、「電車・バス等に乗っているとき」(24.9%)となっている。

《複数回答》



〈 国籍別／日本人からの差別の経験／偏見・差別を感じた場面 〉

国籍別にみると、【アメリカ】は、「家を探するとき」(55.6%)や「外に出ているとき」(47.2%)が多くなっている。一方、【中国】、【台湾】、【フィリピン】は、「仕事をしているとき」が4割を超えている。

《複数回答》	n	(%)								
		家を探するとき	仕事をしているとき	外に出ているとき	電車・バス等に乗っているとき	日本人の友だちと話すとき	近所の人と話すとき	区役所などの手続きをするとき	学校などにいるとき	出産や子育てをしているとき
全体	702	36.9	34.8	34.8	24.9	16.8	14.2	9.4	6.3	4.1
アメリカ	36	55.6	25.0	47.2	30.6	36.1	11.1	5.6	-	11.1
中国	240	30.8	42.5	33.8	22.5	10.0	13.8	6.7	8.8	0.4
韓国	109	36.7	21.1	31.2	16.5	12.8	24.8	23.9	9.2	5.5
朝鮮	1	-	-	-	-	-	-	100.0	-	-
台湾	96	39.6	42.7	33.3	19.8	13.5	7.3	11.5	6.3	3.1
インド	72	33.3	15.3	31.9	45.8	27.8	13.9	-	2.8	6.9
タイ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ベトナム	59	35.6	35.6	33.9	37.3	10.2	15.3	3.4	3.4	1.7
フィリピン	58	41.4	46.6	39.7	17.2	32.8	10.3	8.6	5.2	8.6
その他	21	66.7	19.0	57.1	28.6	28.6	14.3	14.3	-	19.0

	n	自分や家族が結婚するとき	その他	無回答
全体	702	2.8	8.8	2.0
アメリカ	36	8.3	11.1	2.8
中国	240	1.7	6.7	1.7
韓国	109	4.6	8.3	3.7
朝鮮	1	-	-	-
台湾	96	3.1	13.5	1.0
インド	72	2.8	13.9	2.8
タイ	-	-	-	-
ベトナム	59	-	6.8	3.4
フィリピン	58	3.4	5.2	-
その他	21	4.8	14.3	-

※基数が少ない「朝鮮」は参考までに掲載している。また、この設問での回答者がいない「タイ」は、その旨を示すために掲載している。

第3章 外国籍区民調査結果の詳細

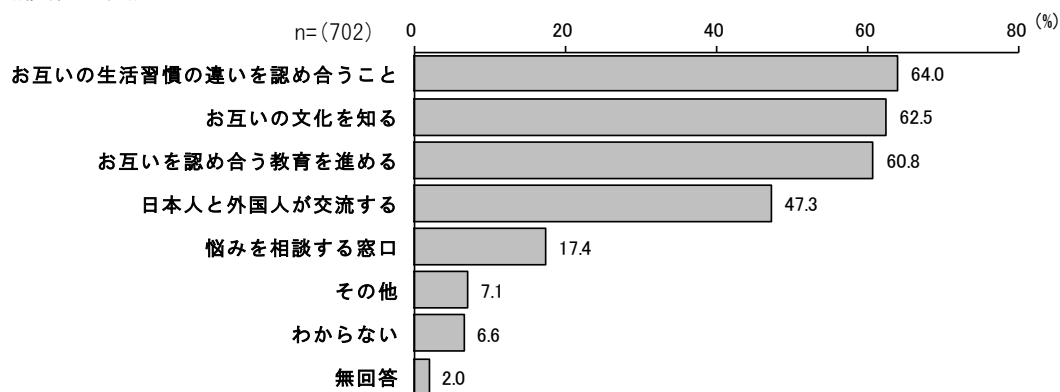
問18で「3. ときどきある」または「4. よくある」と回答した方が対象

偏見・差別をなくすためには何が必要だと思いますか。【〇はあてはまるものすべて】

※調査票の間18-2

偏見・差別をなくすために必要なことでは、「お互いの生活習慣の違いを認め合うこと」が64.0%で最も多く、以下、「お互いの文化を知る」(62.5%)、「お互いを認め合う教育を進める」(60.8%)、「日本人と外国人が交流する」(47.3%)となっている。

《複数回答》

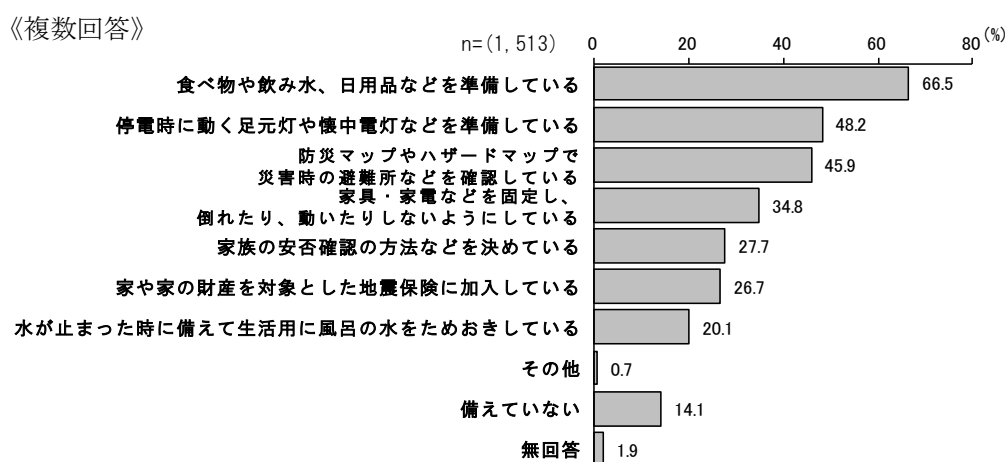


5. 防災関連

(1) 災害への備え

問19 次にあげるものは地震などの災害時に備えておく必要があります。この中でどれを備えていますか。【〇はあてはまるものすべて】

災害への備えでは、「食べ物や飲み水、日用品などを準備している」が66.5%で最も多く、以下、「停電時に動く足元灯や懐中電灯などを準備している」(48.2%)、「防災マップやハザードマップで災害時の避難所などを確認している」(45.9%)、「家具・家電などを固定し、倒れたり、動いたりしないようにしている」(34.8%)となっている。



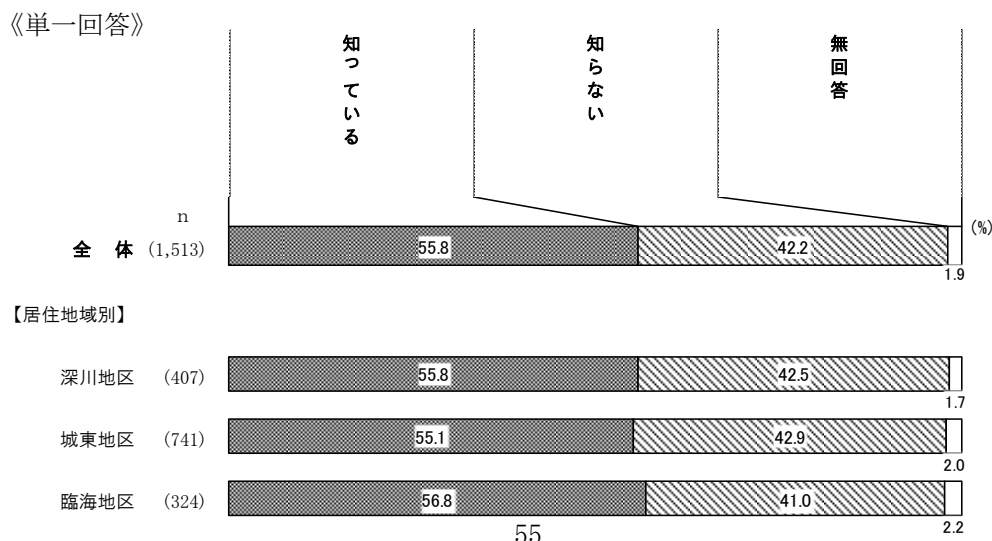
(2) 避難所の認知度

問20 避難所は住んでいる場所によって違います。自分が避難する所を知っていますか。【〇は1つだけ】

避難所の認知度では、「知っている」が55.8%、「知らない」が42.2%となっている。

〈 居住地域別／避難所の認知度 〉

居住地域別では、特に大きな違いはみられない。



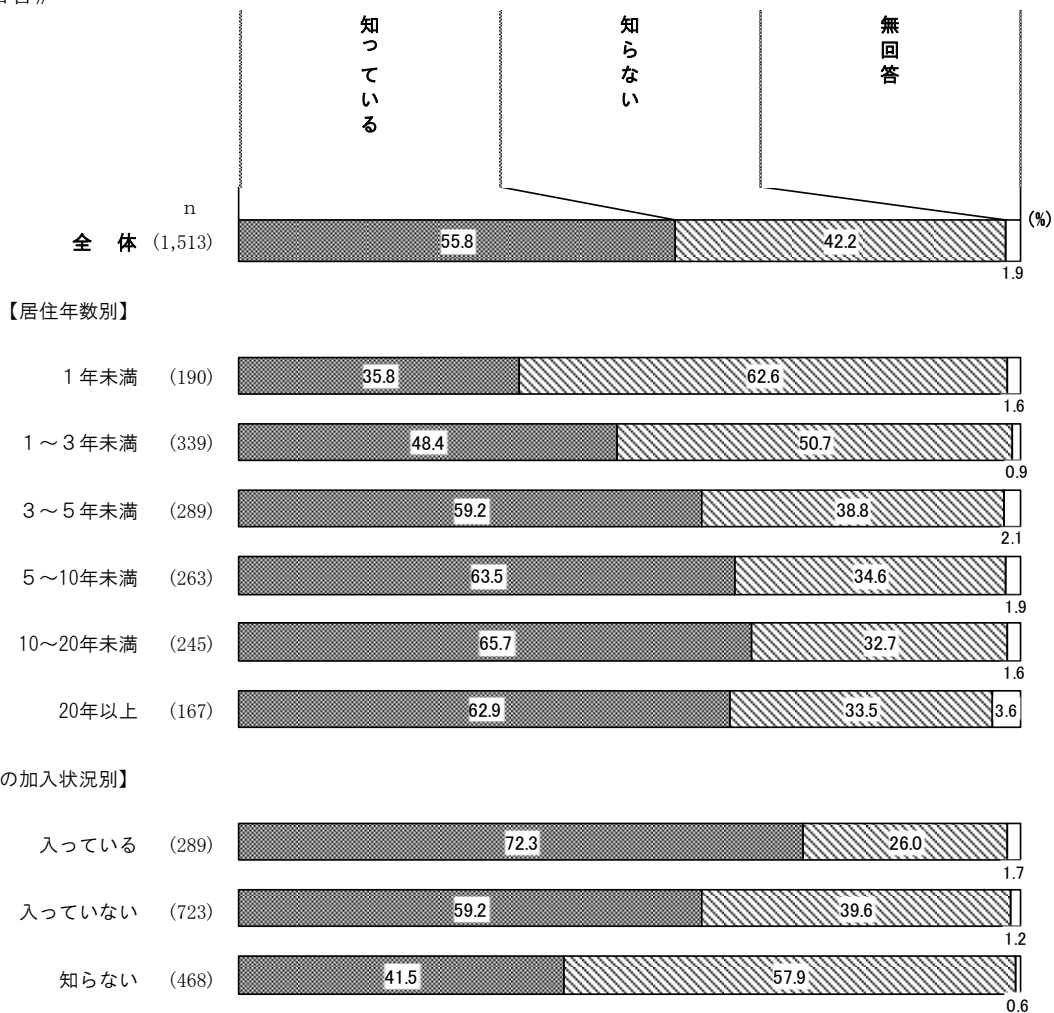
第3章 外国籍区民調査結果の詳細

〈 居住年数別、町会・自治会への加入状況別／避難所の認知度〉

居住年数別にみると、居住年数が短いほど、避難所を「知らない」割合がおおむね高くなっている。

町会・自治会への加入状況別にみると、町会・自治会を【知らない】層で避難所を「知らない」割合が高くなっている。

《単一回答》



(3) 防災訓練の認知度

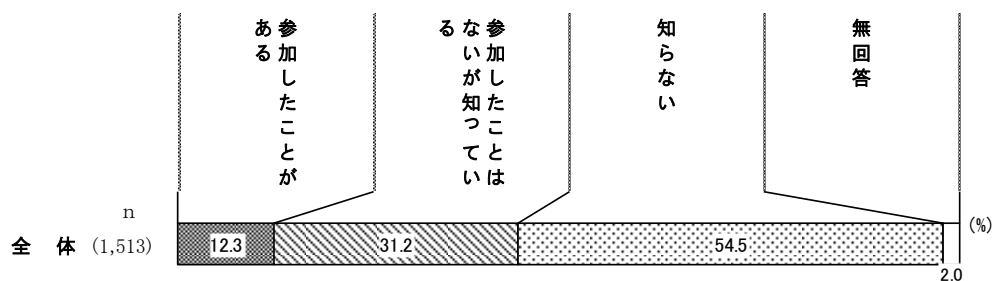
問21 江東区やお住まいの地域で防災訓練が行われているのを知っていますか。
【〇は1つだけ】

防災訓練の認知度では、「知らない」が54.5%と過半数を占める一方、「参加したことがある」は12.3%となっている。

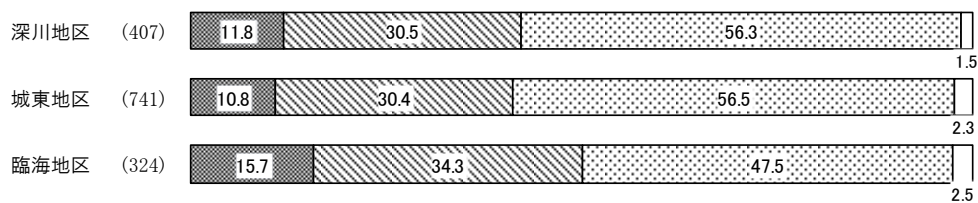
〈 居住地域別／防災訓練の認知度 〉

居住地域別では、【臨海地区】で「参加したことがある」と「参加したことはないが知っている」の割合が他地区よりやや高くなっている。

《単一回答》



【居住地域別】



6. 地域とのつながり

(1) 町会・自治会への加入状況

問22 町会・自治会に入っていますか。【〇は1つだけ】

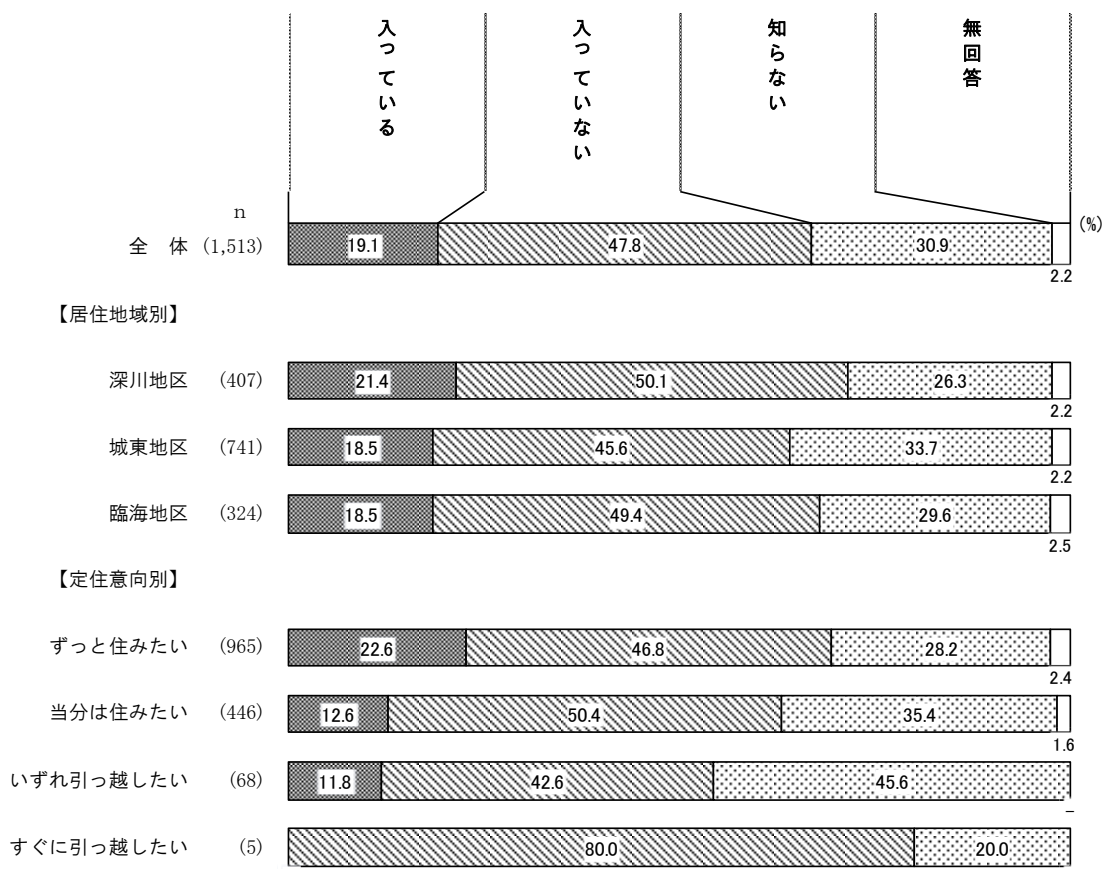
町会・自治会への加入状況では、「入っていない」が47.8%で最も多く、以下、「知らない」(30.9%)、「入っている」(19.1%)となっている。

〈 居住地域別、定住意向別／町会・自治会への加入状況 〉

居住地域別にみると、【深川地区】で「入っている」の割合がやや高くなっている。一方、【城東地区】で「知らない」が3割以上となっている。

定住意向別にみると、定住意向が強くなるほど「知らない」の割合が低くなり、「入っている」の割合が高くなる。

《単一回答》



※基数が少ない「すぐに引っ越したい」は参考までに掲載している。

(2) 町会・自治会活動への参加状況と参加しない理由

問23 町会・自治会の活動に参加していますか。【〇は1つだけ】

町会・自治会活動への参加状況では、「参加していない」が81.4%、「参加している」が14.5%となっている。

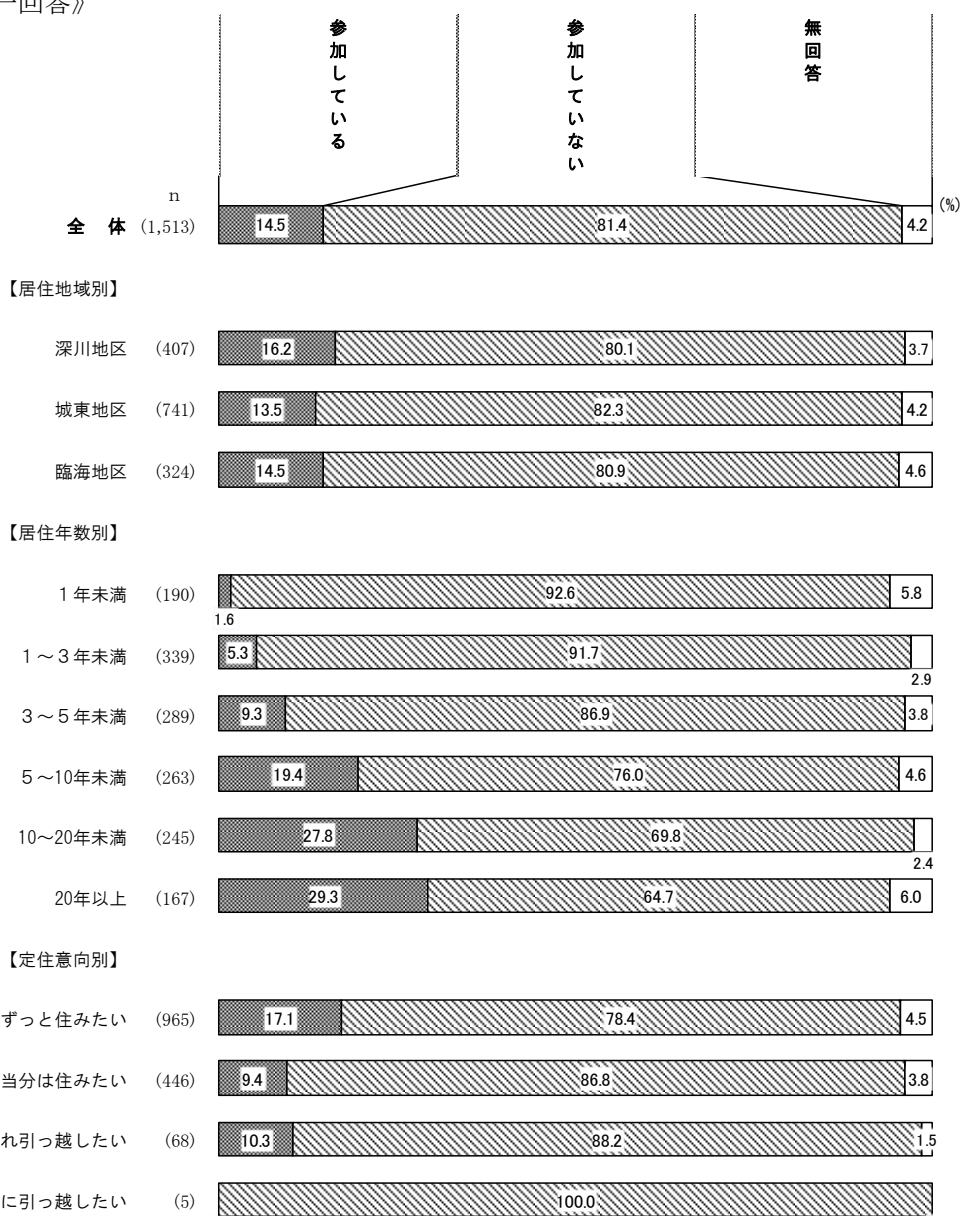
〈 居住地域別、在住年数別、定住意向別／町会・自治会活動への参加状況 〉

居住地域別にみると、特に大きな違いはみられない。

居住年数別にみると、居住年数が短いほど「参加していない」割合が高く、【3年未満】になると、9割以上となっている。

定住意向別にみると、「参加している」の割合は、【ずっと住みたい】で17.1%と他層より高くなっている。

《単一回答》



※基数が少ない「すぐに引越したい」は参考までに掲載している。

第3章 外国籍区民調査結果の詳細

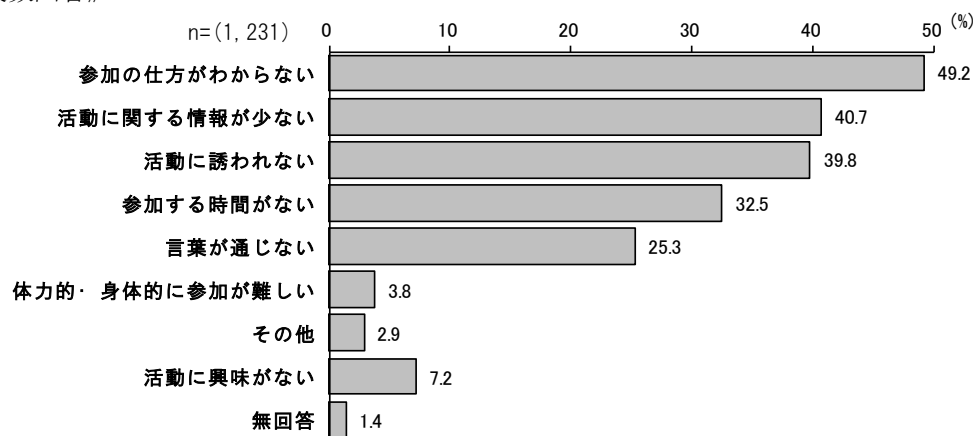
問23で「2. 参加していない」と回答した方のみが対象

地域活動に参加しない理由は何ですか。【〇はあてはまるものすべて】

※調査票の間23-1

地域活動に参加しない理由では、「参加の仕方がわからない」が49.2%で最も多く、以下、「活動に関する情報が少ない」(40.7%)、「活動に誘われない」(39.8%)、「参加する時間がない」(32.5%)となっている。

《複数回答》



(3) 地域に暮らす日本人との交流

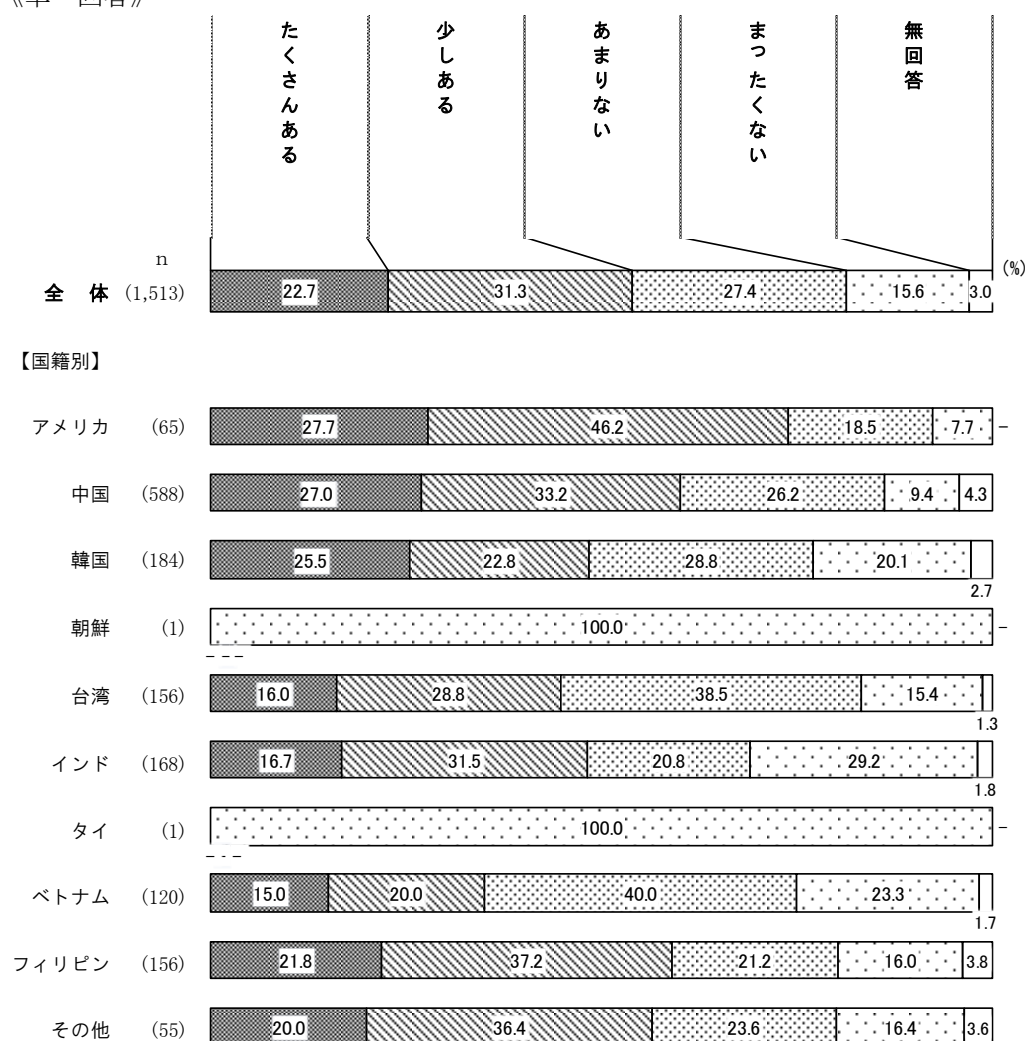
問24 地域に暮らす日本人と交流する機会がありますか。【○は1つだけ】

地域に暮らす日本人と交流する機会では、「少しある」が31.3%で最も多く、「たくさんある」(22.7%) と合わせた『ある』は54.0%となっている。一方、『ない』は43.0%となっている。

〈 国籍別／地域に暮らす日本人との交流／交流する機会 〉

国籍別の割合をみると、『ある』は【アメリカ】(73.9%) や【中国】(60.2%) などが高くなっているが、【ベトナム】(35.0%) が3割台と低くなっている。

《単一回答》



※基数が少ない「朝鮮」、「タイ」は参考までに掲載している。

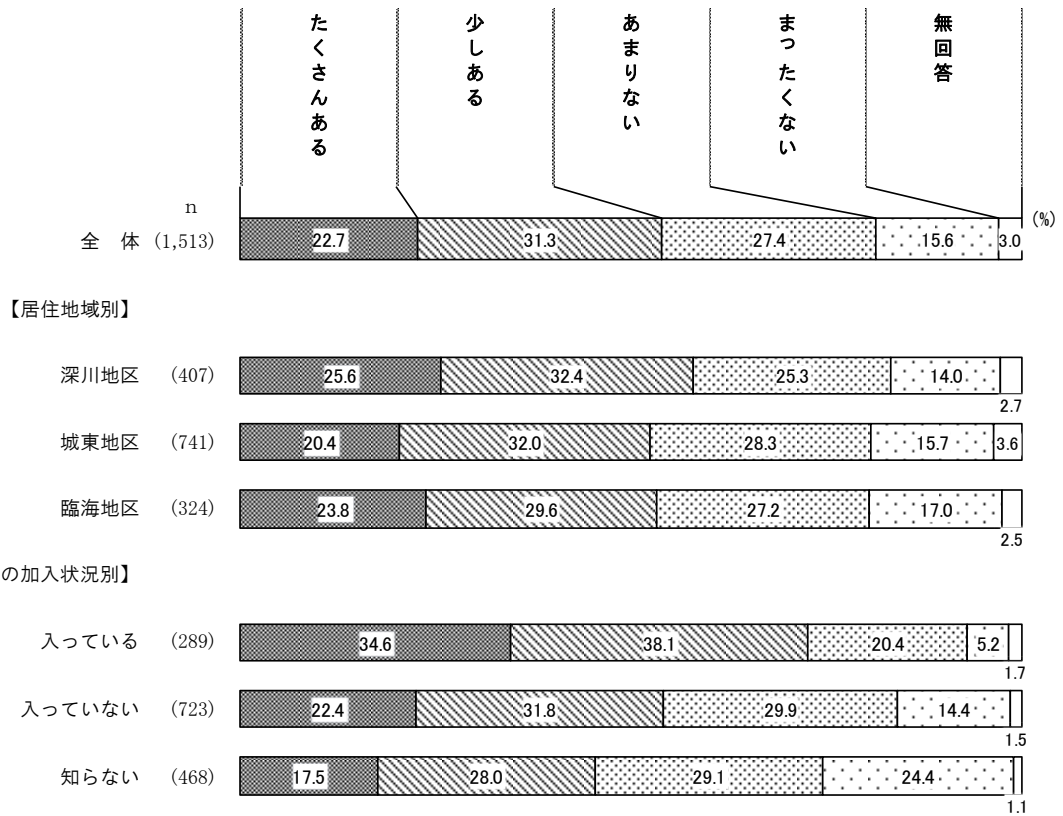
第3章 外国籍区民調査結果の詳細

〈 居住地域別、町会・自治会への加入状況別／地域に暮らす日本人との交流／交流する機会 〉

居住地域別にみると、【深川地区】で『ある』が58.0%とやや多くなっている。

町会・自治会への加入状況別にみると、【入っている】のうち、『ある』と回答している割合は72.7%と他の項目よりも大幅に高くなっている。

《単一回答》

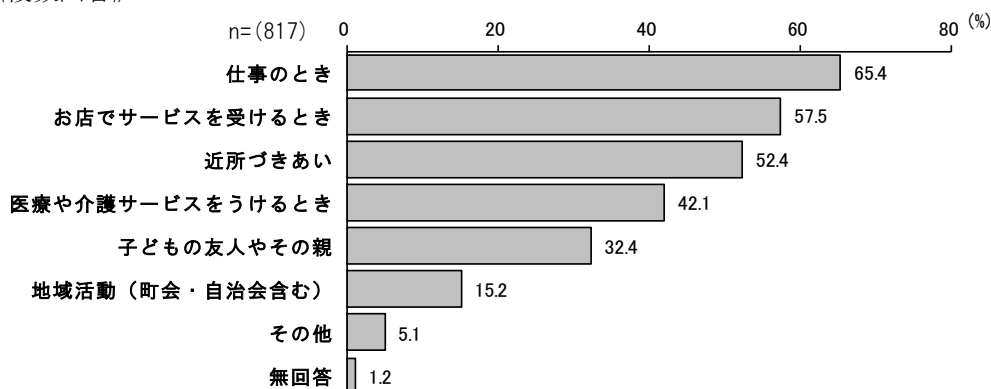


問24で「1. たくさんある」または「2. 少しある」と回答した方のみが対象

地域内で日本人と関わるのはどのような場面ですか。【〇はあてはまるものすべて】
 ※調査票の間24-1

日本人と関わる場面では、「仕事するとき」が65.4%で最も多く、以下、「お店でサービスを受けるとき」(57.5%)、「近所づきあい」(52.4%)、「医療や介護サービスをうけるとき」(42.1%)となっている。

《複数回答》



〈町会・自治会への加入状況別／地域に暮らす日本人との交流／日本人と関わる場面〉

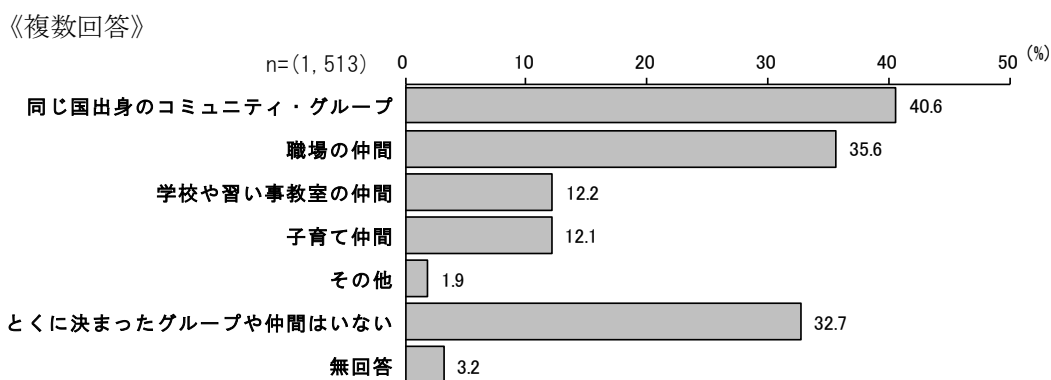
町会・自治会への加入状況別にみると、【入っている】層では、「地域活動(町会・自治会含む)」に参加している割合は41.0%と大幅に高くなっている。

《複数回答》		n	仕事するとき	お店でサービスを受けるとき	近所づきあい	医療や介護サービスをうけるとき	子どもの友人やその親	地域活動(町会・自治会含む)	その他	無回答
全体		817	65.4	57.5	52.4	42.1	32.4	15.2	5.1	1.2
加入自治会 状況別の	入っている	210	55.7	50.5	69.0	42.4	40.0	41.0	4.3	1.4
	入っていない	392	69.4	63.0	49.7	44.1	30.9	7.7	5.9	0.5
	知らない	213	67.6	54.5	41.3	38.5	28.2	3.8	4.7	1.9

(4) 外国人同士の交流

問25 あなたは、以下であげられるような、外国人どうしで相談、情報交換などができる仲間やグループの集まりに参加していますか。【〇はあてはまるものすべて】

外国人同士の交流状況では、全体から「とくに決まったグループや仲間はいない」(32.7%)と「無回答」(3.2%)を除いた64.1%に交流がみられた。具体的な集まりとして、「同じ国出身のコミュニティ・グループ」が40.6%で最も多く、以下、「職場の仲間」(35.6%)、「学校や習い事教室の仲間」(12.2%)、「子育て仲間」(12.1%)となっている。



〈 居住地域別、町会・自治会への加入状況別／外国人同士の交流／交流状況 〉

居住地域別では、【深川地区】で「同じ国出身のコミュニティ・グループ」の割合がやや低くなっている。

町会・自治会への加入状況別にみると、【入っている】のうち、「同じ国出身のコミュニティ・グループ」や「職場の仲間」がやや低い反面、「子育て仲間」の割合が高くなっている。また、【入っていない】では、「とくに決まったグループや仲間はいない」の割合が低くなっている。

《複数回答》		n	同じ国出身のコミュニティ・グループ	職場の仲間	学校や習い事教室の仲間	子育て仲間	その他	とくに決まったグループや仲間はいない	無回答
全体		1,513	40.6	35.6	12.2	12.1	1.9	32.7	3.2
地域別 居住	深川地区	407	36.4	35.6	11.5	10.6	2.5	35.1	3.7
	城東地区	741	43.0	37.4	11.5	11.9	1.5	31.6	3.4
	臨海地区	324	41.0	31.8	14.5	14.2	1.9	31.2	2.8
加入状況別 自治会への	入っている	289	37.0	31.1	11.4	20.1	1.4	39.1	2.4
	入っていない	723	43.2	38.7	14.2	12.2	2.4	27.9	2.6
	知らない	468	41.0	34.8	10.5	7.9	1.5	36.3	1.7

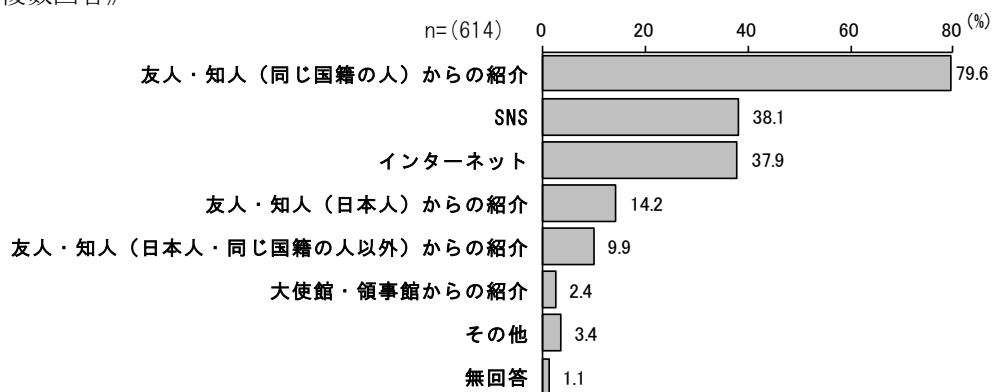
問25で「2. 同じ国出身のコミュニティ・グループ」と回答した方のみが対象

その仲間やグループはどのように知りましたか。【〇はあてはまるものすべて】

※調査票の間25-1

「同じ国出身のコミュニティ・グループ」の把握方法は、「友人・知人（同じ国籍の人）からの紹介」が79.6%で最も多く、以下、「SNS」（38.1%）、「インターネット」（37.9%）、「友人・知人（日本人）からの紹介」（14.2%）となっている。

《複数回答》

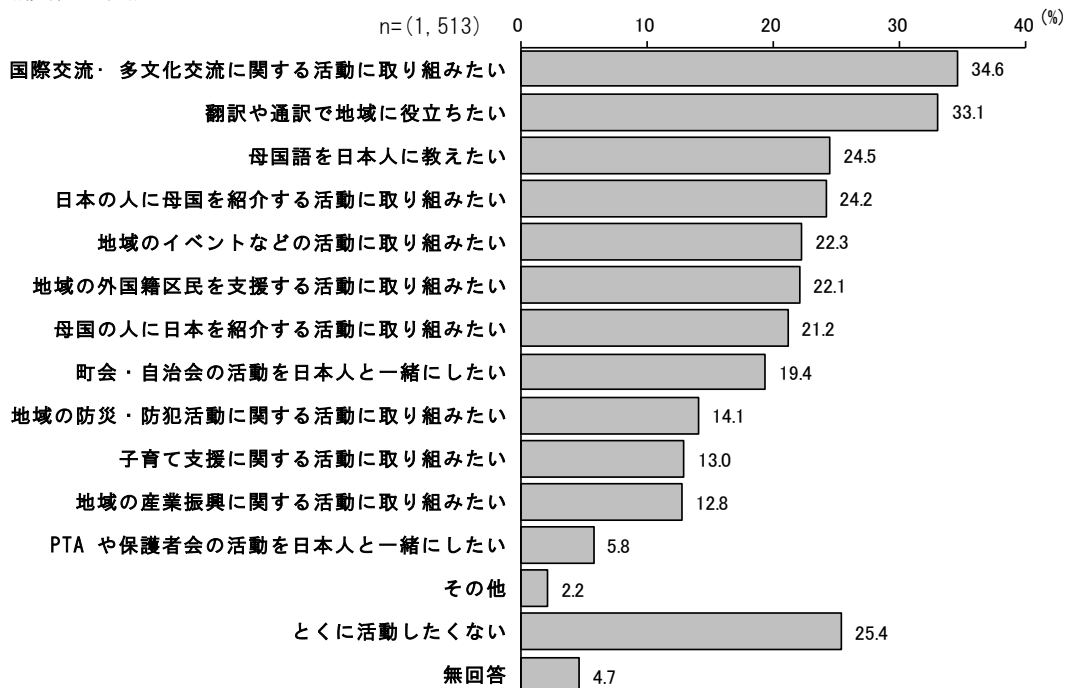


(5) 地域の中で活動してみたいこと

問26 地域の中でどのような活動してみたいですか。【〇はあてはまるものすべて】

地域の中で活動してみたいことでは、全体から「とくに活動したくない」(25.4%)と「無回答」(4.7%)を除いた69.9%が『何らかの活動してみたい』と回答している。具体的には、「国際交流・多文化交流に関する活動に取り組みたい」が34.6%で最も多く、以下、「翻訳や通訳で地域に役立ちたい」(33.1%)、「母国語を日本人に教えたい」(24.5%)、「日本の人に母国を紹介する活動に取り組みたい」(24.2%)となっている。

《複数回答》



〈 居住地域別、日本人との交流機会別／地域の中で活動してみたいこと 〉

居住地域別では、特に大きな違いはみられない。

日本人との交流機会別でみると、交流が少ないほど割合が高くなる傾向があるものとして「国際交流・多文化交流に関する活動に取り組みたい」、「日本の人に母国を紹介する活動に取り組みたい」、「地域の外国籍区民を支援する活動に取り組みたい」などがある。

(%)

《複数回答》		n	国際交流・多文化交流に関する活動に取り組みたい	翻訳や通訳で地域に役立ちたい	母国語を日本人に教えたい	日本人に母国を紹介する活動に取り組みたい	地域のイベントなどの活動に取り組みたい	地域の外国籍区民を支援する活動に取り組みたい	母国の人に日本を紹介する活動に取り組みたい	町会・自治会の活動を日本人と一緒にしたい	地域の防災・防犯活動に関する活動に取り組みたい
全体		1,513	34.6	33.1	24.5	24.2	22.3	22.1	21.2	19.4	14.1
地域別 居住	深川地区	407	31.0	32.9	22.6	22.1	23.1	20.6	17.9	18.4	15.2
	城東地区	741	35.5	32.4	25.2	26.5	22.4	21.9	23.8	21.1	14.2
	臨海地区	324	37.0	36.4	25.9	21.6	21.0	23.1	19.1	17.3	12.0
交流機会別の日本人との	たくさんある	344	30.5	35.8	25.6	21.8	17.2	20.3	20.3	18.3	16.3
	少しある	473	33.8	29.6	25.4	24.1	23.7	20.1	18.8	19.0	11.2
	あまりない	414	35.3	37.0	24.2	24.9	20.5	22.9	21.5	19.6	13.0
	まったくない	236	44.5	32.6	22.5	27.5	33.1	29.7	27.1	23.3	19.9

		n	子育て支援に関する活動に取り組みたい	地域の産業振興に関する活動に取り組みたい	PTA や保護者会の活動を日本人と一緒にしたい	その他	とくに活動したくない	無回答
全体		1,513	13.0	12.8	5.8	2.2	25.4	4.7
地域別 居住	深川地区	407	12.3	12.5	4.7	2.2	27.3	5.4
	城東地区	741	12.6	12.3	5.8	2.7	24.3	4.9
	臨海地区	324	15.4	13.9	6.8	0.9	25.6	3.4
交流機会別の日本人との	たくさんある	344	11.3	16.0	5.8	2.3	27.6	4.1
	少しある	473	13.5	11.4	5.3	1.9	24.9	3.6
	あまりない	414	14.0	9.2	4.8	2.4	23.2	4.8
	まったくない	236	13.6	17.8	7.2	1.3	28.4	2.1

第3章 外国籍区民調査結果の詳細

(6) ボランティアなどの協力意向

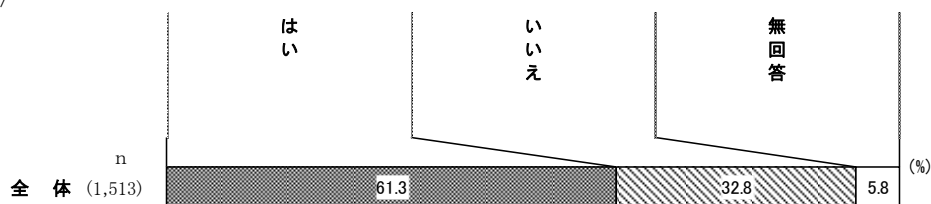
問27 今後、区やNPOなどで通訳・翻訳ボランティアなどの協力募集があったら協力したいと思いますか。【○は1つだけ】

ボランティアなどの協力意向では、「はい」が61.3%、「いいえ」が32.8%となっている。

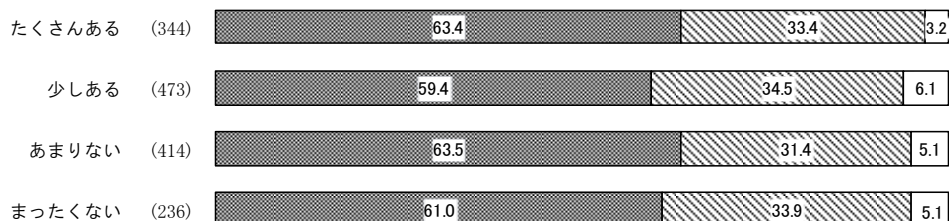
〈日本人との交流機会別／ボランティアなどの協力意向〉

日本人との交流機会別では、特に大きな違いはみられない。

《単一回答》



【日本人との交流機会別】

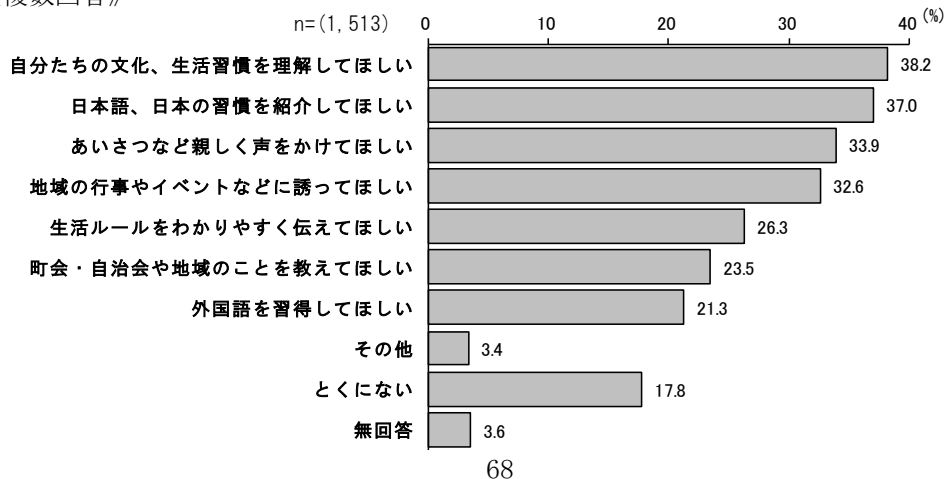


(7) 相互理解のために、日本人に求めること

問28 日本人とお互いの理解を深めるために、日本人にしてほしいことは何ですか。【○はあてはまるものすべて】

相互理解のために、日本人に求めることでは、「自分たちの文化、生活習慣を理解してほしい」が38.2%で最も多く、以下、「日本語、日本の習慣を紹介してほしい」(37.0%)、「あいさつなど親しく声をかけてほしい」(33.9%)、「地域の行事やイベントなどに誘ってほしい」(32.6%)となっている。

《複数回答》



第4章 日本国籍区民調査結果の詳細

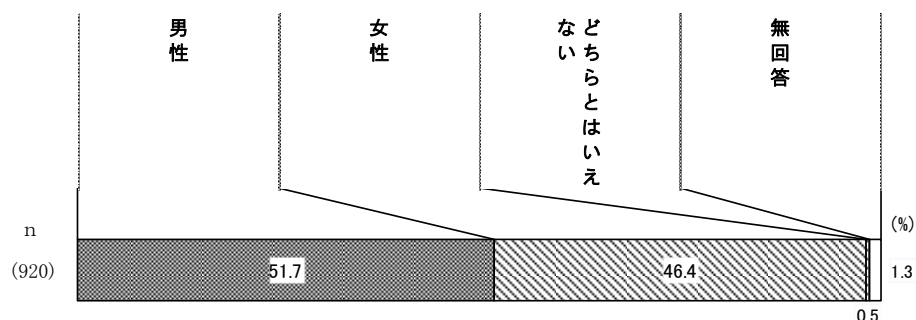
1. 回答者の属性

(1) 性別

F 1 あなたの性別をお答えください。【〇は1つ】

性別では、「男性」が51.7%、「女性」が46.4%となっている。

《単一回答》

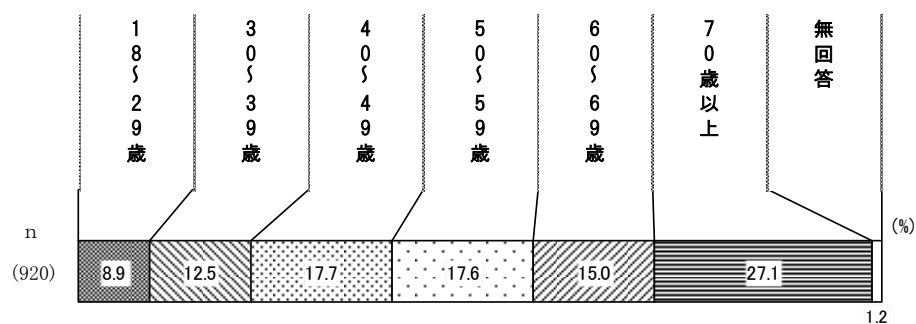


(2) 年齢

F 2 あなたの年齢をお選びください。【〇は1つ】

年齢では、「70歳以上」が27.1%で最も多く、以下、「40～49歳」(17.7%)、「50～59歳」(17.6%)、「60～69歳」(15.0%)となっている。

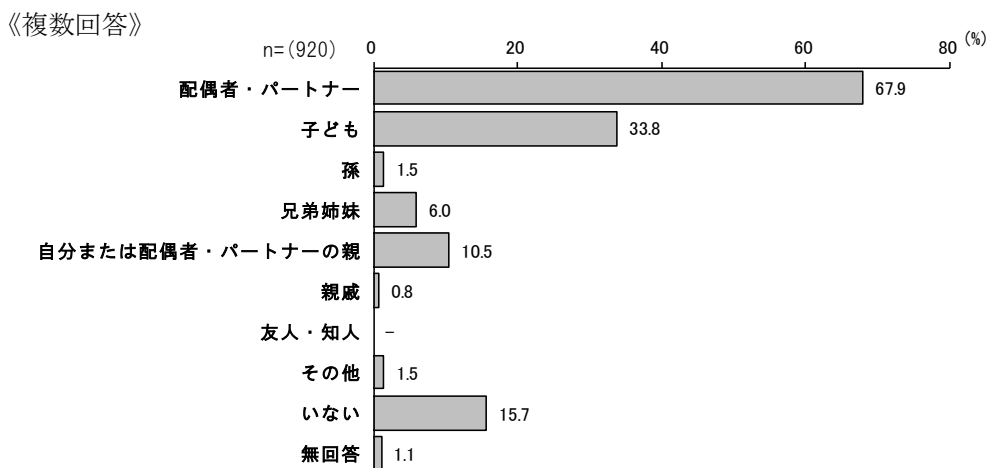
《単一回答》



(3) 家族構成

F3 あなたは現在だれと一緒に住んでいますか。【〇はあてはまるものすべて】

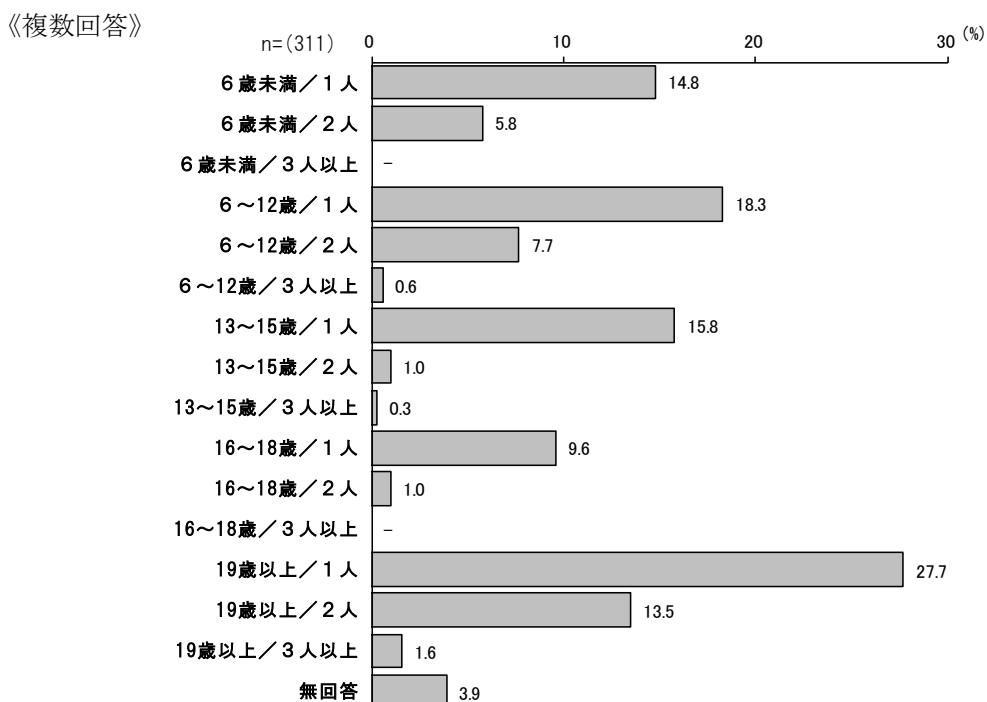
家族構成では、全体から「いない」(15.7%)と「無回答」(1.1%)を除いた83.2%に同居人が存在する。具体的には「配偶者・パートナー」が67.9%で最も多く、以下、「子ども」(33.8%)、「自分または配偶者・パートナーの親」(10.5%)となっている。



F3で「2. 子ども」と回答した方が対象

あなたのお子さんの年齢をお選びいただき、人数をお書きください。
【〇はあてはまるものすべて】 ※調査票のF3-1

子どもの年齢では、「19歳以上」が42.8%で最も多く、以下、「6～12歳」(26.6%)、「6歳未満」(20.6%)、「13～15歳」(17.1%)となっており、人数はいずれの年齢層でも「1人」が多くなっている。

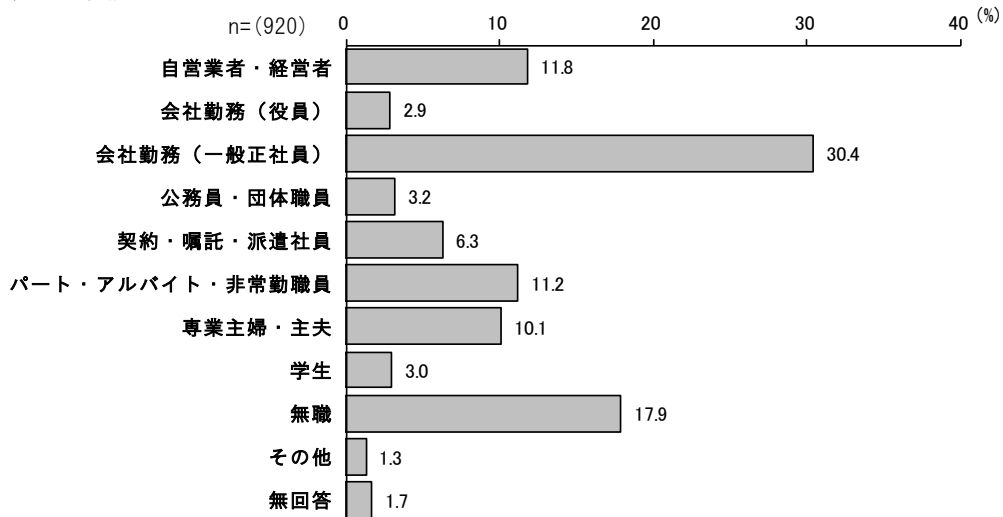


(4) 職業

F 4 あなたの職業は次のどれですか。2つ以上あてはまる場合は、主な職業を選んでください。【〇は1つ】

職業では、「会社勤務（一般正社員）」が30.4%で最も多く、以下、「無職」（17.9%）、「自営業者・経営者」（11.8%）、「パート・アルバイト・非常勤職員」（11.2%）となっている。

《単一回答》

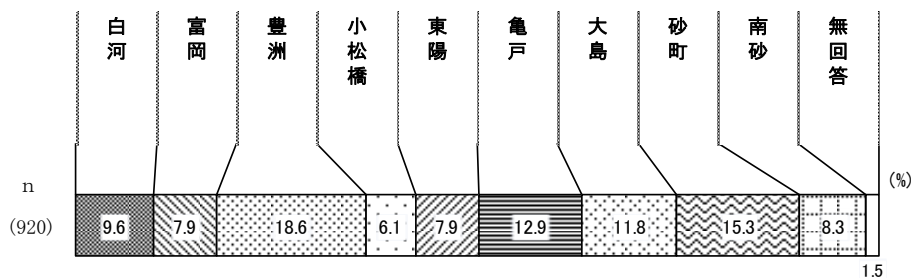


(5) 居住地

F 5 あなたはどの地区に住んでいますか。【〇は1つ】

居住地では、「豊洲」が18.6%で最も多く、以下、「砂町」（15.3%）、「亀戸」（12.9%）、「大島」（11.8%）と続く。

《単一回答》



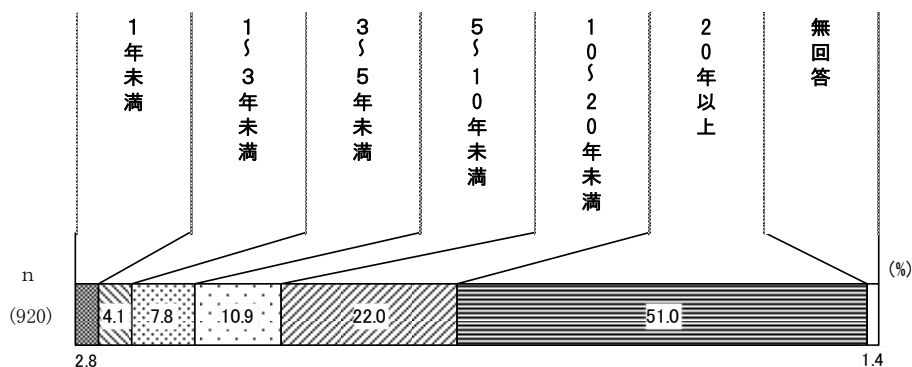
第4章 日本国籍区民調査結果の詳細

(6) 江東区での居住年数

F6 あなたは、どのくらい江東区に住んでいますか。転入・転出を繰り返している場合は合計してお答えください。【〇は1つ】

江東区での居住年数では、「20年以上」が51.0%と過半数を占め、以下、「10～20年未満」(22.0%)、「5～10年未満」(10.9%)、「3～5年未満」(7.8%)となっている。

《単一回答》



2. 江東区への定住意向と各サービスの評価

(1) 江東区への定住意向

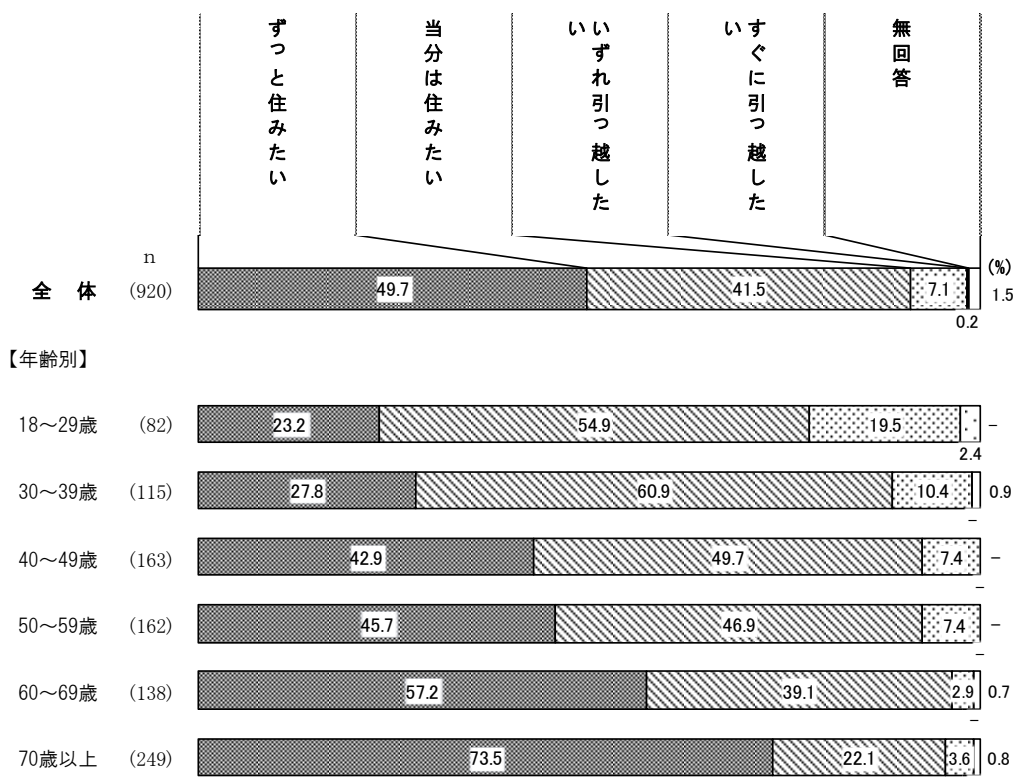
問1 江東区にこれからも住みたいと思いますか。【〇は1つ】

江東区への定住意向では、「ずっと住みたい」が49.7%で最も多く、「当分は住みたい」(41.5%)を合わせた『住みたい』は91.2%となる。

〈年齢別／江東区への定住意向〉

年齢別では、「ずっと住みたい」は年齢が上がるほど多くなり、【18～29歳】では2割程度であるが、【70歳以上】では7割を超えている。

《単一回答》



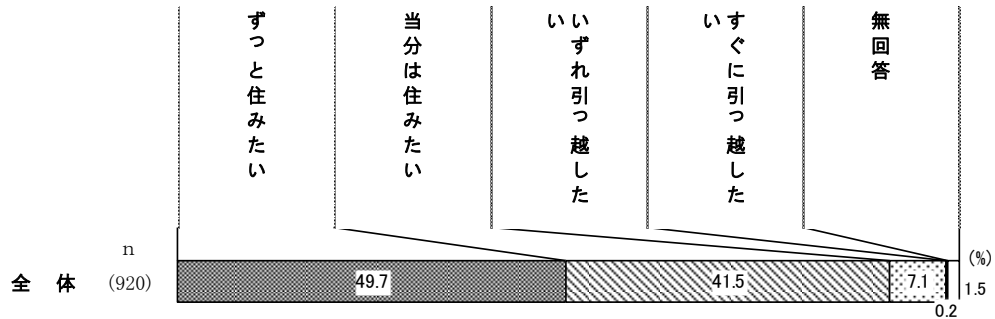
第4章 日本国籍区民調査結果の詳細

〈 居住地域別、居住年数別／江東区への定住意向 〉

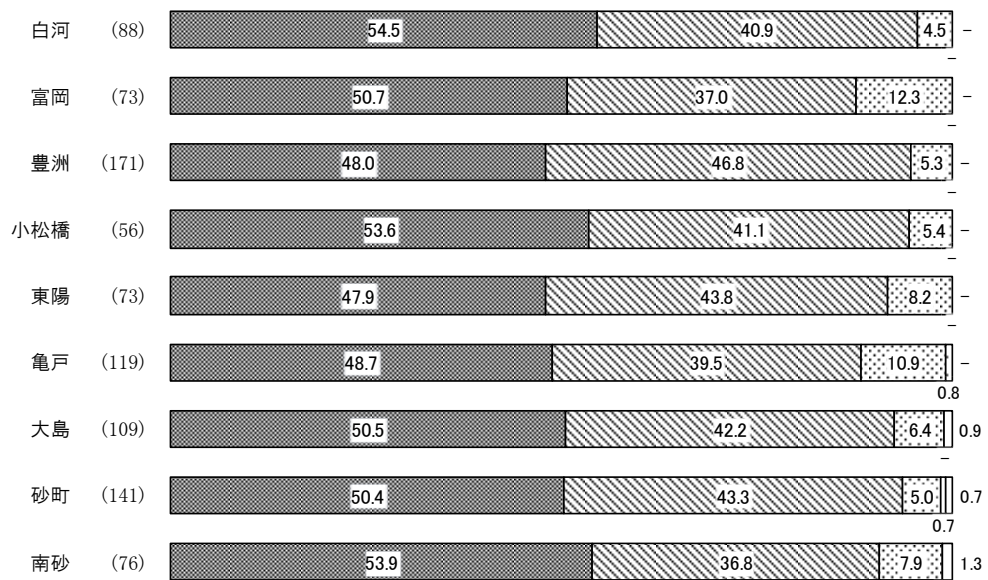
居住地域別では、特に大きな違いはみられない。

居住年数別では、年数が長くなるほど「ずっと住みたい」割合が高くなる傾向にある。

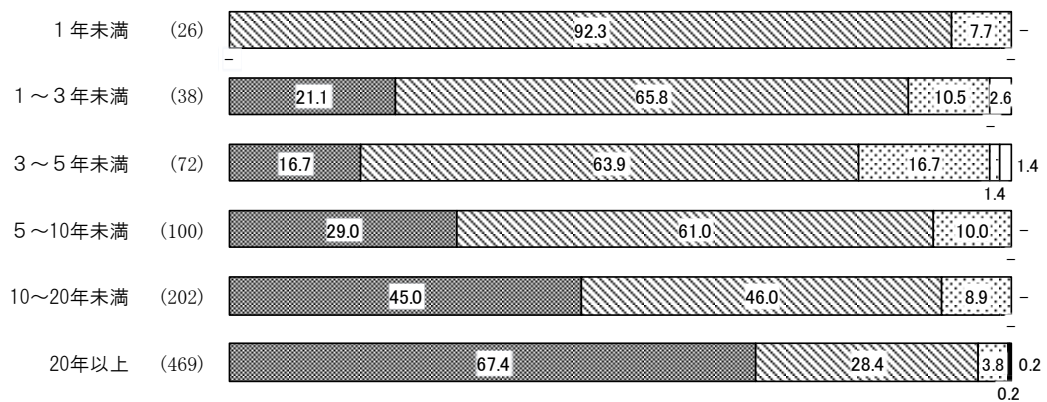
《 単一回答 》



【 居住地域別 】



【 居住年数別 】



※基数が少ない「1年未満」は参考までに掲載している。

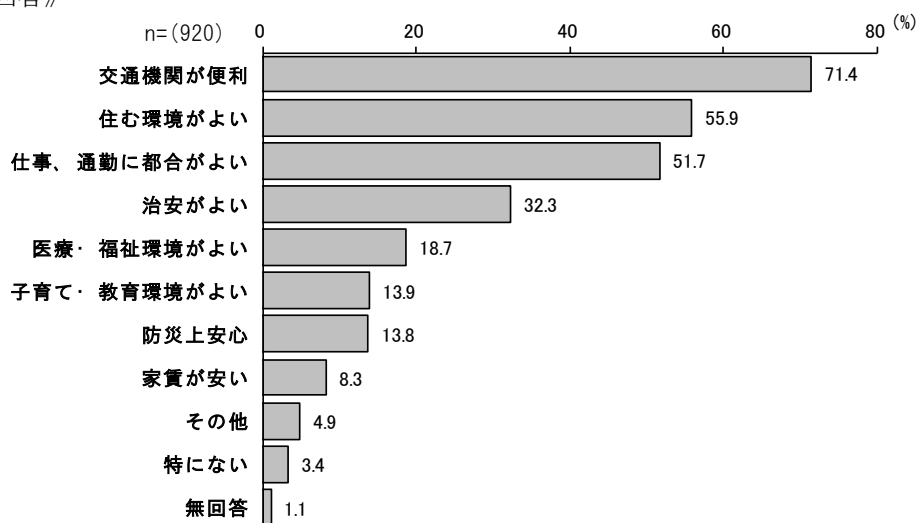
(2) 江東区に住んで良かったこと・助かったこと

問2 江東区に住んで良かったこと、助かったことは何ですか。

【〇はあてはまるものすべて】

江東区に住んで良かったこと・助かったことでは、「交通機関が便利」が71.4%で最も多く、以下、「住む環境がよい」(55.9%)、「仕事、通勤に都合がよい」(51.7%)、「治安がよい」(32.3%)となっている。

《複数回答》



〈年齢別、居住地域別、居住年数別／江東区に住んで良かったこと・助かったこと〉

年齢別でみると、【70歳以上】に特徴があり、「医療・福祉環境がよい」、「防災上安心」、「家賃が安い」と回答した割合が高く、「仕事、通勤に都合がよい」が低くなっている。

居住地域別に回答割合をみると、「交通機関が便利」は【白河】【富岡】【東陽】で高く、【砂町】【豊洲】でやや低い。「住む環境がよい」は【富岡】【豊洲】で高く、【亀戸】では半数未満である。「仕事、通勤に都合がよい」は【小松橋】で高く、【大島】で低くなっている。「治安がよい」は【白河】【豊洲】で高く、【亀戸】で低くなっている。

居住年数別では、年数が長い層の割合が高いものとして、「交通機関が便利」と「医療・福祉環境がよい」がある。一方、「治安がよい」と回答した割合は【1年未満】で最も高くなっている。また、「仕事、通勤に都合がよい」は【3～5年未満】、「子育て・教育環境がよい」は【5～10年未満】でそれぞれ高くなっている。

第4章 日本国籍区民調査結果の詳細

(%)

《複数回答》		n	交通機 関が便 利	住む環 境がよ い	仕事、通 勤に都 合がよ い	治安がよ い	医療・福 祉環境 がよ い	子育て・ 教育環 境がよ い	防災上 安心	家賃が 安い	その他
全体		920	71.4	55.9	51.7	32.3	18.7	13.9	13.8	8.3	4.9
年齢別	18～29歳	82	68.3	43.9	56.1	39.0	11.0	4.9	7.3	4.9	4.9
	30～39歳	115	64.3	61.7	60.0	33.0	12.2	20.9	5.2	2.6	4.3
	40～49歳	163	70.6	62.0	60.1	24.5	11.7	22.7	6.7	3.7	5.5
	50～59歳	162	75.9	54.9	66.0	29.0	17.3	12.3	11.1	8.6	4.3
	60～69歳	138	73.9	52.9	58.0	24.6	18.1	10.9	11.6	9.4	5.1
	70歳以上	249	71.9	55.8	28.1	39.8	29.7	9.6	27.3	14.5	5.2
居住地別	白河	88	83.0	59.1	55.7	53.4	15.9	13.6	20.5	5.7	2.3
	富岡	73	83.6	64.4	52.1	39.7	16.4	11.0	12.3	2.7	2.7
	豊洲	171	60.8	64.9	56.1	43.3	12.9	18.1	17.5	10.5	4.7
	小松橋	56	80.4	50.0	64.3	21.4	16.1	10.7	17.9	3.6	5.4
	東陽	73	83.6	58.9	58.9	21.9	12.3	16.4	13.7	4.1	2.7
	亀戸	119	73.1	47.9	52.9	17.6	22.7	14.3	10.9	7.6	8.4
	大島	109	73.4	51.4	40.4	25.7	21.1	14.7	11.0	8.3	2.8
	砂町	141	58.9	53.9	44.0	31.2	25.5	11.3	9.9	12.8	7.8
	南砂	76	71.1	50.0	50.0	25.0	21.1	7.9	10.5	11.8	3.9
居住年数別	1年未満	26	57.7	65.4	53.8	42.3	3.8	7.7	3.8	7.7	-
	1～3年未満	38	52.6	57.9	60.5	34.2	7.9	10.5	13.2	10.5	2.6
	3～5年未満	72	55.6	48.6	65.3	23.6	4.2	9.7	2.8	12.5	4.2
	5～10年未満	100	71.0	62.0	57.0	32.0	16.0	24.0	10.0	7.0	4.0
	10～20年未満	202	72.8	53.5	55.4	28.2	15.8	13.9	8.4	6.4	5.4
	20年以上	469	75.5	56.1	45.8	34.1	24.1	12.6	19.0	8.7	5.5

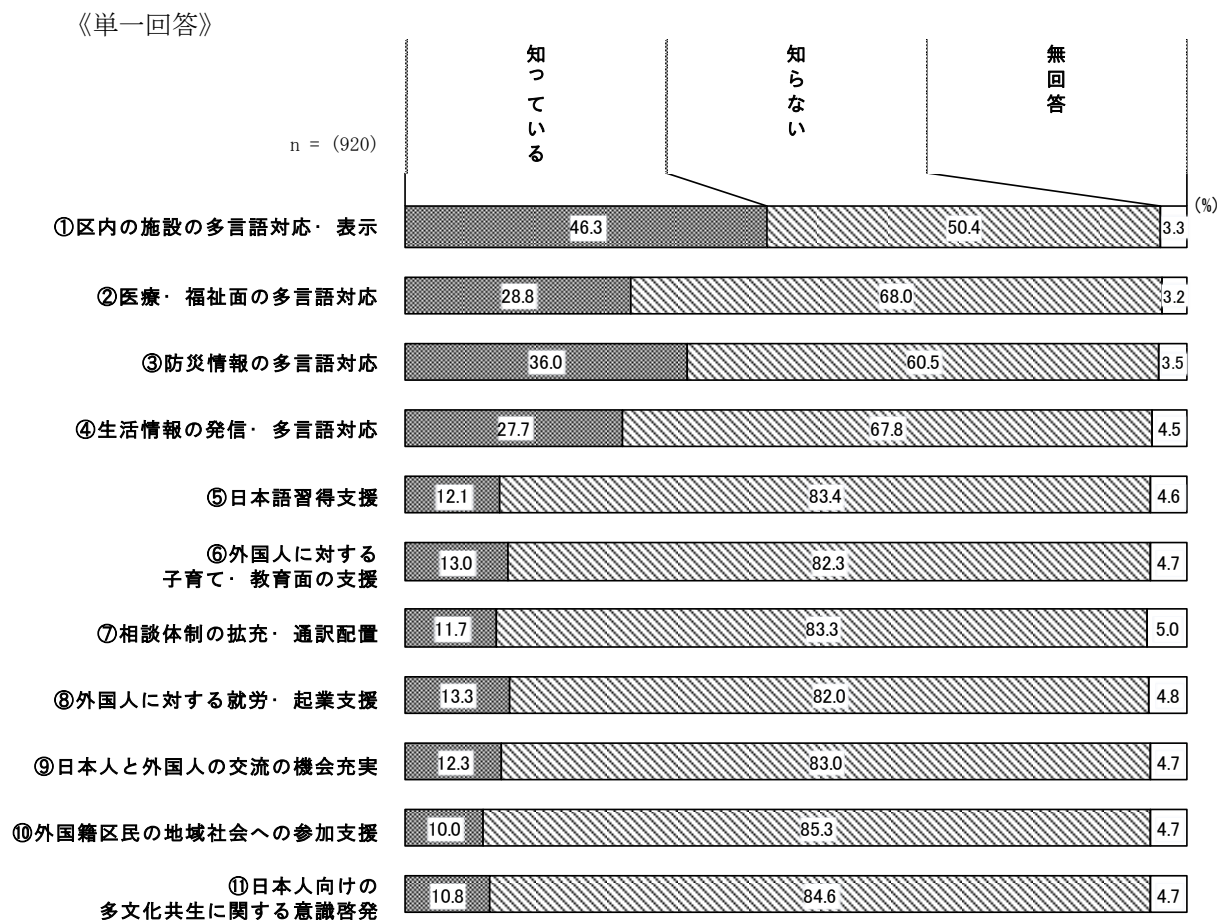
		n	特にな い	無回 答
全体		920	3.4	1.1
年齢別	18～29歳	82	4.9	-
	30～39歳	115	6.1	-
	40～49歳	163	1.8	-
	50～59歳	162	1.9	1.2
	60～69歳	138	1.4	0.7
	70歳以上	249	4.8	2.8
居住地別	白河	88	1.1	1.1
	富岡	73	2.7	1.4
	豊洲	171	2.3	0.6
	小松橋	56	-	-
	東陽	73	2.7	-
	亀戸	119	5.0	-
	大島	109	4.6	1.8
	砂町	141	4.3	2.1
	南砂	76	5.3	2.6
居住年数別	1年未満	26	-	3.8
	1～3年未満	38	5.3	-
	3～5年未満	72	4.2	-
	5～10年未満	100	5.0	-
	10～20年未満	202	3.0	1.0
	20年以上	469	3.2	1.5

※基数が少ない「1年未満」は参考までに掲載している。

(3) 多文化共生サービスの認知度

問3 あなたは、江東区が行っている以下の多文化共生に関わる取組を知っていますか。
【〇はそれぞれ1つずつ】

多文化共生に関わる取組のうち、最も認知度が高いものは「①区内の施設の多言語対応・表示」の46.3%で、以下、「③防災情報の多言語対応」(36.0%)、「②医療・福祉面の多言語対応」(28.8%)、「④生活情報の発信・多言語対応」(27.7%) になっており、他の取組はいずれも1割強となっている。



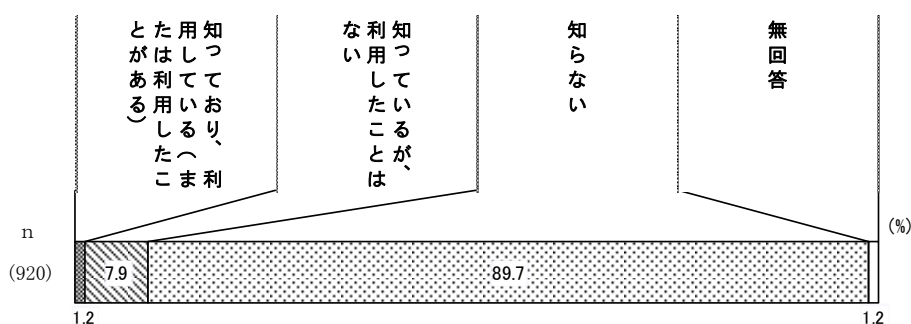
第4章 日本国籍区民調査結果の詳細

(4) 区以外が取り組んでいるサービスの認知度

問4 江東区国際友好連絡会（I.F.C.）など、区以外が取り組んでいる活動を知っていますか。【〇は1つ】

区以外が取り組んでいるサービスの認知度では、「知らない」が89.7%を占め、「知っているが、利用したことはない」は7.9%、「知っており、利用している（または利用したことがある）」は1.2%となっている。

《単一回答》



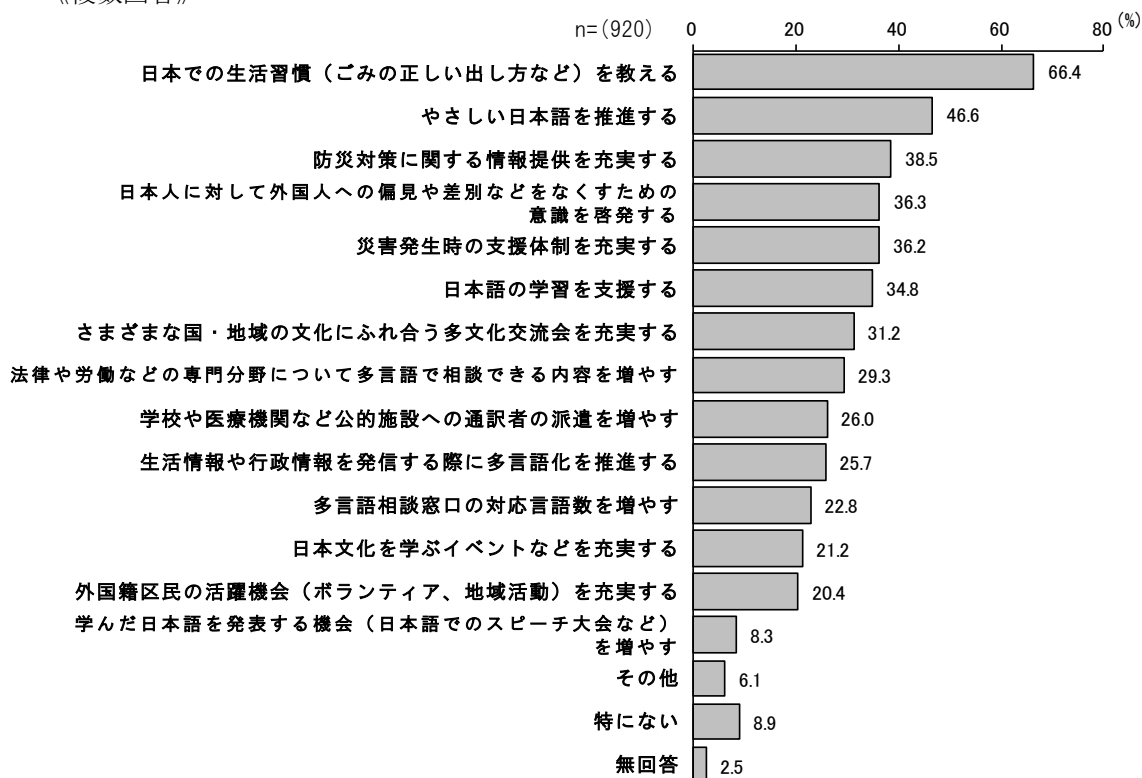
(5) 多文化共生に向けて区に期待する取組

問5 多文化共生を推進するにあたって、あなたが江東区に期待する取組は何ですか。

【〇はあてはまるものすべて】

多文化共生に向けて区に期待する取組では、「日本での生活習慣（ごみの正しい出し方など）を教える」が66.4%で最も多く、以下、「やさしい日本語を推進する」（46.6%）、「防災対策に関する情報提供を充実する」（38.5%）、「日本人に対して外国人への偏見や差別などをなくすための意識を啓発する」（36.3%）、「災害発生時の支援体制を充実する」（36.2%）となっている。

《複数回答》



〈年齢別、居住地域別／多文化共生に向けて区に期待する取組〉

年齢別に回答割合をみると、「日本での生活習慣（ごみの正しい出し方など）を教える」や「防災対策に関する情報提供を充実する」は【18～29歳】で低く、「やさしい日本語を推進する」や「学んだ日本語を発表する機会（日本語でのスピーチ大会など）を増やす」は【70歳以上】で高くなっている。

第4章 日本国籍区民調査結果の詳細

(%)

《複数回答》		n	日本での生活習慣(ごみの正しい出し方など)を教える	やさしい日本語を推進する	防災対策に関する情報提供を充実する	日本人に対して外国人への偏見や差別などをなくすための意識を啓発する	災害発生時の支援体制を充実する	日本語の学習を支援する	さまざまな国・地域の文化にふれ合う多文化交流会を充実する	法律や労働などの専門分野について多言語で相談できる内容を増やす	学校や医療機関など公的施設への通訳者の派遣を増やす
全体		920	66.4	46.6	38.5	36.3	36.2	34.8	31.2	29.3	26.0
年齢別	18～29歳	82	51.2	40.2	29.3	31.7	32.9	31.7	29.3	28.0	22.0
	30～39歳	115	66.1	40.0	37.4	33.0	35.7	23.5	35.7	34.8	27.8
	40～49歳	163	64.4	42.9	36.2	27.6	34.4	31.3	33.7	27.0	27.0
	50～59歳	162	66.7	44.4	38.3	39.5	33.3	40.1	32.7	32.7	29.6
	60～69歳	138	71.7	44.9	45.7	37.0	42.8	37.7	26.1	29.7	26.8
	70歳以上	249	69.9	56.2	39.0	42.6	37.3	38.2	29.7	25.7	23.3
居住地域別	白河	88	62.5	40.9	37.5	28.4	35.2	29.5	31.8	21.6	15.9
	富岡	73	60.3	56.2	39.7	41.1	31.5	37.0	31.5	30.1	30.1
	豊洲	171	67.8	45.0	40.9	39.8	38.6	37.4	35.1	31.0	28.1
	小松橋	56	69.6	37.5	39.3	41.1	41.1	30.4	25.0	32.1	14.3
	東陽	73	69.9	49.3	32.9	38.4	34.2	31.5	24.7	34.2	30.1
	亀戸	119	63.9	37.8	31.9	30.3	31.1	36.1	25.2	31.1	23.5
	大島	109	72.5	49.5	38.5	28.4	32.1	33.0	34.9	29.4	31.2
	砂町	141	70.2	53.9	44.7	43.3	44.0	36.2	33.3	31.9	31.2
	南砂	76	57.9	48.7	34.2	38.2	35.5	38.2	31.6	18.4	21.1

		n	生活情報や行政情報を発信する際に多言語化を推進する	多言語相談窓口の対応言語数を増やす	日本文化を学ぶイベントなどを充実する	外国籍区民の活躍機会(ボランティア、地域活動)を充実する	学んだ日本語を発表する機会(日本語でのスピーチ大会など)を増やす	その他	特にない	無回答
全体		920	25.7	22.8	21.2	20.4	8.3	6.1	8.9	2.5
年齢別	18～29歳	82	19.5	25.6	24.4	15.9	4.9	6.1	13.4	-
	30～39歳	115	31.3	24.3	21.7	21.7	6.1	7.8	11.3	-
	40～49歳	163	26.4	19.6	12.9	15.3	3.1	6.7	6.1	1.8
	50～59歳	162	29.6	22.2	17.3	23.5	6.8	7.4	6.8	2.5
	60～69歳	138	26.1	27.5	22.5	21.0	5.8	6.5	7.2	1.4
	70歳以上	249	22.5	20.9	27.7	21.3	15.7	4.0	10.4	5.6
居住地域別	白河	88	18.2	12.5	13.6	13.6	2.3	6.8	11.4	1.1
	富岡	73	30.1	28.8	23.3	23.3	12.3	5.5	11.0	2.7
	豊洲	171	28.7	25.7	18.7	22.8	7.0	5.3	4.1	1.8
	小松橋	56	28.6	21.4	12.5	21.4	3.6	8.9	8.9	-
	東陽	73	21.9	16.4	26.0	15.1	4.1	2.7	12.3	1.4
	亀戸	119	21.8	25.2	22.7	17.6	10.1	9.2	13.4	3.4
	大島	109	24.8	24.8	24.8	20.2	11.0	4.6	4.6	4.6
	砂町	141	27.0	24.8	24.8	22.7	12.1	5.0	7.8	2.8
	南砂	76	31.6	19.7	23.7	21.1	6.6	9.2	11.8	2.6

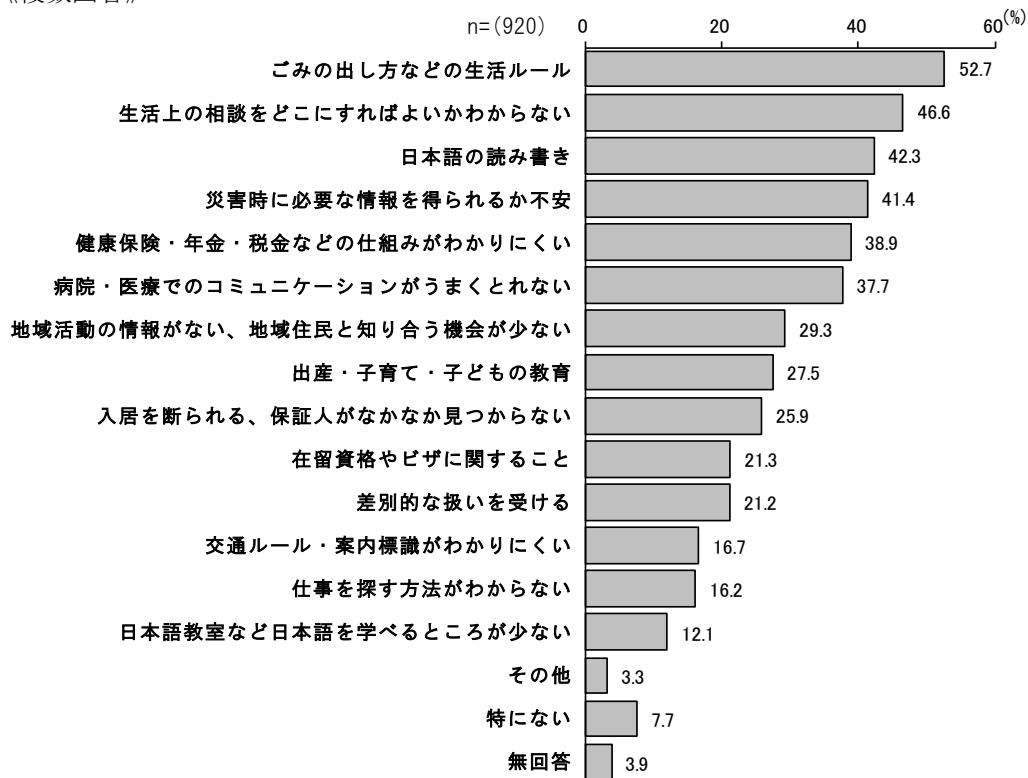
3. 日常生活

(1) 外国人が日本での生活で困っていると思うこと

問6 外国人が江東区内で生活をする上で、困っていたり不安に感じたりすることはどのようなことだと思いますか。【〇はあてはまるものすべて】

外国人が日本での生活で困っていると思うことでは、「ごみの出し方などの生活ルール」が52.7%で最も多く、以下、「生活上の相談をどこにすればよいかわからない」(46.6%)、「日本語の読み書き」(42.3%)、「災害時に必要な情報を得られるか不安」(41.4%)となっている。

《複数回答》



第4章 日本国籍区民調査結果の詳細

〈 居住地域別／外国人が日本で生活で困っていると思うこと 〉

居住地域別では、「ごみの出し方などの生活ルール」と「日本語の読み書き」は【大島】、「生活上の相談をどこにすればよいかわからない」と回答した割合は【東陽】で最も高くなっている。また、「災害時に必要な情報を得られるか不安」、「健康保険・年金・税金などの仕組みがわかりにくい」、「病院・医療でのコミュニケーションがうまくとれない」の3つは【富岡】で、「地域活動の情報がない、地域住民と知り合う機会が少ない」、「出産・子育て・子どもの教育」、「入居を断られる、保証人がなかなか見つからない」の3つは【小松橋】でそれぞれ最も高くなっている。

《複数回答》	n	ごみの出し方などの生活ルール	生活上の相談をどこにすればよいかわからない	日本語の読み書き	災害時に必要な情報を得られるか不安	健康保険・年金・税金などの仕組みがわかりにくい	病院・医療でのコミュニケーションがうまくとれない	地域活動の情報がない、地域住民と知り合う機会が少ない	出産・子育て・子どもの教育	入居を断られる、保証人がなかなか見つからない
全体	920	52.7	46.6	42.3	41.4	38.9	37.7	29.3	27.5	25.9
白河	88	52.3	44.3	40.9	36.4	38.6	38.6	18.2	25.0	26.1
富岡	73	47.9	47.9	49.3	49.3	46.6	49.3	31.5	30.1	27.4
豊洲	171	53.8	50.3	41.5	43.9	42.7	35.7	31.6	29.8	26.3
小松橋	56	46.4	42.9	25.0	42.9	46.4	44.6	35.7	39.3	30.4
東陽	73	60.3	52.1	46.6	42.5	35.6	32.9	23.3	32.9	27.4
亀戸	119	54.6	42.0	39.5	37.8	36.1	33.6	30.3	26.9	21.8
大島	109	62.4	42.2	53.2	41.3	35.8	39.4	26.6	19.3	22.0
砂町	141	52.5	51.8	40.4	41.8	39.7	41.8	35.5	29.1	27.7
南砂	76	36.8	42.1	39.5	36.8	30.3	27.6	25.0	19.7	23.7

	n	在留資格やビザに関すること	差別的な扱いを受ける	交通ルール・案内標識がわかりにくい	仕事を探す方法がわからない	日本語教室など日本語を学べる場所が少ない	その他	特になし	無回答
全体	920	21.3	21.2	16.7	16.2	12.1	3.3	7.7	3.9
白河	88	26.1	22.7	11.4	18.2	6.8	5.7	6.8	2.3
富岡	73	24.7	16.4	17.8	12.3	13.7	1.4	4.1	2.7
豊洲	171	19.9	24.6	19.9	19.3	12.9	2.9	5.3	4.1
小松橋	56	25.0	30.4	7.1	8.9	10.7	1.8	8.9	1.8
東陽	73	32.9	24.7	15.1	19.2	12.3	1.4	11.0	1.4
亀戸	119	16.0	18.5	19.3	16.8	13.4	3.4	9.2	4.2
大島	109	16.5	15.6	17.4	12.8	12.8	4.6	5.5	4.6
砂町	141	22.7	23.4	15.6	18.4	12.8	3.5	7.8	5.7
南砂	76	14.5	15.8	21.1	10.5	7.9	3.9	13.2	5.3

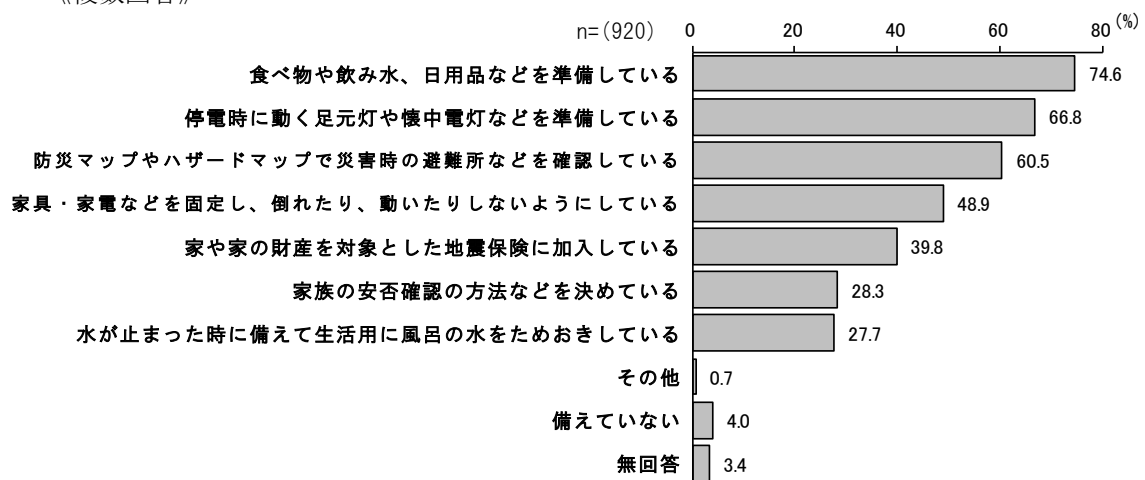
4. 防災関連

(1) 災害への備え

問7 次にあげるものは地震などの災害時に備えておく必要があります。この中でどれを備えていますか。【〇はあてはまるものすべて】

災害への備えでは、「食べ物や飲み水、日用品などを準備している」が74.6%で最も多く、以下、「停電時に動く足元灯や懐中電灯などを準備している」(66.8%)、「防災マップやハザードマップで災害時の避難所などを確認している」(60.5%)、「家具・家電などを固定し、倒れたり、動いたりしないようにしている」(48.9%)となっている。

《複数回答》



第4章 日本国籍区民調査結果の詳細

(2) 避難所の認知度

問8 避難所は住んでいる場所によって違います。自分が避難する所を知っていますか。

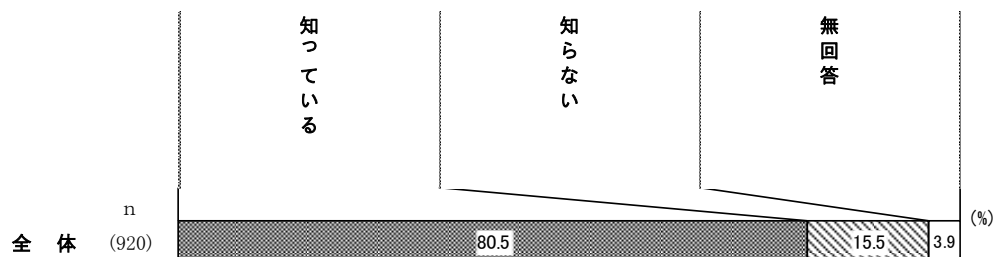
【〇は1つ】

避難所の認知度では、「知っている」が80.5%、「知らない」が15.5%となっている。

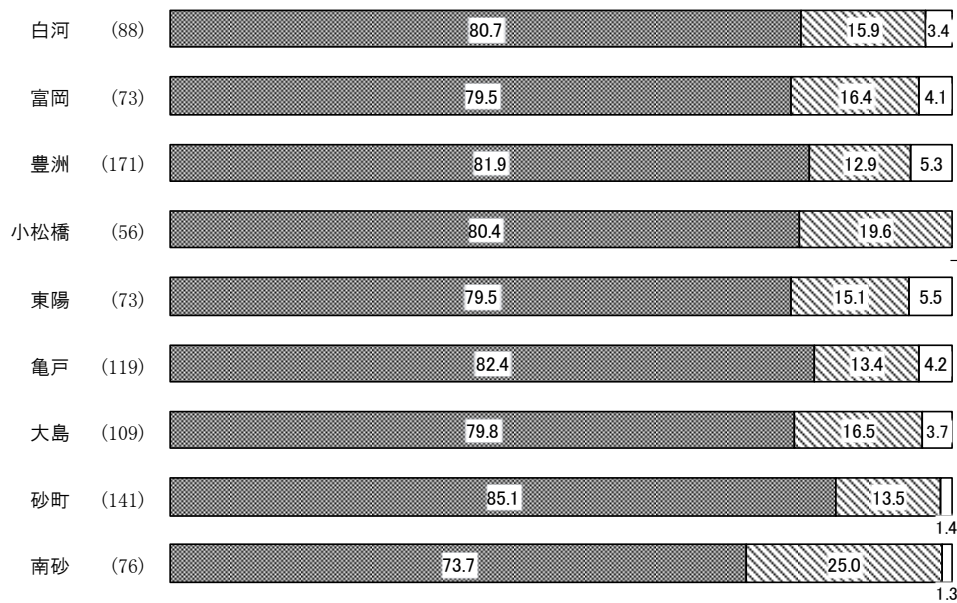
〈 居住地域別／避難所の認知度 〉

居住地域別で「知っている」割合は、【砂町】(85.1%)で最も高く、【南砂】(73.7%)で最も低くなっている。

《単一回答》



【居住地域別】



5. 地域とのつながり

(1) 町会・自治会への加入状況

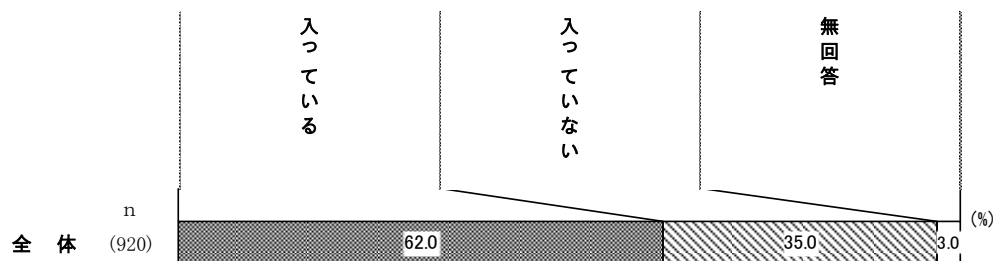
問9 町会・自治会に入っていますか。【〇は1つ】

町会・自治会への加入状況では、「入っている」が62.0%、「入っていない」が35.0%となっている。

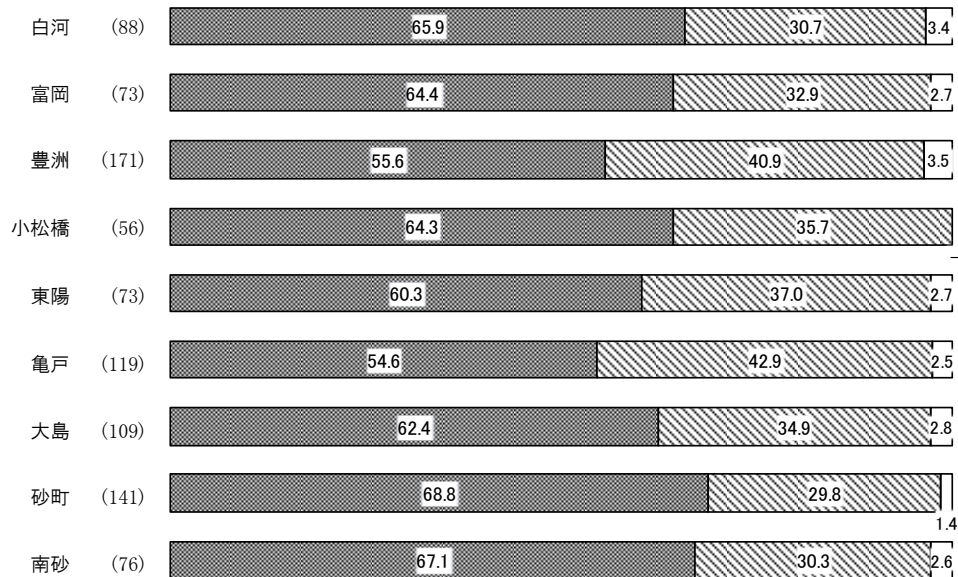
〈 居住地域別／町会・自治会への加入状況 〉

居住地域別で「入っている」割合は、【砂町】(68.8%)が最も高く、以下【南砂】(67.1%)、【白河】(65.9%)となっている。一方、【亀戸】(54.6%)と【豊洲】(55.6%)は6割未満でやや低くなっている。

《単一回答》



【居住地域別】



第4章 日本国籍区民調査結果の詳細

(2) 地域に暮らす外国人との交流

問10 地域に暮らす外国人と交流する機会がありますか。【○は1つ】

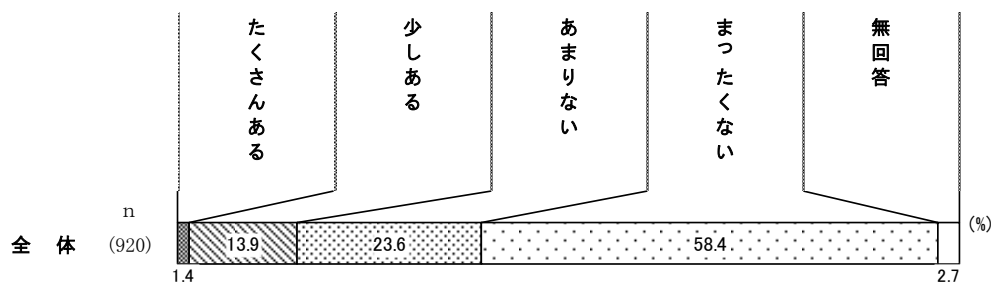
地域に暮らす外国人と交流する機会では、「まったくない」が58.4%で最も多く、「あまりない」(23.6%)を加えた『ない』は82.0%になる。一方、「たくさんある」(1.4%)と「少しある」(13.9%)を合わせた『ある』は15.3%となっている。

〈 居住地域別、町会・自治会への加入状況別／地域に暮らす外国人との交流／交流機会 〉

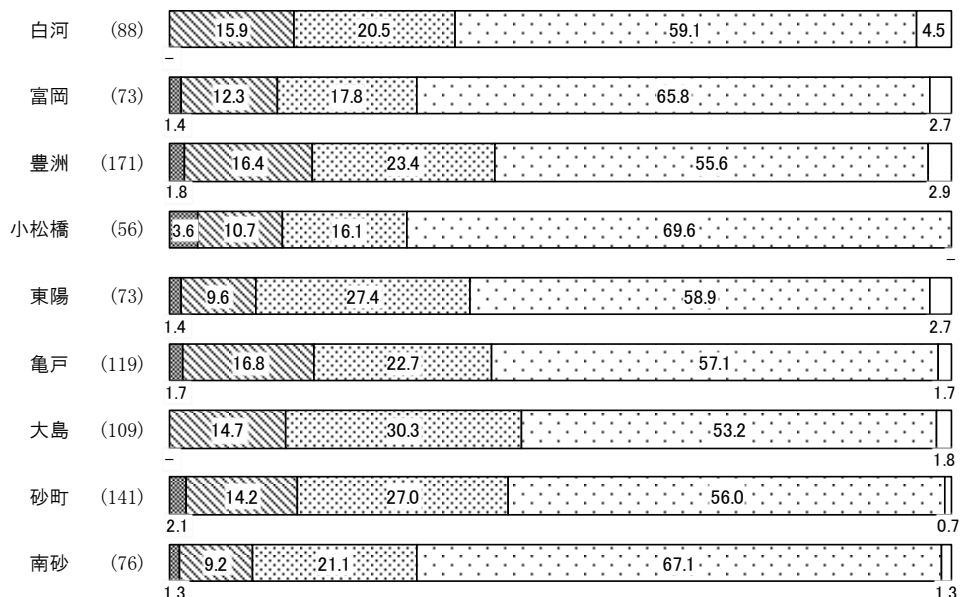
居住地域別で『ある』の割合をみると、【亀戸】の18.5%が最も高く、【豊洲】(18.2%)、【砂町】(16.3%)となっている。

町会・自治会への加入状況別での『ある』の割合は、【入っている】(20.0%)が【入っていない】(7.5%)を12.5ポイント上回っている。

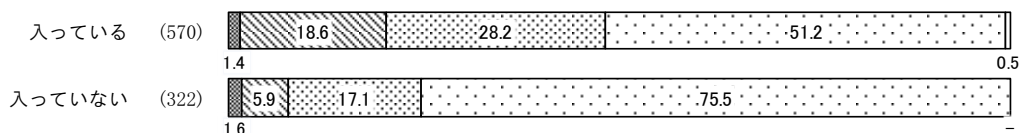
《単一回答》



【居住地域別】



【町会・自治会への加入状況別】



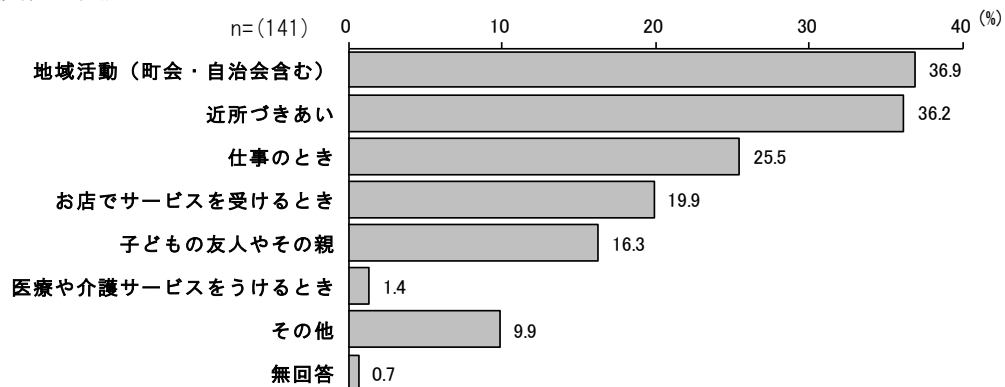
問10で「1. たくさんある」または「2. 少しある」と回答した方のみが対象

地域内で外国人と関わるのはどのような場面ですか。【〇はあてはまるものすべて】

※設問の間10-1

外国人と関わる場面では、「地域活動（町会・自治会含む）」（36.9%）と「近所づきあい」（36.2%）が多く、以下、「仕事するとき」（25.5%）、「お店でサービスを受けるとき」（19.9%）となっている。

《複数回答》



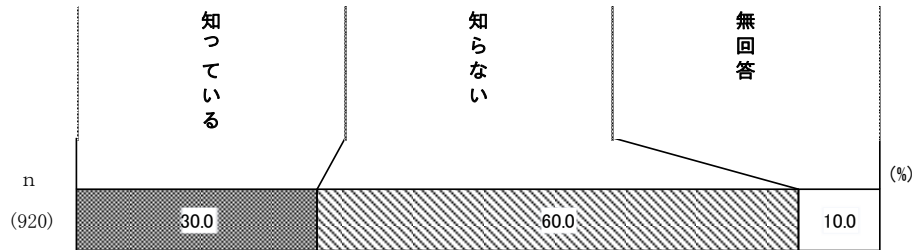
第4章 日本国籍区民調査結果の詳細

(3) やさしい日本語の認知度

問11 やさしい日本語を知っていますか。【〇は1つ】

やさしい日本語の認知度では、「知らない」が60.0%、「知っている」が30.0%となっている。

《単一回答》

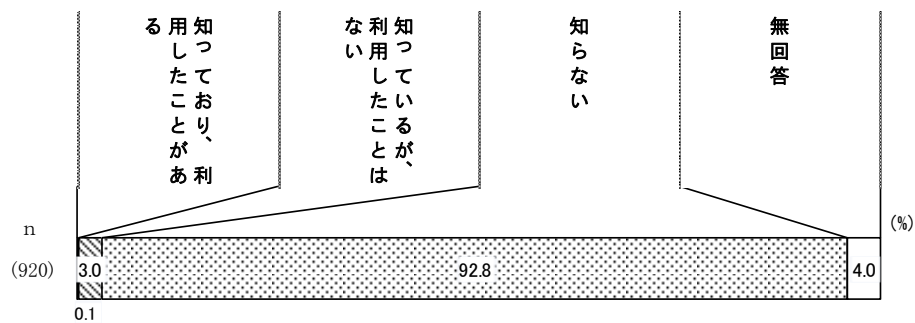


(4) 東京都つながり創生財団の認知度

問12 外国人等の生活相談窓口として東京都つながり創生財団がありますが、知っていますか。【〇は1つ】

東京都つながり創生財団の認知度では、「知らない」が92.8%を占めている。

《単一回答》

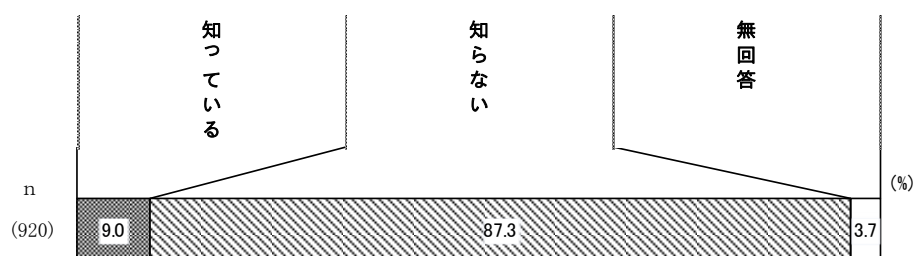


(5) 姉妹都市（カナダのサレー市）の認知度

問13 カナダのサレー市は江東区の姉妹都市ですが、知っていますか。【〇は1つ】

姉妹都市（カナダのサレー市）の認知度では、「知らない」が87.3%となっている。

《単一回答》

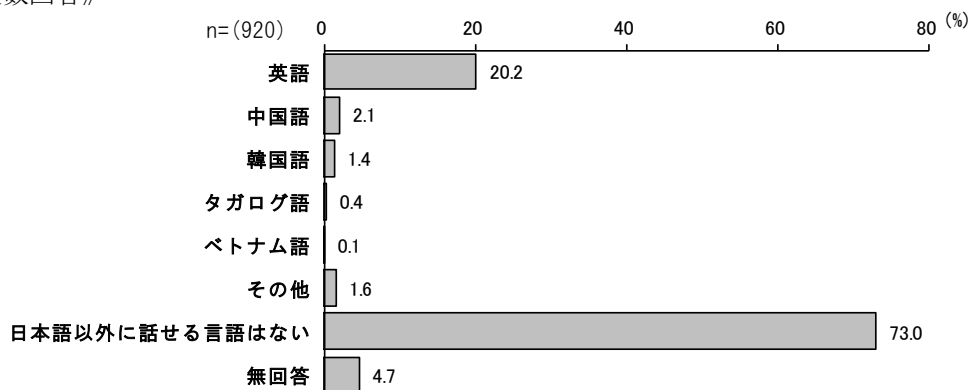


(6) 日本語以外で話せる言語と通訳・翻訳ボランティアなどの協力意向

問14 日本語以外で話せる言語はありますか。【○はあてはまるものすべて】

全体から「日本語以外に話せる言語はない」(73.0%)と「無回答」(4.7%)を除いた22.3%の方が日本語以外に話せる言語があると回答している。具体的な選択肢の中では、「英語」(20.2%)が最も多くなっている。

《複数回答》



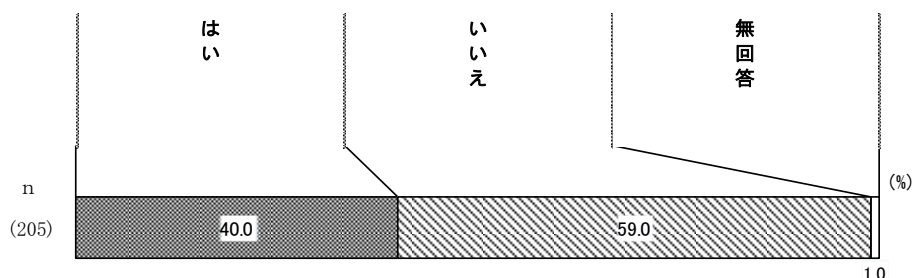
問14で「1. 英語」「2. 韓国語」「3. 中国語」「4. ベトナム語」「5. タガログ語」「6. その他」のいずれかを1つでも回答した方が対象

今後、区やNPOなどで通訳・翻訳ボランティアなどの協力依頼があったら協力したいと思いますか。【○は1つ】

※調査票の間14-1

ボランティアなどの協力意向では、「いいえ」が59.0%、「はい」が40.0%となっている。

《単一回答》



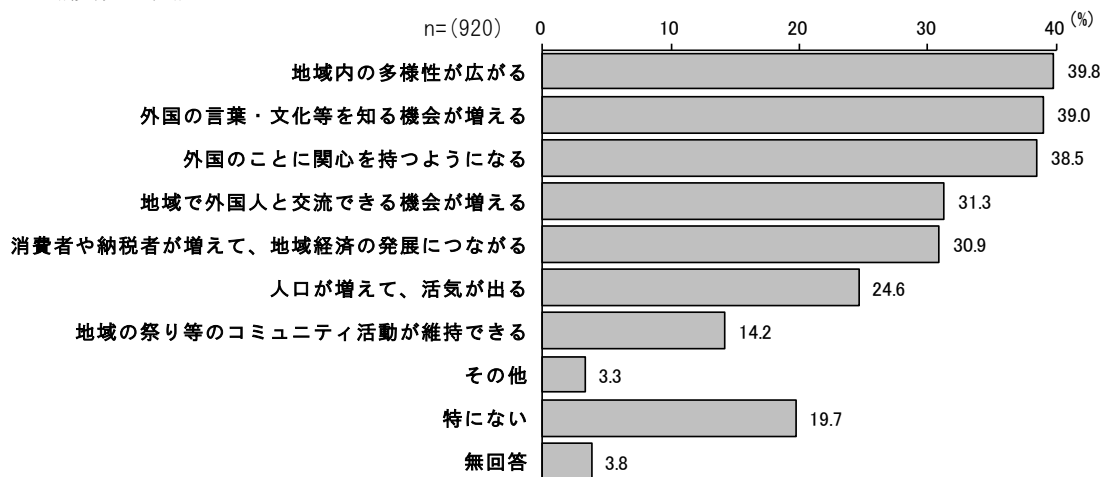
第4章 日本国籍区民調査結果の詳細

(7) 外国人が地域に増えることによるメリット

問15 外国人が地域に増えることによるメリットは何だと思いますか。
【〇はあてはまるものすべて】

外国人が地域に増えることによるメリットでは、「地域内の多様性が広がる」が39.8%で最も多く、僅差で「外国の言葉・文化等を知る機会が増える」(39.0%)、「外国のことに興味を持つようになる」(38.5%)が続く。

《複数回答》



〈 居住地域別／外国人が地域に増えることによるメリット 〉

居住地域別では、「地域内の多様性が広がる」、「外国の言葉・文化等を知る機会が増える」、「外国のことに興味を持つようになる」、「地域で外国人と交流できる機会が増える」の4つは【富岡】と【豊洲】で回答割合が高く、「消費者や納税者が増えて、地域経済の発展につながる」は【小松橋】で回答割合が高くなっている。

《複数回答》	n	地域内の多様性が広がる	外国の言葉・文化等を知る機会が増える	外国のことに興味を持つようになる	地域で外国人と交流できる機会が増える	消費者や納税者が増えて、地域経済の発展につながる	人口が増えて、活気が出る	地域の祭り等のコミュニティ活動が維持できる	その他	特にない	無回答
全体	920	39.8	39.0	38.5	31.3	30.9	24.6	14.2	3.3	19.7	3.8
白河	88	38.6	37.5	39.8	35.2	30.7	20.5	13.6	2.3	17.0	4.5
富岡	73	47.9	42.5	43.8	38.4	30.1	20.5	16.4	1.4	15.1	2.7
豊洲	171	47.4	47.4	42.1	38.0	31.0	30.4	18.1	5.8	14.0	2.9
小松橋	56	42.9	35.7	33.9	17.9	39.3	26.8	14.3	1.8	19.6	-
東陽	73	42.5	37.0	34.2	30.1	32.9	23.3	15.1	4.1	20.5	2.7
亀戸	119	33.6	33.6	34.5	26.1	29.4	21.8	5.9	4.2	25.2	4.2
大島	109	33.0	35.8	33.9	26.6	31.2	22.9	12.8	2.8	20.2	3.7
砂町	141	34.8	41.1	42.6	34.8	31.9	24.8	16.3	2.1	22.0	3.5
南砂	76	42.1	34.2	35.5	26.3	26.3	27.6	15.8	2.6	26.3	2.6

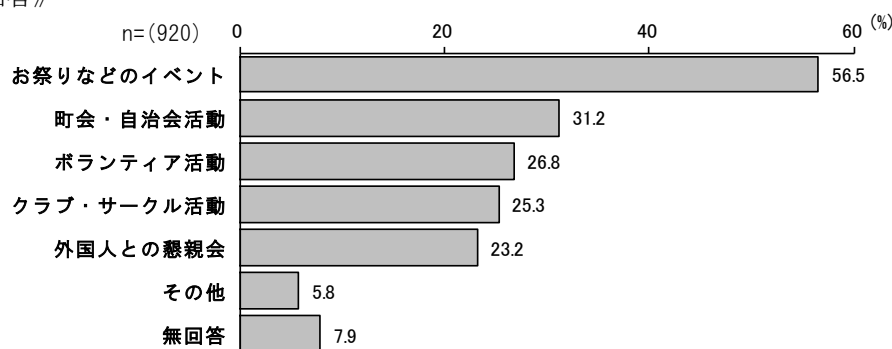
(8) 外国人とコミュニケーションをとりやすくなるきっかけ

問16 どういうきっかけがあると、地域の外国人とコミュニケーションをとりやすくなりますか。

【〇はあてはまるものすべて】

外国人とコミュニケーションをとりやすくなるきっかけでは、「お祭りなどのイベント」が56.5%で最も多く、以下、「町会・自治会活動」(31.2%)、「ボランティア活動」(26.8%)、「クラブ・サークル活動」(25.3%)となっている。

《複数回答》



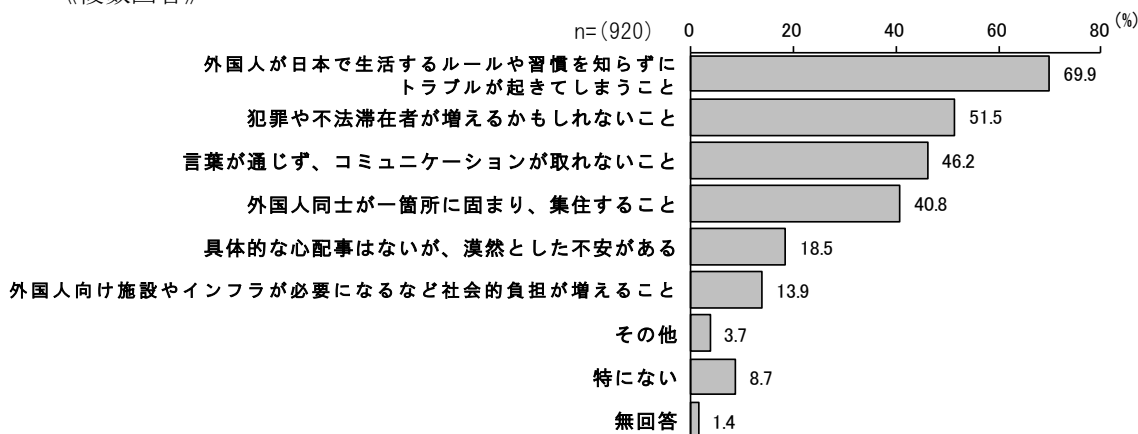
(9) 外国人が地域に増えることでの心配や不安

問17 外国人が地域に増えることで、心配や不安がありますか。

【〇はあてはまるものすべて】

外国人が地域に増えることでの心配や不安では、「外国人が日本で生活するルールや習慣を知らずにトラブルが起きてしまうこと」が69.9%で最も多く、以下、「犯罪や不法滞在者が増えるかもしれないこと」(51.5%)、「言葉が通じず、コミュニケーションが取れないこと」(46.2%)、「外国人同士が一箇所に固まり、集住すること」(40.8%)となっている。

《複数回答》



第4章 日本国籍区民調査結果の詳細

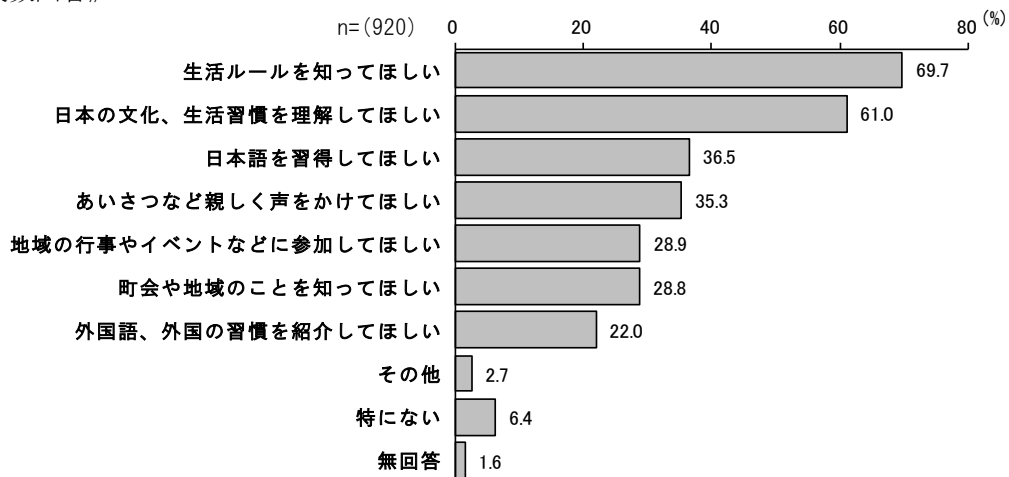
(10) 相互理解のために、外国人に求めること

問18 外国人とお互いの理解を深めるため、外国人に対して何か求めることはありますか。

【〇はあてはまるものすべて】

相互理解のために、外国人に求めることでは、「生活ルールを知ってほしい」が69.7%で最も多く、以下、「日本の文化、生活習慣を理解してほしい」(61.0%)、「日本語を習得してほしい」(36.5%)、「あいさつなど親しく声をかけてほしい」(35.3%)と続く。

《複数回答》



第5章 共通設問の比較

1. 江東区への定住意向と各サービスの評価

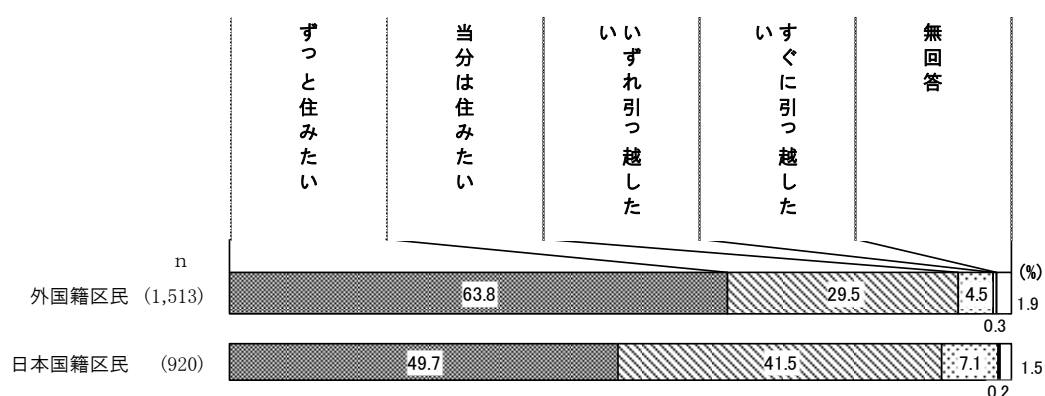
(1) 江東区への定住意向

問6 江東区にこれからも住みたいと思いますか。【○は1つだけ】

(外国籍区民:問6、日本国籍区民:問1)

江東区への定住意向をみると、「ずっと住みたい」と「当分は住みたい」を合わせた『住みたい』が外国籍区民93.3%、日本国籍区民91.2%と僅差だが、「ずっと住みたい」に限れば、外国籍区民63.8%、日本国籍区民49.7%と14.1ポイントの差がある。

《単一回答》



第5章 共通設問の比較

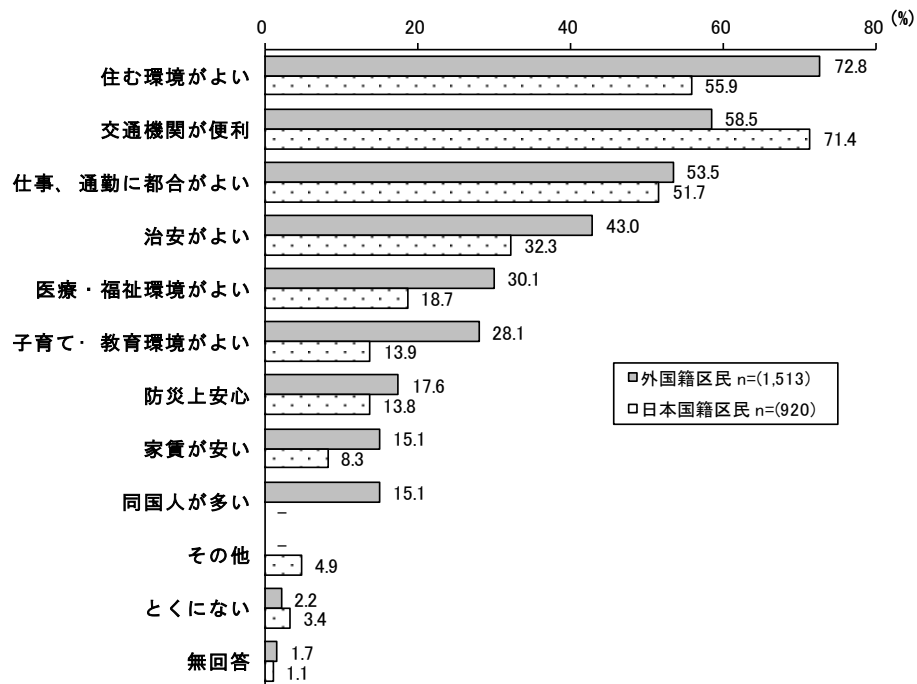
(2) 江東区に住んで良かったこと

問7 江東区に住んで良かったことは何ですか。【○はあてはまるものすべて】

(外国籍区民:問7、日本国籍区民:問2)

江東区に住んで良かったこと・助かったこととして上位を占める項目は外国籍区民、日本国籍区民共に同様だが、外国籍区民は「住む環境がよい」72.8%、「交通機関が便利」58.5%の順であるのに対して、日本国籍区民は後者(71.4%)が前者(55.9%)を上回る。

《複数回答》



※選択肢「同国人が多い」は、外国籍区民アンケートのみ。

※選択肢「その他」は、日本国籍区民アンケートのみ。

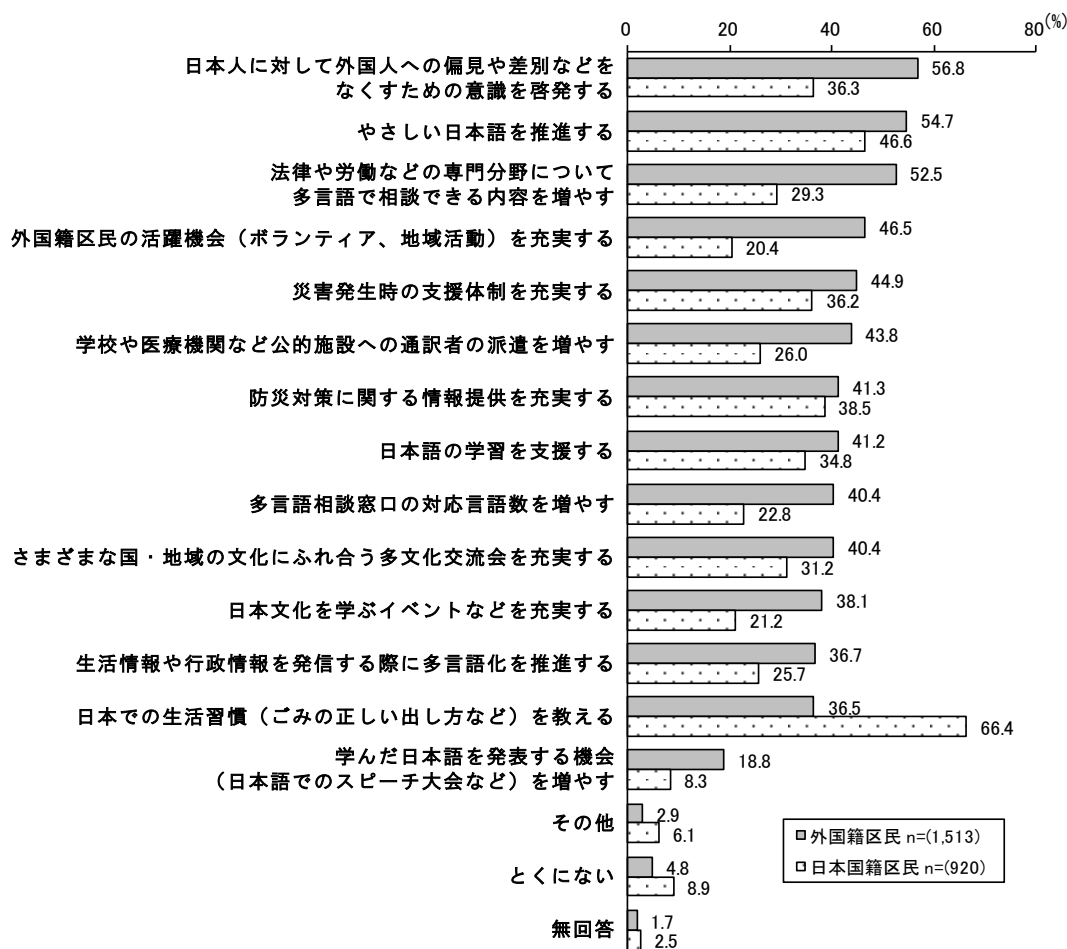
(3) 多文化共生に向けて区に期待する取組

問12 多文化共生を推進するにあたって、あなたが江東区に期待する取組は何ですか。
【〇はあてはまるものすべて】

(外国籍区民:問12、日本国籍区民:問5)

多文化共生に向けて区に期待する取組をみると、ほとんどの項目で外国籍区民があてはまると回答した割合が日本国籍区民より高くなっており、特に「日本人に対して外国人への偏見や差別などをなくすための意識を啓発する」(56.8%)、「やさしい日本語を推進する」(54.7%)、「法律や労働などの専門分野について多言語で相談できる内容を増やす」(52.5%)が5割を超えている。一方、日本国籍区民は「日本での生活習慣(ごみの正しい出し方など)を教える」(66.4%)の割合が突出して高くなっている。

《複数回答》



第5章 共通設問の比較

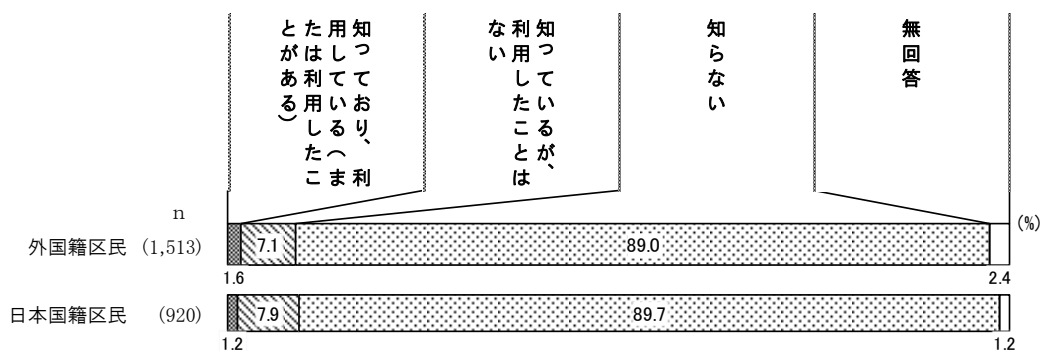
(4) 区以外が取り組んでいるサービスの認知度

問13 江東区国際友好連絡会（I.F.C.）など、区以外が取り組んでいる活動を知っていますか。【〇は1つだけ】

(外国籍区民:問13、日本国籍区民:問4)

区以外が取り組んでいるサービスの認知度は、外国籍区民、日本国籍区民共に「知らない」が約9割を占める。

《単一回答》



2. 日常生活

(1) 日本での生活で困っていること・心配なこと

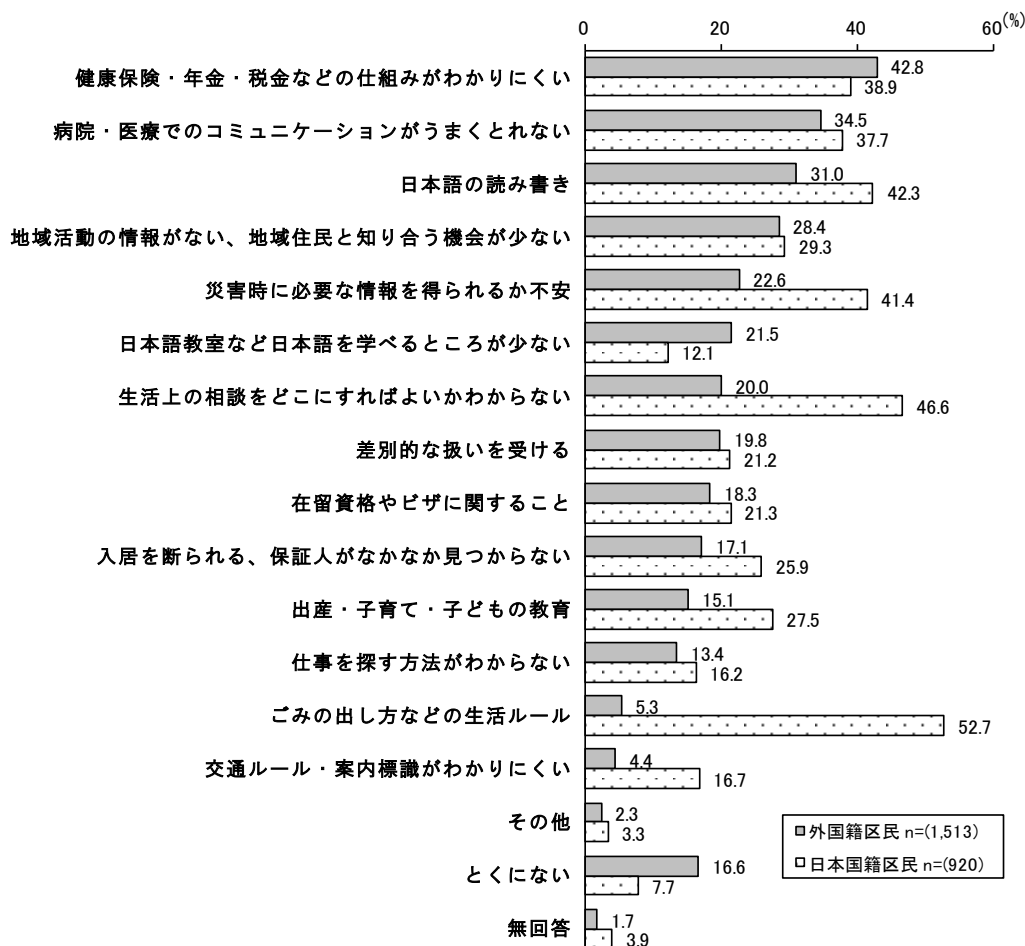
問14 これまで日本で生活していて、困ったことや心配なことはありますか。

【〇はあてはまるものすべて】

(外国籍区民:問14、日本国籍区民:問6)

日本国籍区民では、外国人が日本での生活で困っていると思うこととして、「ごみの出し方などの生活ルール」(52.7%)、「生活上の相談をどこにすればよいかわからない」(46.6%)、「日本語の読み書き」(42.3%)、「災害時に必要な情報を得られるか不安」(41.4%)等の割合が高くなっている。一方、外国籍区民では、多くの項目が日本国籍区民よりも割合が低く、特に「ごみの出し方などの生活ルール」は5.3%と日本国籍区民の認識と大きな差がある。なお、外国籍区民では「健康保険・年金・税金などの仕組みがわかりにくい」と回答した割合が42.8%で最も高くなっている。

《複数回答》



※タイトル「日本での生活で困っていること・心配なこと」は、日本国籍区民アンケートでは「外国人が日本での生活で困っていると思うこと」となる。

3. 防災関連

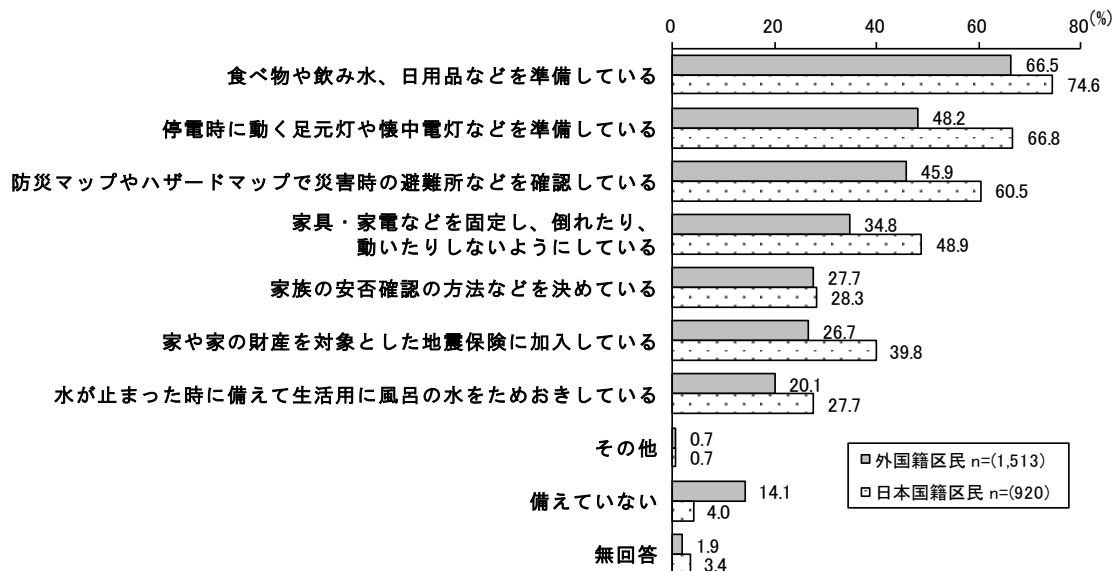
(1) 災害への備え

問19 次にあげるものは地震などの災害時に備えておく必要があります。この中でどれを備えていますか。【〇はあてはまるものすべて】

(外国籍区民:問19、日本国籍区民:問7)

災害への備えは、外国籍区民、日本国籍区民共に「食べ物や飲み水、日用品などを準備している」、「停電時に動く足元灯や懐中電灯などを準備している」、「防災マップやハザードマップで災害時の避難所などを確認している」の順で多くなっている。また、全ての備えの回答割合で日本国籍区民の方が高くなっており、「備えていない」は外国籍区民が日本国籍区民よりも10ポイントほど高い。

《複数回答》



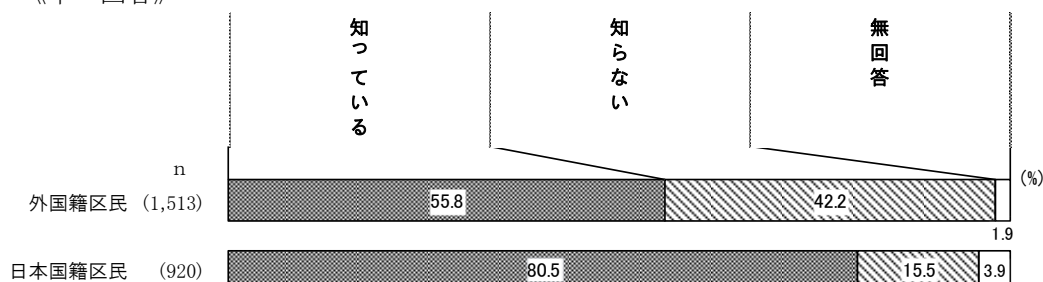
(2) 避難所の認知度

問20 避難所は住んでいる場所によって違います。自分が避難する所を知っていますか。【〇は1つだけ】

(外国籍区民:問20、日本国籍区民:問8)

避難所の認知度は、日本国籍区民の80.5%に対して外国籍区民は55.8%にとどまっている。

《単一回答》



4. 地域とのつながり

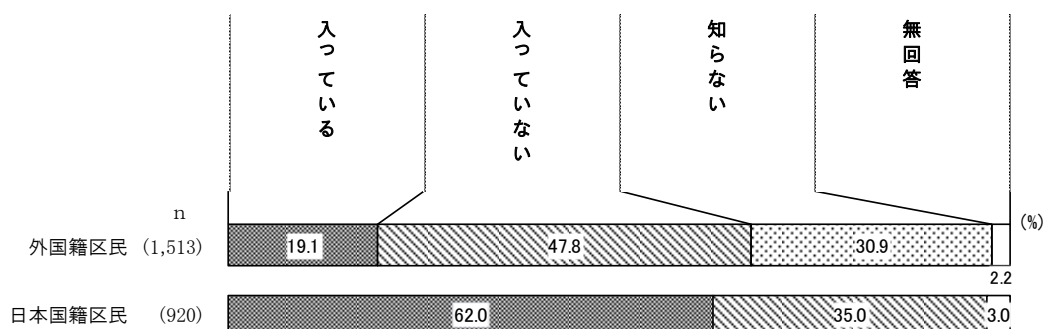
(1) 町会・自治会への加入状況

問22 町会・自治会に入っていますか。【〇は1つだけ】

(外国籍区民:問22、日本国籍区民:問9)

町会・自治会への加入率は、日本国籍区民の62.0%に対して外国籍区民は19.1%となっている。

《単一回答》



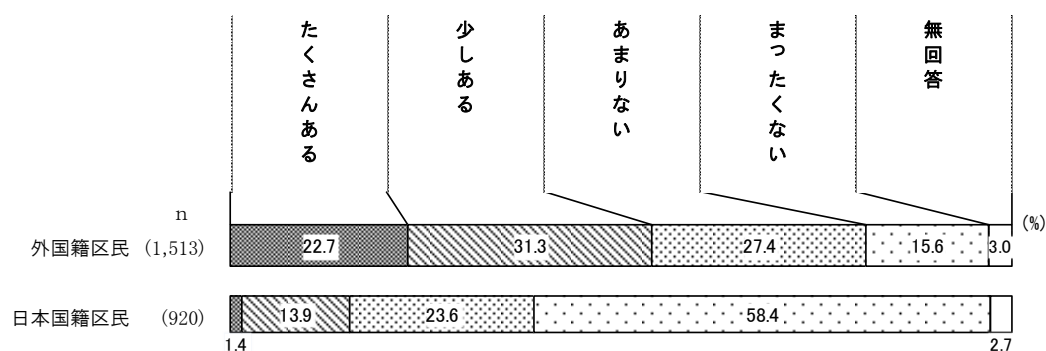
(2) 地域に暮らす日本人との交流

問24 地域に暮らす日本人と交流する機会がありますか。【〇は1つだけ】

(外国籍区民:問24、日本国籍区民:問10)

地域で交流する機会が「たくさんある」と「少しある」を合わせた『ある』割合は、外国籍区民の54.0%に対して日本国籍区民は15.3%となっている。

《単一回答》



※タイトル「地域に暮らす日本人との交流」は、日本国籍区民アンケートでは「地域に暮らす外国人との交流」となる。

第5章 共通設問の比較

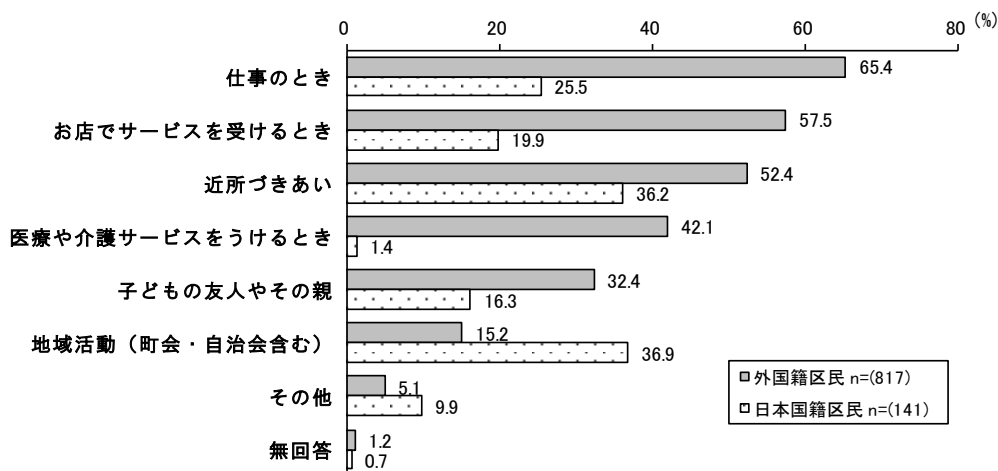
(3) 日本人と関わる場面

地域内で日本人と関わるのはどのような場面ですか。【〇はあてはまるものすべて】

(外国籍区民:問24-1、日本国籍区民:問10-1)

日本国籍区民が外国人と関わる場面は、「地域活動(町会・自治会含む)」(36.9%)や「近所づきあい」(36.2%)の割合が高いが、外国籍区民はそれ以上に「仕事するとき」(65.4%)や「お店でサービスを受けるとき」(57.5%)の割合が高くなっている。

《複数回答》



※タイトル「日本人と関わる場面」は、日本国籍区民アンケートでは「外国人と関わる場面」となる。

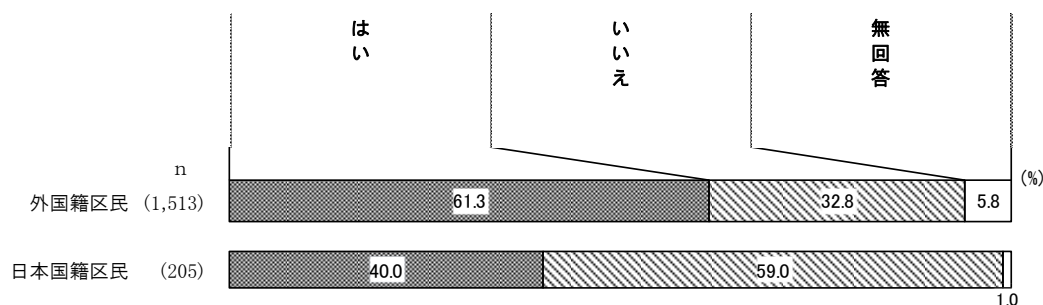
(4) ボランティアなどの協力意向

問27 今後、区やNPOなどで通訳・翻訳ボランティアなどの協力募集があったら協力したいと思いますか。【〇は1つだけ】

(外国籍区民:問27、日本国籍区民:問14-1)

ボランティアなどの協力意向は外国籍区民の61.3%に対して、日本国籍区民は40.0%となっている。

《単一回答》



(5) 相互理解のために、相互に求めること

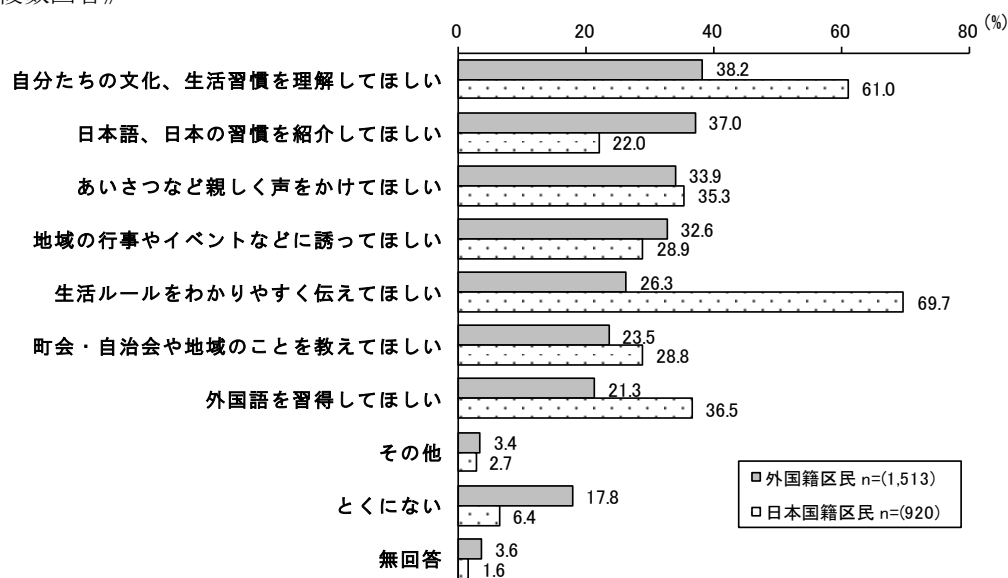
問28 日本人とお互いの理解を深めるために、日本人にしてほしいことは何ですか。

【〇はあてはまるものすべて】

(外国籍区民:問28、日本国籍区民:問18)

相互理解のために日本国籍区民が外国人に求めることは、「生活ルールを知ってほしい」(69.7%)と「日本の文化、生活習慣を理解してほしい」(61.0%)の2つが特に多くなっている。一方、外国籍区民は「自分たちの文化、生活習慣を理解してほしい」(38.2%)や「日本語、日本の習慣を紹介してほしい」(37.0%)など、生活ルールよりも、相互理解を望む意見が多くなっている。

《複数回答》



※外国籍区民アンケート選択肢「自分たちの文化、生活習慣を理解してほしい」は、日本国籍区民アンケートだと選択肢「日本の文化、生活習慣を理解してほしい」となる。

※外国籍区民アンケート選択肢「日本語、日本の習慣を紹介してほしい」は、日本国籍区民アンケートだと選択肢「外国語、外国の習慣を紹介してほしい」となる。

※外国籍区民アンケート選択肢「地域行事やイベントなどに誘ってほしい」は、日本国籍区民アンケートだと選択肢「地域行事やイベントなどに参加してほしい」となる。

※外国籍区民アンケート選択肢「生活ルールをわかりやすく伝えてほしい」は、日本国籍区民アンケートだと選択肢「生活ルールを知ってほしい」となる。

※外国籍区民アンケート選択肢「町会・自治会や地域のことを教えてほしい」は、日本国籍区民アンケートだと選択肢「町会・自治会や地域のことを知ってほしい」となる。

※外国籍区民アンケート選択肢「外国語を習得してほしい」は、日本国籍区民アンケートだと選択肢「日本語を習得してほしい」となる。

江東区外国籍区民及び日本国籍区民 意識・意向調査報告書

令和4年3月発行

印刷物登録番号 (3) 107号

担 当 江東区地域振興部地域振興課
多文化共生・国際化推進担当

実 施 (株) サーベイリサーチセンター
